

成田山事業年報

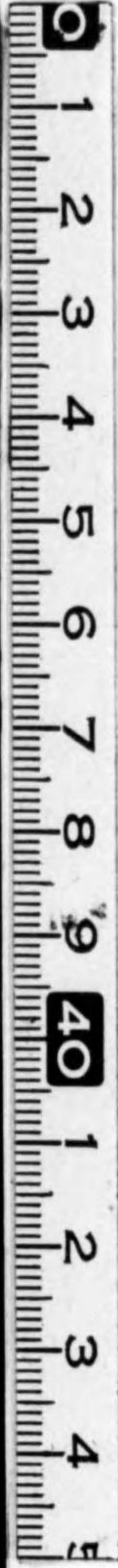
昭和九年

258
101

258. 2-101



1200501346609



始

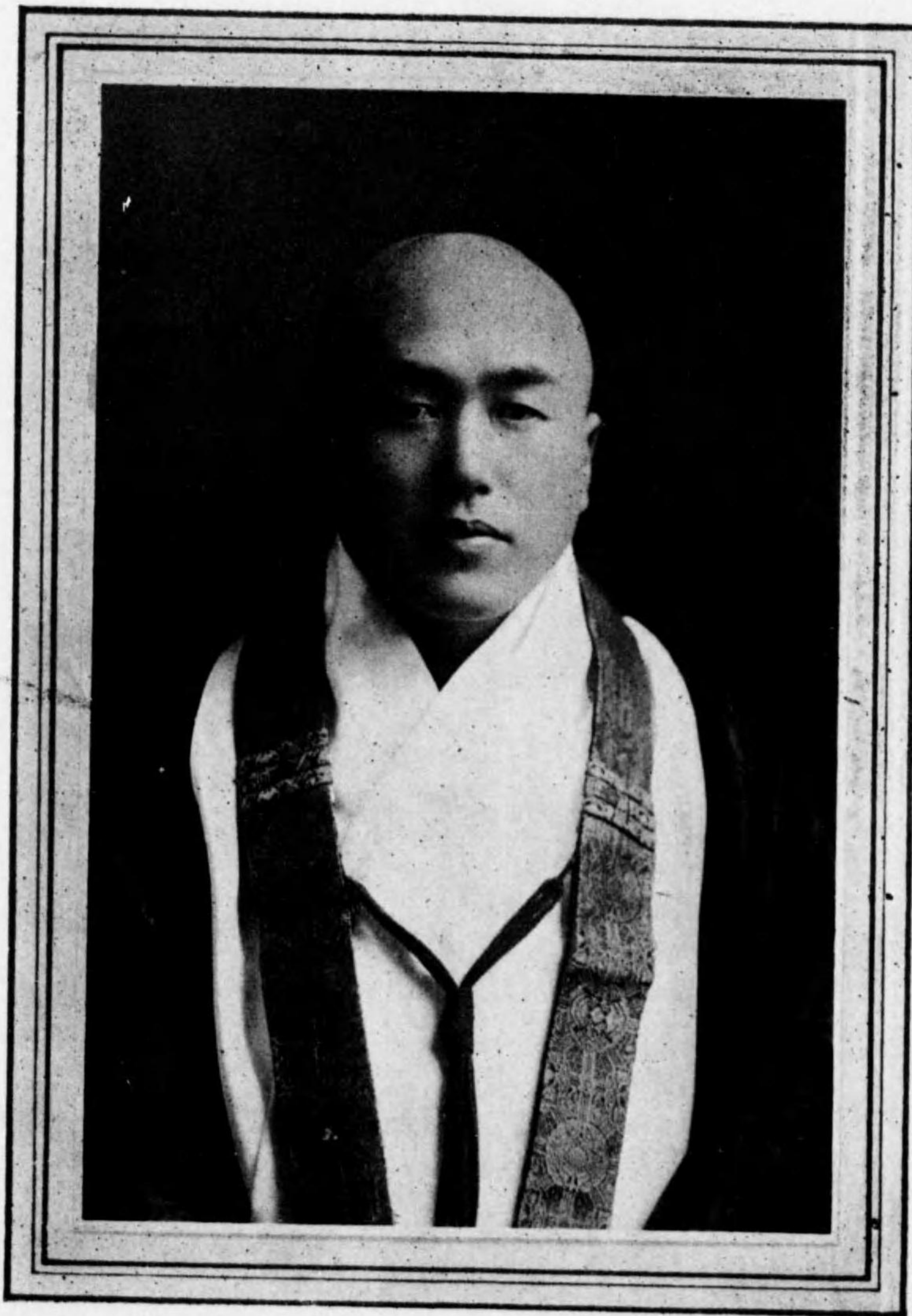


成田山事業年報

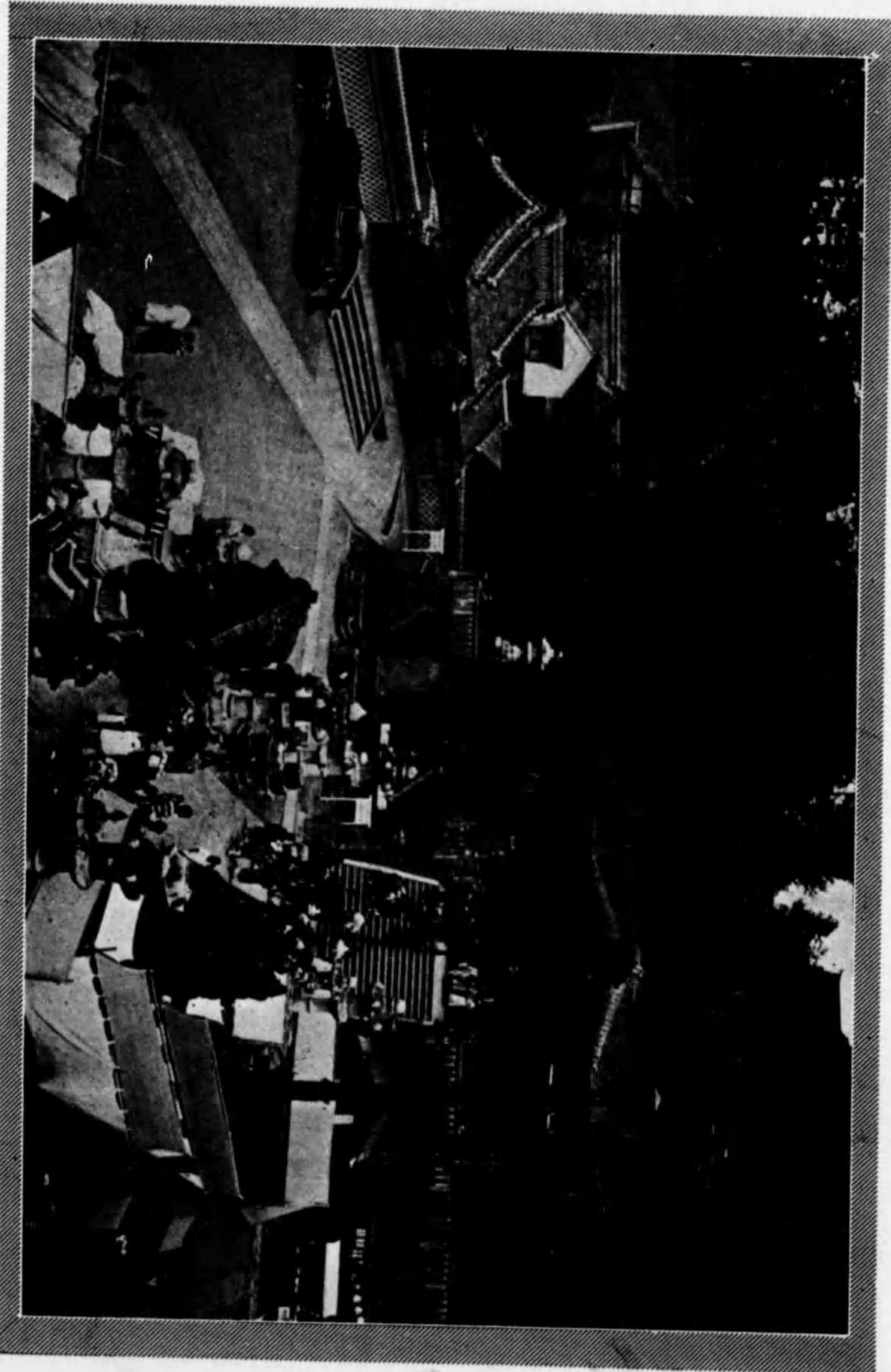
昭和九年

目次

成田中學校一覽	自一頁至四九頁
成田高等女學校一覽	自一頁至二七頁
成田幼稚園一覽	自一頁至八頁
成田學園一覽	自一頁至一六頁
成田圖書館一覽	自一頁至一六頁
新更會一覽	自一頁至二〇頁



主 山 木 荒



成田山仁主門



成田中學校一覽

設立の趣旨	一
教育方針綱領	一
本校學習精神	一
本校學生精神に就て告ぐ	三
沿革大略	五
學 曆	六
成田中學校々則	一三
職員表	一四
生徒表	一四
英漢義塾卒業生人名	二〇
卒業生人名及現況表	二二
卒業生及生徒郡別表	四九
經費	四九



成田圖書館 寄贈本

東京女子高等師範學校教授

文學博士 舟 尾上八郎氏作歌

學習院教官

王 小松耕輔氏作曲

(一) 東の海の夜あけて

うねりよる思想の怒濤

大八洲岩をもとよす

さめよさめよ成邱の健兒

(二) 靈域は不落のとりで

御すがたは降魔の守

葉牡丹の校旗もとに

つぎへつぎへ成邱の健兒

(三) 勤勉と克己と慈悲と

忠勇と剛毅と素朴

楯となし劍となして

立てよ立てよ成邱の健兒

(四) すまじき主義のたゝかひ

おそろしき智識のいくぢ

國のため勝利の冠

とれよとれよ成邱の健兒

(第十八回卒業生寄贈)

備(音城高き時は)調にて歌ふも可なり
考(メトロノーム) 1. 48



生業卒回三十三第及員職教

東京女子高等師範學校教授

文學博士 尾上八郎氏作歌

學習院教官

玉小松耕輔氏作曲

(一) 東の海の夜あけて

うねりよる思想の怒濤

大八洲岩をもとよす

さめよさめよ成邸の健兒

(二) 靈城は不落のとりで

御すがたは降魔の守

葉牡丹の校旗もとに

ついでついで成邸の健兒

(三) 勤勉と克己と慈悲と

忠勇と剛毅と素朴

楯となし劍となして

立てよ立てよ成邸の健兒

(四) すまじき主義のたゝかひ

おそろしき智識のいくさ

國のため勝利の冠

とれよとれよ成邸の健兒

(第十八回卒業生寄贈)

附(音城高き時はへ開にて歌ふも可なり
メトロノーム 85)



卒業生第三十三回及職員教

價の下に、その本質を誤らざらん事を要す。

武道は、その剛毅、禮讓、果敢の體待によりて、一般體育競技並に軍事教練に相俟ちて、吾等祖先が熱血單めて建設せる國民的徳操としての精神的血潮の流れの跡を如實に體認せんむべきものなり。

學科は、大凡ちて人文系統に屬するもの、自然科学系統に屬するものとの二つをなすを得。雖も、總じていへば、何れも其究むる所に於て、人生知の問題として近代的聰明さを増進せんとするものに外ならず。而もその各々の分科は、何れもその唯一無双なる特殊の價値を以て真理を究めんとするものなれば、學科自體の上より論ずれば輕重の差ある事なし、殊に從來單なる記憶學科として考へられたる弊風あるものは特にその本質を知るを要す。例へば、國史の如きは、皇祖發詳以來吾等の祖先が累代努力創建せる磅礫たる國民的意氣の發現として、民族理想の深奥を明にし、以て皇國の使命を知るに共に、博大的識見と明徹の洞察とを併せ養はんとするものなり。末梢的記憶の學科に心得るが如き謬見は、直ちに取つて以て捨つべきなり。國文の研究に於ても亦然り。苟も價値の充實せる創作には、作者の意識の潜在に論なく、それを通じて、その個性の中に織込まれたる歴史と社會との影響あり。直覺的なる思想を僅か一連の文字に托す雖も、その中に潜む香高き個性は純

一無二なる輝きを有つものなれば、その眞の意味を體認せんとする事を研究の對象と心得べきなり。

外國の歴史、外國の文學、若くは一般藝術に關しても亦同じ更に數學、物理化學、地理、博物等の如き世界知に關する學問にありては、常に宇宙認識の過程をその中に藏するものにして一木一草の末にも一塊の土石の存在にもその神祕は世界哲理の謎として深く吾等の好奇と探究とを促すものなり。

是等世界知の研究も、その極まる所は、更に一轉して人生知に關する一層深き解釋となつて吾等の前途を指示するものなれば、各學科の最究極に於ては、その目的は歸一するものなり。雖も、それは各科最終の意義にして、學ぶものは先づその特殊の價値を飽くまで究めんとして精進努力する事を要す。

惟ふに、人生は眞理を追及する無限の一大道場なり。疑惑も混沌も懊惱も一途突進につぐ突進を以て之を擊破せざるべからず。眞理の扉は之を開かんとするものによりてのみ開かる。

男子學に志しては、自ら立案し、計畫し、工夫し、努力し、目的を貫徹せねば一步も退くべからざるなり。

近代的睿智と國民的氣魄との二つは、相俟ちて吾等國民の教養の精華を發揮し得べき二大要素なり。その一つを欠けば、一は頑冥固陋となり、一は輕佻浮華となる。現代國家を眞に双肩に擔つて立たんことを志す青年はこの理を十分に辨へて誤るべからず。

本校學生精神に就いて告ぐ

(昭和七年四月諭告)

予は前に、昭和三年九月、本校教育精神と、學習精神とにつきて、全校生徒に布告し、之を生徒心得の中に載せて、諸子の以て、就き赴く可き道を指示せり。

爾來、星霜既に三年有半、諸子の力むる所、必ずしも少しもせず。しかも、予より之を觀れば、内に未だ志操の確立強しとは言ふべからず、操守また、毅然として自覺の大道に仍つて皎々たる一路、不滅の光明を放つものとは斷ずべからず。

茲に、再び、その精神の所由を説きて、諸子研鑽努力の方向に誤りなからん事を期す。

日本國民の節操は、建國當初より發展せる士道精神にある事前回之を述べたり、この士道精神の首徳は、忠にあり、齡の多少を論ぜず、苟も日本民族の精神を有するものは、胸中常に深く之を藏し、時あつて發すれば、金鐵雖も尙之を粉碎して皇國の守りならんとするものなる事、諸子は、諸子自らの胸奥を探らば、自ら肯くものあらん。

而して、士道精神に於ける恒常の徳の中、特に、重要なものとして剛毅と禮節とを選びて、諸子の研鑽あらん事を期待せり。

剛毅の精神は、その顯現を、内外二つの意義に従つて、思料

する事を得。

その外に現はる、や、萬難不屈の形象を具し、その目的を立つて進むや、波濤、脚下の砂礫を奪ひて、將に倒れんとするこも、盛返し、又盛返しして、最後まで屈するの事なきが如く、練磨、久しふすれば、遂に如何なる困苦に遭ふも、泰然として崩る、なし。

人生の希望は、夢幻にもあらざれば僥倖にも非ず、若し、不屈不撓の精神によつて導かれざるならば、それは、青春の一朝の幻影か、一時の低き歡樂のみ。

剛毅の精神内に發動すれば、良心の命令に従つて、内面の自我を規正し、毅然として、善の規範の下に服し、聊も懈怠あるべからず。

行に、陰陽、表裏ある者あるは、痴愚の輩に非ずんば、か、内面的剛毅の欠けたるに由る。

任務を遂行しては決して誤らず。その負責の任を全うするも學を修めては決して怠らざるも、或はまた惡聲嘲罵の聲は論ずるまでもなし、亂舞歡樂の誘惑にも、耳を傾けずして、我が信念を守らんとするも皆この精神の發露による。

青少年の慎んで戒むべきもの二つあり。一つは内心に起る諸欲情にして、一つは逸樂を求むる遊惰心なり。

この時、自ら端然として操寺、斷乎自己を崩さざる大精神こ

そ、諸子を、より高き人間に創造し行く、唯一無二の道を知るべきなり。

禮節の道は、禮義、辭讓の精神によつて、表現せらる、之を以て、禮讓といふも可なり。

禮の最大精神は、人格の畏敬にあり、人格は人生に於ける最高の價值なり、禮は、この自他、人格の尊嚴に對する畏敬なり。

人格とは、自覺による反省の無限の統一力を謂ふ。

洋々として、限りなき海にも比すべき我が心に、省みて過ちあれば、決然として再びせざらん事を誓ひ、正しくんば、益々その向上を思ふ奮發勉勵、常に前を望んで一步をも忽にせざる精神の大小高下は即ち人格の大小高下を決定す。

人格は自敬の精神に出發して自敬に終る。自己の人格に對する畏敬なきものは、また、他の人格に對する畏敬をも理解する能はず。

自敬の本質は、我がまこゝをたづぬるなり。

故に禮は、我が内面に存する、まこゝの客觀的にして且つ必然の表現なり。

禮に非んば視ず、禮に非んば聽かず、禮に非んば動かざるは、聰明睿智、情操の高潔俊邁を具ふるものに非んば、知ることも行ひ得ざるなり。

禮は、かく人間性の高き根本的要素の上に立脚するが故に、

内心を整へ、内心を清らかにすべきなり。

辭讓は、外には、先輩を敬する道にして、内には己れを緊しむるの道なり。先輩後輩を論ぜず、他人の言は常に傾聽するの雅量なかるべからず、如何なる言も雖もこの言、眞摯ならば味ふべき眞理必ず内に含まれん。

我はまた、正しき理由に必要を、有せざる限り、妄りに輕卒なる言動に及びて、徒らなる自己表現の愚に陥る勿れ、内に藏するもの少なきものは、由來口舌の輩なる事多し。

以上、述べたる剛毅も禮節も、人間精神の深奥より出づるものなれば、若し、之が自覺の精神より出づるに非ざればそれは醜を蔽ふ表面の假裝に過ぎず。青年には、青年特有の文化精神あり青年文化の本源は常に純粹道徳より出づ。

純粹道徳の本源は、利によつて動かず、道によつて動くの精神にあり、かくて、自我の審判は自我にあり。

本校生徒たるものは、行動苟も、利によつて動くべからず、道によるべし、己れを利する事も、他人を利する事も、道にかなへばよし、かなはざれば悪なり。

而して、その最後の審判は常に諸子の胸に聽け。

（本校自治會規約昭和三年九月制定セラレタルモ五年十月一日之ヲ停止ス）

◎沿革大略

私立成田中學校は、明治三十一年十月七日文部大臣の認可を得て、舊成田英漢義塾を改稱せるものにして、圖書館、高等女學校、幼稚園、學園及び新更會と共に成田山新勝寺の施設せる社會文化事業の一に屬す。

(一)英漢義塾時代

明治二十一年八月新勝寺住職正七位大僧正三池照鳳師が、地方中等教育機關の缺乏を歎じ、石川甚兵衛（先代）諸岡勝太郎（先代）の両氏と謀りて設立せる、中學程度の學塾にして修業年限を三ヶ年とし、高等小學校卒業以上及び夫れと同等以上の學力ある者を收容するこゝとせり。全く三池大僧正の篤志に出でしものなり、宮村三多氏最初の塾長に任命せられ、二十三年第一回の卒業生を出せり。斯くて年々卒業生を送りて第九回に及び、其間別に選科履修生を卒業せしむるこゝとあり。三十一年七月新勝寺院代少僧正服部照和師は當時在歐中なりし塾主前貫主石川大僧正の命を受けて、中學校認可を文部大臣に稟請す。乃ち千葉縣知事阿部浩氏の實地視察となり、遂に其年十月七日成田中學校と改稱の件認可せらる。英漢義塾として存立せしこゝ實に十年五ヶ月。此間塾長更迭は宮村三多氏以下濱田義雄、福田龜太郎、和田玉一の四氏に及びり。當時塾舎は成田

東谷なる現圖書館の位置にありき。

(二)現中學校時代

明治三十一年十月成田中學校と改稱の件認可せらる、や、直ちに現校舎の新築工事を起し、三十三年六月竣功す。是より先き同年三月には徵兵猶豫の特典を附與せられ、又校主前貫主石川大僧正の歸朝せらる、あり、遂に六月二十七日を卜して落成式を舉行す、文部大臣樺山資紀氏以下、朝野の名士多數の參列あり。斯くて三十一年創立以來本年三月に至るまで、三十三回卒業生を送り、其數千百三十七名に及びり此間文部次官奥田義人商工局長木内重四郎、板垣退助伯、文部省普通學務局長田所美治、文部省參政官大津淳一郎、陸軍大將福島安正、文科大學長上田萬年、千葉縣知事石原健三、同折原已一郎等の諸名士或は卒業式に、或は實況視察に臨校せられ、本山社會文化の努力に深甚の敬意を寄せらる。明治二十一年英漢義塾創立以來年を閲するこゝ實に四十六年其中學と改稱せしより三十七ヶ年に及びり。

昭和七年創立第三十五周年記念式を舉行

故三池、石川、服部僧正、故石川正英翁、諸岡勝太郎氏、墓前報告を行ひ三理橋事に感謝狀を贈る。

本校制度として理事を置きて之を管理す、三橋金太郎氏本校創立以來より、理事として勤務し昭和三年四月石川甚兵衛氏本

校專務理事として今日に及び校舎の擴張教育の振興に努力す。校長及び校務主監の去就に左の如き記録を有す。

喜田 貞吉 明治三十一年十一月學校長就任

竹内 楠三 明治三十二年八月喜田氏に代はる

校主石川 照勤 明治三十四年七月竹内氏辭任に付學校長兼任

(此時より校主自ら校長を兼ね)

栗根 鐵藏 明治三十五年七月校長事務代理を命ぜらる

白鳥 庫吉 明治四十一年九月本校顧問を囑託す

葛原運次郎 明治四十一年九月栗根氏に代り校務主監とし

て就任

(校主は中學校長女學校長を兼ね各校には主監を置き
て校務を統督せ)

佐竹 元二 大正二年七月葛原氏に代りて主監に任ぜらる

佐藤 禮云 大正五年三月佐竹氏に代りて主監に任ぜらる

濱田丑之助 大正八年七月佐藤氏に代りて主監に任ぜらる

名川 彦作 大正九年九月濱田氏に代りて主監に任ぜらる

笹川 種郎 大正十三年一月學校長に任ぜらる

(再び學校長を獨立に任命して校務を統督す)

小林 力彌 大正十四年三月學校長に任ぜらる

増田 榮 昭和三年五月小林氏に代りて校長に任ぜられ
現在に到る

◎學 曆

四 月 九 日 始業式、入學式

十 日 不動尊參拜

十六日 校友會各部會計報告

十八日 新人生指導會

二十九日 天長節祝賀式

五 月

二 日 身体検査、口腔検査

五 日 端午祭

二十七日 海軍記念日

下旬 剛健旅行

六 月

三 日 故三池照鳳師命日慕參

縣下中等學校劍道大會

十 日 縣下中等學校柔道大會

中旬 四年生宮城並ニ明治神宮參拜旅行

五年生皇大神宮參拜旅行

七 月

十一日 各科成績表提出、操行會議

十六日 各學年成績一覽表作製完了、成績會議

十八日 父兄會

十九日 備品検査

二十日 終業式成績發表

二十一日 水泳教練

二十四、二十六日 武道暑中稽古、縣下庭球大會

八 月

八 月

九 月

一 日 始業式、不動尊參拜

十六日 縣下陸上競技大會

二十四日 秋季皇靈祭

二十八日 學藝大會

十 月

七 日 第三十七回創立記念日

十八日 野外演習

十九日

三十日 勅語御下賜記念日

私立成田中學校一覽

中 旬 綜合式研究教育全國大會

十一月

一 一七日 体育週間

三 日 明治節祝賀式

四 日 陸上運動會

五 日 剛健旅行

校友會各部大會

十二月

十七日 各科成績表提出、操行會議

二十一日 各學年成績一覽表作製完了

成績會議

二十二日 實彈射擊及兵營見學

二十四日 終業式、成績發表

一 月

一 日 新年拜賀式

八 日 始業式、不動尊參拜、校主へ年賀

十九日ヨリ 武道寒稽古

十九日マデ 武道大會

三十一日 故石川照勤師命日慕參

上 旬 書初展覧會

二月

- 十一日 紀元節祝賀式
- 二十二日 第五學年各科成績表提出、操行會議
- 二十五日 郡下各小學校長會合懇談會
- 二十八日 卒業成績一覽表作成完了
- 卒業判定會議

三月

- 一日 卒業成績表發表
- 三日 卒業式
- 六日 地久節
- 十日 陸軍記念日、入學願書切
- 十二日 各科成績表提出、操行會議
- 十三日 成績一覽表作成完了
- 十六日 進級判定會議
- 十八日 入學試驗準備、入學資格檢定
- 十九日 入學試驗
- 二十一日 春季皇靈祭、入學試驗結果發表
- 二十三日 會計、備品、諸帳簿、檢査
- 二十五日 終業式、成績發表

成田中學校校則

第一章 總則

- 第一條 本校生徒定員は四百五十名とす
- 第二條 本校の修業年限を五箇年とし一年を以て一學年とす但學年は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る
- 第三條 一學年を分ちて三學期とす左の如し
 - 第一學期 四月一日より八月三十一日に至る
 - 第二學期 九月一日より十二月三十一日に至る
 - 第三學期 一月一日より三月三十一日に至る
- 第四條 休業日左の如し
 - 各日曜日、開校記念日(毎年十月七日)大祭日、祝日、夏期休業(七月二十一日より八月三十一日に至る)冬期休業(十二月二十五日より一月七日に至る)春季休業(三月二十五日より四月七日に至る)
- 第二章 學科課程及授業時間
 - 第一條 各學科の配當並に毎週の時間數は左表に依る

學科課程 每週教授時間表

科目	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		第五學年	
	數	時	數	時	數	時	數	時	數	時
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
公民科	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
國語漢文	七	七	六	六	六	六	六	六	六	六
歷史	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
地理	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
外國語(英語)	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
數學	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
理科	二	二	三	三	三	三	四	四	四	四
實業							五	五		
圖畫	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
音樂	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
作業科	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
体操	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
計	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

私立成田中學校一覽

第三章 課程の選修

第一條 生徒は第四學年以後に於ては第一種課程若しくは第二種課程の何れかを選修するものとする
第二條 課程の選修は第三學年の終りに保證人連署の上願ひ出て學校長の許可を受くべし

第四章 考査

第一條 各學年の課程の終了又は全學生の卒業は平素の學業成績並に操作を考査して之を定む

第五章 入學退學休學及賞罰

第一條 生徒の入學は毎學年の始まる但缺員あるときは第二期の始めに於て募集することあるべし
第二條 本校第一學年に入學を許可すべきものは尋常小學校第六學年卒業のもの及び入學資格檢定に合格せるものにつき入學考査を執行し選衡す
第三條 入學資格檢定は尋常小學校卒業程度に依り全學科に就いて之を行ふ
第四條 第二學年以上に入學を許可すべきものは相當年齢に達し其學年に相當する學力檢定に合格したるものに限る
第五條 他の中學校より轉校せんと欲するものある時は缺員ある場合に限り入學を許可することあるべし但全學科に就きて檢定を行ふ

第六條 本校に入學せんと欲するものは體格檢査に合格するを要す

第七條 入學を希望するものは本校所定の用紙に必要事項を記入の上願ひ出すべし

第八條 入學の許可を得たるものは一週間以内に左式の在學證書並に戸籍謄本を差出すべし

第九條 保證人は二名を要し其の一名は親權者後見人親族とし他の一名は成田町在住の一家計を立つる男子とす

在學證書 (用紙半紙 二つ折り)

印.....保證人の印

三錢入紙印

私儀今般入學御許可相成候に付ては在學中御規則命令等堅く遵奉可仕候也

往所

誰子弟 族籍 姓名 年月日

前記之通相違無之候に付拙者保證人に相立ち御規則命令等堅く相守らせ本人に關する事件一切引受可申候也

住所

族籍職業 右保證人(父) 姓名 名印

住所千葉縣印旛郡成田町大字

番地

年月日 右保證人 姓名 名印

成田中學校長 何某殿
右保證人(成田町在住)は丁年以上の男子にして本町内に於て一家計を立つる者に相違無之候也
年月日 千葉縣印旛郡成田町長 何某印

私立成田中學校一覽

第十條 保證人の資格上不適當と認むるときは之れを變更せしむることあるべし

第十一條 左の場合に於ては退學を命ず

- (一) 性行不良にして改善の見込なしと認めたるもの
- (二) 學力劣等にして成業の見込なしと認めたるもの
- (三) 引續き一箇年以上缺席したる者
- (四) 正當の事由なくして引續き一ヶ月以上缺席したる者
- (五) 授業料怠納二ヶ月以上に亘るもの
- (六) 疾病事故に因り學業を履修する能はざるものと認むるもの
- (七) 出席常ならざるもの

第十二條 中途退學せんと欲するものは保證人連署を以て其理由を具し願出づべし

第十三條 生徒兵役に服する場合は休學を許可す

第十四條 品行方正學術優等の者には賞品賞狀を授與す但持に優秀なるものにありては一學年間の授業料を免除することあるべし

第十五條 規則命令に違反し又は校紀を紊るものは戒飭謹慎停

學放校の罰に處す
第十六條 學校の建物器具器械標本を毀損又は亡失したるときは相當の賠償をなさしむることあるべし

第六章 授業料及入學料

第一條 授業料は一ヶ月金三圓五拾錢ニす
第二條 生徒在學中は出席の有無に披はらず毎月五日迄に納むべし但毎年八月は納むるを要せず
第三條 授業料納附期日を過ぎ五日以内に尙ほ納めざるものは納入済まで停學を命じ保證人をして之れを納めしむ
第四條 入學志願者は入學考査料金壹圓を納め入學の許可を得たるときは更に入學金壹圓を納むべし
第五條 左の各項に該當するものは授業料を減免す

- (一) 學力優等品行方正にして他生の模範たるべきもの
- (二) 戰時若しくは事變に際し召集せられたる者の子弟
- (三) 貧困にして資力なく學力品行共に佳良なるもの

但第三項の場合に於ては父兄又は後見人より特に願書を差出さしめ又本人に對しては相當の義務を負はしむ
第六條 休學を許可したる場合は授業料を徵集せず

第七章 服 制

第一條 生徒登校の時は必ず制服制帽を用ふべし

第二條 制帽の地質は黒羅紗にして本校の徽章を附すべし
第三條 制服の地質は紺色又は黒色の小倉織にして詰襟ホック止めニす

但し夏服は霜降りの小倉織りニす

第四條 靴は黒色編上げを用ふべし

第五條 外套は指定の型により黒羅紗金ボタン付ニす

但し、一、二、學年生徒は調製せざることを得

第六條 制服を汚損したるもの若しくは身体上の故障により着用不能なるものは許可を得て代用服を着用することを得

第七條 代用服は筒袖にして袴を着用すべし

第八條 新入學生に限り指定の期間中代用服を許可す

第八章 附 則

本校則は昭和六年四月一日より之を施行す

本校則施行に關する細則生徒取締に關する規定及び其他必要なる内規は學校長之を定む

◎ 職 員

受持學科	職 名	氏 名	族 籍	就 職 年 月
修 身	校長兼教諭	荒 木 照 定	千葉縣	大正十三年二月
英 語	教務主任	增 田 榮 助	靜岡縣	昭和三年五月
博物一般理科	教 諭	西 原 鹿 之 助	靜岡縣	昭和四年四月
物理化學	教 諭	久 住 雅 治	靜岡縣	昭和七年二月
國語漢文	教 諭	瀧 澤 榮 亮	千葉縣	大正十二年二月
地理公民商業	教 諭	片 山 辰 雄	長崎縣	昭和四年四月
英 語	教 諭	寺 内 繁 保	千葉縣	昭和十四年四月
英語公民	教 諭	富 山 村 繁	鹿兒島縣	昭和八年四月
國 語	教 諭	下 村 健 一	高知縣	昭和八年四月
歴 史	教 諭	三 門 健 一	京都府	大正十五年四月
歴 史	教 諭	廣 岡 健 一	京都府	昭和四年九月
體 操	教 諭	下 平 翅 雄	群馬縣	昭和七年九月
數 學	教諭(休職)	伊 藤 優 助	兵庫縣	昭和六年四月
數 學	教 諭	藤 田 貞 之	大阪府	昭和五年四月
國語漢文	教 諭	久 保 啓 治	大阪府	昭和八年四月
國語漢文	教 諭	徳 山 一 啓	滋賀縣	昭和八年四月
國語漢文	教 諭	土 屋 一 啓	靜岡縣	昭和八年四月
圖画作業	教諭心得	細 矢 末 吉	千葉縣	昭和三年四月

劍道習字	教授 賜託	邊田金治郎	千葉縣	昭和五年四月
數學商業	教授 賜託	相田喜之助	埼玉縣	昭和三年九月
國語漢文	教授 賜託	大石雅次郎	福岡縣	昭和三年九月
音樂	教授 賜託	岩本政藏	栃木縣	昭和六年四月
柔道	教授 筆書記	榎田正巳	千葉縣	大正七年一月
會計	書記	南井榮助	千葉縣	明治三十年四月
會練	配屬 將校	石井泉	千葉縣	昭和八年八月
教業	校醫 內科	高川直三	千葉縣	明治三十三年九月
理業	校醫 齒科	萩原村治郎	千葉縣	昭和五年五月
助業	助手	小川貞雄	千葉縣	昭和六年六月
				昭和四年一月

◎生徒表

第五學年A組

平野照	識君津青堀	岩館重雄	鈴木教資
石井忠	顯印藤	根本改	齋藤久
菅澤一	同	貝原塚	野平會
南井七	同	郡司	野村
出山	同	牧野圭	渡邊
渡邊	同	小倉	山口

第五學年B組

川村明	印藤成田	吉川正己	印藤中郷
大見克	同	古手照	同
木川	同	鶴見	同

第四學年A組

渡邊通雄	印藤成田	山井禮三章	同
古矢元佑	同	淺井	同
藤倉高三	同	櫻井卓	同
高川幸男	安房三原	成毛半平	同
遠藤武男	印藤八生	田代惠一	同
川崎忠雄	同	生駒重雄	同
後藤	同	武田智信	印藤公津

第四學年B組

相川隆	印藤富里	大堀喜三郎	同
小倉善之丞	同	石川清	同
小出憲一	同	山本勳	同
西內光吉	同	宮田悅二	同
齋藤末	同	寺內隆	同
川村	同	加藤貞治	同
湯村	同	小藤	同
湯淺	同	小泉	同
湯泉	同	齊藤	同
信田	同	石橋	同

(三十七名)

(二十一名)

高塚源次	同	山田	同
加藤典	同	寺馬助	同
寺本	同	吉馬	同
鈴木	同	關口	同
關口	同	芝野	同
芝野	同	佐久間	同

渡邊	同	石井	同
石崎	同	川崎	同
石崎	同	石崎	同
川崎	同	石崎	同
石崎	同	石崎	同
石崎	同	石崎	同
石崎	同	石崎	同
石崎	同	石崎	同
石崎	同	石崎	同
石崎	同	石崎	同

齊藤八郎	印藤遠山
------	------

(昭和九年四月現在)

(△印正副級長)

(級長以下身長順)

岩館重雄	同	鈴木教資	同
根本改	同	齋藤久	同
貝原塚	同	野平會	同
郡司	同	野村	同
牧野圭	同	渡邊	同
小倉	同	山口	同

木山石藤宮服石成高
 村倉井崎內部井田橋
 正春 富行一源 豐
 義雄勇哉雄雄祐僧次
 山香同同印東同印香
 武取取同同同同同同
 千大須成八本本成滑
 代須住田生所塾田河

第一學年B組

岡小後齋谷小梶成小藤浮藤
 田川藤藤 川谷毛川崎鶴崎
 富美 敏啓昇義 公 芳秀
 也明夫義平久博平清忍郎雄
 同同印東同同同同同同
 同同同同同同同同同同
 本布八神成中安豐中遠遠
 塾錄生田田鄉食住鄉山山

吉椎石石行清松澤大
 岡名井井方宮田田谷
 正 正新 規 敬 武 泰
 洋義一作夫雄信助皓
 同同同印山同同同印
 富成遠豐二同八成久
 里田山住川川生田住

(三十九名)

宮青林齋豐弘廣椎甲山櫻根
 本柳 藤田海岡名田崎田本
 元 鐵博信新治正 國
 武雄晃夫美中郎治夫忠雄清
 印郡海上同同同同同同同
 同馬浦同成安遠公遠成成久
 公前富同成安遠公遠成成久
 津橋浦同成安遠公遠成成久

出長藤泉中藤木荒高
 山谷崎水嶋本川井橋
 成 四 克 義 省
 進男郎俊雄謙要一次
 山夷同同同印山同同
 武隅同同同同同同同
 千大原安公成成二安成
 代原食津田田川食田

關蕨大貝杉相石生塩黒諸川
 口木原田京橋駒澤田岡島
 金 光 陸 政 一 治 準
 治博雄茂男德郎正清世次襄
 同同同印同同同同同同同
 同公中同同同同同同同
 津鄉生八日公津川二成伊城埴同
 同公鄉生八日公津川二成伊城埴同

青 土山姪田湯野大 小鈴宮長椎
 原 肥本 田村淺 口木泉木田瀧名
 匡 憲 光政茂 左昌善 憲耕清
 第一學年A組 一望城治雄郎一一正三一介
 印同同同同同同同同同同同
 成同同同同同同同同同同同
 田公津安食豐住八生成久八成印
 成同同同同同同同同同同同

第二學年B組

山京海後藤竹
 田增保藤崎本
 清廣一敏正武
 之助吉郎雄一男
 同同同同同同
 同同同同同同
 安成久成遠遠
 食田住田山山津

小粟川大谷根大山藤日多小
 川原村塚本木田崎暮田川
 廣國武忠貫正二貞久敬
 博德夫雄助治男郎治彌止享
 同同同同同同同同同同同
 同同同同同同同同同同同
 遠成遠成富公八成安富成公八
 山田山里津生田食里田津生

(三十四名)

沼森大吉利瀧岩
 崎川坂田澤澤
 清 肖 秀
 一保熙清次亮
 同同同同同同
 同同同同同同
 同成遠公成遠
 同田山津田山

七 清森辻本桑鈴平小弘青
 夕 橋原木澤倉海柳
 宮定正 庄輝信八堯
 豐雄男誠一一行郎圓武
 同同同同同同同同同同同
 同同同同同同同同同同同
 遠成遠公安同成八安成
 山田山津食田生食田

大川金植
 木邊井木
 俊 誠 健
 一敏一次
 同同同同
 同同同同
 安同同同
 食同同同

小島忠良	印旛成田	山田孝一郎	同成田	齋藤輝夫	同遠山
渡邊靜夫	同成田	原健敬	同富里	齋藤伍市	山武千代田
長谷川武雄	同酒井	山口宰男	茨城金江津	丸友衛	印旛公津
岩澤健三郎	同中郷	加藤豐次	印旛成田	鵜澤成六	同中郷

◎成田英漢義塾卒業生人名 (×死亡)

第一回卒業生 (明治廿三年三月)

法學士

第二回卒業生 (明治廿五年三月)

法學士

第三回卒業生 (明治廿六年三月)

法學士

第四回卒業生 (明治廿七年三月)

砲兵大佐

第五回卒業生 (明治廿八年三月)

第七回卒業生 (明治廿九年三月)

北田彦三郎	三橋金太郎	高安元三郎	山田兵治	吉川松太郎	石井佐治馬	穴倉高次郎	山田太郎	石川英之助	岡本幸造	山田要之助
林政次郎	大野市太郎	湯淺眞二郎	藤崎仁三郎	伊藤幸次郎	林田恒藏	篠崎幸吉	惠口忠治	山崎傳一	根本太一	

第九回卒業生 (明治卅二年三月)

選科履修生 (明治卅一年三月)

選科履修生 (明治卅二年三月)

高梨盛太郎	石川昌三	太田家續	山田喜助	多田寧哉	藤崎欽一	森寬一	篠原友之助	林政吉	赤谷由助	木内民雄	米津重次郎	湯淺暉恒	石田恒三郎	林田恒三郎	郡司喜太郎	並木喜太郎	河津金四郎	國本保郎	山野制	
堀井富五郎	石井喜一	長谷川慶一	小野寺弘	木内啓司	玉造泰助	細田孝司	原久藏	山口要太郎	山久藏	戸村喜助	香取友吉	唯謹吾								

第八回卒業生 (明治卅一年三月)

◎中學校卒業生人名及現況表

(×死亡) ()内は卒業學校名

第一回卒業生 (六名) (明治卅五年三月)

新潟縣松村中學校長(帝大) 小野寺精一郎 印旛成田
 朝鮮總督府逓信局工務課長(帝大) 飯倉文甫 同 成田
 × 三橋信吉 同 成田
 × 竹尾丑之助 同 八生
 弘前中學校教諭(早大) 秋山篠英 同 富里
 日本石油會社東京本社(早大) 黑田政吉 同 成田

第二回卒業生 (八名) (明治卅六年三月)

× 京須 幸 同 成田
 神崎義俱 同 遠山
 日本興業會社社員(早大) 加納金助 同 遠山
 日本大學理事兼商工學校長(日大)(藤崎改) 高橋照文 山武南郷
 山口縣技師(水産講習所) 小川克己 印旛八生
 東京時事新聞社社員 吉岡 猛 同 酒々井
 實業 加藤芳之助 香取大須賀
 渡米實業 黑川 信 印旛成田
 大成火災保險株式會社員(早大) 渡邊 政助 印旛成田

第三回卒業生 (十八名) (明治卅七年三月)

× 渡邊 政助 印旛成田
 小川源一郎 同 公津

海軍入佐艦政本部出任技術本部員

官 史(慶大) 飯倉貞造 印旛成田

實業 寺内一夫 同 同

實業 後藤七郎 同 八生

實業 瀧澤德次郎 同 成田

實業 遠藤興惣平 同 公津

實業 木内茂助 同 成田

實業 小川利太郎 同 公津

實業 藤倉精助 同 成田

實業 佐々木牧治 千葉實業

實業 高 中重衛 埼玉北足立

實業 加藤右二 印旛中郷

實業 神崎庄助 同 成田

實業 那須文治 香取飯田

實業 山本 順 印旛成田

實業 多田 享 同 公津

實業 芝浦製作所技師(東京高工) (加藤改) 伊藤 昇 君津八里

實業 大日本農會(帝大) 萩原義重 山武千代田

× 額賀清右衛門 鹿島白鳥

飯倉貞造 印旛成田

寺内一夫 同 同

後藤七郎 同 八生

瀧澤德次郎 同 成田

遠藤興惣平 同 公津

木内茂助 同 成田

小川利太郎 同 公津

藤倉精助 同 成田

佐々木牧治 千葉實業

高 中重衛 埼玉北足立

加藤右二 印旛中郷

神崎庄助 同 成田

那須文治 香取飯田

山本 順 印旛成田

多田 享 同 公津

芝浦製作所技師(東京高工) (加藤改) 伊藤 昇 君津八里

大日本農會(帝大) 萩原義重 山武千代田

日本レイヨン株式會社(帝大) 宮野源一郎 山武千代田

醫師(千葉醫專) (准名改) 野村竹男 茨城北相馬

金澤醫科大學教授 醫學博士 泉 仙助 香取滑川

實業 (伊藤改) × 秋山三省 印旛中郷

關東中學教諭(早大) 吉岡 保 同 富里

實業 人木榮次郎 同 中郷

醫師(千葉醫專) × 坪井節爾 千葉千葉

三里塚郵便局長 (鈴木改) 秋葉有一郎 山武千代田

千葉縣々會議員 鈴木 亮 印旛公津

兵庫縣兵庫製繩株式會社員 × 辻 英吉 東京荏原

實業 高中喜代松 印旛遠岐

實業 湯淺儀三郎 同 八生

實業 (早大) 藤崎 俊一 同 富里

實業 藤崎 庄平 同 遠山

實業 小川 明 同 中郷

實業 黑川 傳 同 成田

實業 × 石原泰次郎 同 成田

實業 × 松本 保 大分字佐

實業 (在朝鮮) 第五回卒業生 (廿二名) (明治卅九年三月)

× 小倉榮二郎 印旛成田

實業 長谷川治吉 同 成田

公 史 (藤川改) 土肥多助 同 富里

(東京高商) × 三橋英治 同 成田

醫師(慈惠醫大) (繁藏改) × 土屋 圓 山武瑞穗

日本生命保險會社々醫(京都醫專) 佐藤重俊 安房由基

(京都高工) × 山野 裕三 印旛成田

北海道藤田組加比字牧場技師(東京農大) 澤田信三 同 久住

鐵道省新宿驛員(日大) (小川改) × 小野寺英二郎 同 成田

實業 仁科 一 靜岡靜岡

實業 鈴木七郎 印旛八生

實業 山野 隆治 同 成田

實業 荻原長三 山武千代田

實業 丸 良輔 印旛公津

實業 石原清泉 同 成田

實業 作田紋平 山武鳴濱

實業 淺井信之 印旛成田

實業 × 石橋堯之助 同 成田

實業 (加藤改) × 松本 頼三 東京京橋

實業 東京國府商店勤務 古矢誠助 印旛成田

實業 第六回卒業生 (廿二名) (明治四十年三月)

清宮俊平 同 八生

私立成田中學校一覽

小學校調導	大木喜三郎	印藤成田	藤崎	鑽	同	遠山
小學校調導	竹村和	印藤成田	齒科醫(東京齒科)	稻川	義	雄
實業	飯塚英夫	香取多古	實業(早大)	長竹	彦次郎	印藤成田
醫師	淺岡惠太郎	印藤成田	實業	大木	健	印藤成田
實業	鈴木高治	同	實業	椿	利	一
實業	管澤忠	同	鐵道省東部經理局	出山	博	印藤成田
實業	三橋仙次	同	實業	貝原	塚	豐
實業	戶村正夫	同	實業	瓜生	勘之丞	香取多古
第十三回卒業生(二十八名)	早川重雄	印藤成田	小學校調導	佐瀬	旭	印藤成田
鹽水港製糖株式會社社員(東京高商)	藤崎源之助	同	齒科醫	田島	俊	一
實業(帝大)	平松白民	同	臺灣高等學校助教(東京高師)	平澤	平	三
警視廳保安部建築課內	山田要	同	小學校調導	椎名	勝美	印藤成田
實業	丸才司	同	實業	多田	喜平	同
滿洲國ヘルピン高等法院檢事(帝大)	清水長陽	同	實業	清宮	忠雄	印藤成田
實業(東亞同文書院)	竹尾式	同	實業	石井	順	同
報知新聞社(東京外語)	山田進	同	第十四回卒業生(卅二名)	岡部	美磨	印藤成田
實業	三枝照光	同	海軍主計少佐(軍艦島海乘組)	三橋	藤太郎	同
僧侶(智山大)	福島照瑞	同	北海道苫小牧工業學校校長(帝大)	木川	浩逸	香取東條
千葉縣農事試驗場技師(帝大)	日暮與一	同	醫師(千葉醫專)	藤崎	總三郎	印藤成田
實業	大木顯一郎	同	東京商船株式會社社員新嘉坡支店(拓殖大)	藤崎	總三郎	印藤成田

私立成田中學校一覽

公史	小倉要	印藤成田	實業	鈴木	民治郎	印藤成田
東京電燈株式會社員	石井操	同	實業	柳	澤吉藏	同
齒科醫(東京齒科)	戶村晋	同	成田中學校教諭兼書記	榎	田正己	同
實業	大木嘉平	同	東京洲崎病院醫員(東京慈惠醫)	高	安盈仁	同
小學校調導	茂手木篤三郎	同	小學校調導(麻布獸醫學校)	藤	波潔	同
僧侶(智山大)	黒羽順教	同	僧侶	若	月安	同
小學校調導	丸善一	同	第十五回卒業生(卅五名)	伊	藤茂	同
實業	大須賀清光	同	醫師(帝大)	藤	澤武雄	同
實業	荻原正雄	同	栗林商船株式會社(小樽高商)	板	倉誠	同
臺灣帝國大學助教(帝大)	吉岡博	同	小學校長	木	村亮都	同
實業	加藤浩	同	小學校教諭(東洋大)	小	川團次	同
實業	藤崎源一郎	同	實業	湯	淺健一	同
小學校調導	所晃一	同	實業	戶	村達郎	同
實業	石井與四郎	同	佐倉川崎第百銀行支店	藤	崎穰	同
實業	長谷川英一	同	醫師(千葉醫專)	本	多傳	同
東京富澤町川崎銀行支店(早大)	齋藤健	同	實業	內	田信一	同
內務省土木監督署河川工事務所	京須芳雄	同	實業	石	川富士雄	同
印藤實業學校教諭	高柳榮三郎	同	(東京商船學校)	安	達國一	同
小學校調導	鈴木金候	同	富山房編輯部(國學院大)	八	角彌	同
實業	岩井儀太郎	同	小學校調導	手	島徹	同
南滿洲鐵道株式會社京城管理局工務課	片野純三	同	實業	小	川改	同

私立成田中學校一覽

三〇

古河電氣工業株式會社在上海(東京外語) × 大竹 茂 香取滑川
 實業(早大) 瀧澤榮一 印齋成田
 實業 河重八郎 全 八生
 實業 秋葉一吉 山武蓮沼
 醫師(京都醫專) 熊切儀一 夷岡古澤
 千葉縣道路技手兼土木技手 片野春吉 岐阜大垣
 實業 齊藩七司 印齋公津
 小學校訓導 × 阿部良策 同 豊住
 醫師(日本醫大) (木内改) 伊藤功 同 富里
 實業 山内誠 同 成田
 實業 伊藤保次 同 成田
 實業 紺谷旭 同 遠山
 實業 小川吉之助 同 成田
 實業 鈴木次郎 同 公津
 實業 池田喜一 同 富里
 實業 荻原賢治 同 富里
 實業 宇賀近治 同 白井
 實業 岩井平男 同 大森
 實業 平山久一郎 同 成田
 實業 飯高多一郎 香取大須賀
 第十六回卒業生(三十七名) (大正六年三月)
 鑄子秋山病院長(千葉醫專) 醫學博士 秋山寅雄 香取多古

鐵道省本省計理局(中央大) 楢垣達也 同 久住
 實業 本多義同 遠山
 實業 土井平重 同 公津
 實業 青柳忍 同 公津
 實業 長谷川祐元 安房西條
 實業 森田元二 印齋公津
 小學校訓導 (多田改) 根本東海男 同 公津
 實業 篠田欣吾 印齋豊住
 實業 石橋健二 同 豊住
 實業 土肥卓 同 公津
 實業 方波見仲勇 茨城鹿島
 實業 秋葉三省 市原市東
 實業 櫻井一敏 印齋公津
 實業 櫻井一郎 香取小門
 實業 宇井龍雄 印齋成田
 第十七回卒業生(三十五名) (大正七年三月)
 (尖倉改) × 木内貫一 印齋久住
 (帝大) 野平忠 同 豊住
 應慶義塾教授 西谷謙堂 同 豊住
 櫻組製糖會社 × 吉田善四郎 東京神田
 東京市立葛飾病院副院長(慶大醫) 飯塚忠 香取多古
 中野圭 香取多古
 實業 三重縣津師範學校教諭(東京高師)(山内改) 高屋卯之助 印齋成田
 通信省通信技手 鈴木豐 同 成田
 醫師(千葉醫專) 清水東四郎 同 成田
 實業 鈴木德治 同 成田
 實業 日色四郎 香取滑川
 實業 神戶隆太郎 印齋成田
 實業 後藤俊次 同 安食
 實業 小野寺謹悟 印齋成田
 實業 山田好助 同 富里
 實業 石井勝男 同 成田
 實業 松岡明 同 遠山
 實業 伊藤七右衛門 同 久住
 實業 寺内保 同 成田
 實業 高橋巖 同 成田
 實業 田中藤治 香取小門
 實業 小川總良 山武下代田
 實業 古川廣 同 片貝
 實業 土井規矩 印齋公津
 實業 長谷川藤市 同 成田
 實業 武士田 同 成田
 實業 實川和男 山武下代田
 實業 吉岡英亮 印齋遠山
 (藤崎改) ×

私立成田中學校一覽

三一

私立成田中學校一覽

南滿洲鐵道會社 第一生命保險會社(東京農大)	安藤俊行 同 久住	(國學院大)	鈴木光亮 印 藤登住
× 谷口一郎 同 八生	(廣瀨改)	× 香取舜治 山武二川	
實業	伊藤文亮 同 遠山	石橋孝三郎 印 藤成田	
實業	宮原三郎 同 久住	丸善善徳 同 公津	
實業	神崎忍 同 遠山	飯泉隆二郎 印 藤遠山	
實業	鈴木茂喜 同 久住	(藤崎改)	山内貞 同 中郷
第十八回卒業生 (三十七名) (大正八年三月)		(池田改)	山田春之助 同 富里
東京三菱銀行(慶應)	湯淺三吉 印 藤八生	伊藤公平 印 藤八生	
× 湯淺武之助 同 八生	千葉女子師範學校教諭(國學院)	椎名操 香取大須賀	
× 千脇辰 千葉更科	小學校訓導	小川太郎 印 藤八生	
× 篠原岩次郎 印 藤成田	鐵道省茨城縣大子驛	大三川弘之 香取多古	
大坂毎日記者東亞部(東亞同文院)	實業	瀧澤徳治 印 藤成田	
實業	鐵道省東部管理局	小倉仁 同 成田	
川崎銀行丸ノ内支店	接骨醫	猪瀬堯澄 同 布織	
實業	小學校訓導	武藤行敬 同 永治	
野田醫油株式會社(慶應)	小學校訓導	山崎信男 香取高岡	
東京高等獸醫學校講師(明治學院)	實業	拾垣省吾 印 藤久住	
(英國ケンブリッジ大學)	實業	四宮操 同 富里	
大阪日本生命保險株式會社(澤田改)	實業	古川巖 同 中郷	
小學校訓導	實業	神崎俊之助 同 遠山	
(小川改)	實業	相原理三郎 全 公津	

私立成田中學校一覽

實業	石橋進全 富里	神奈川縣小田原高等女學校教諭(早大)	千葉實乘 茨城五個
實業	伊藤源右 同 中郷	實業(早大)	林稜二 印 藤八生
第十九回卒業生 (卅四名) (大正九年三月)		實業	平山榮昌 香取多古
京成電氣會社技師(東京高工)	福田郁次郎 茨城五個	(明大)	石井美雄 印 藤富里
新潟醫科大學助手(新潟醫專)	深山陽 印 藤旭	實業	山崎守 同 木下
静岡西遠高等女學校校長(帝大)	岡本富郎 橫濱市同	實業	阿部規矩治 同 費住
東京日本橋郵便局	岩立源一郎 香取滑川	小學校訓導	竹村利雄 同 富里
實業	高橋勇雄 印 藤公津	安田銀行芝支店	稻村忠雄 同 遠山
海軍機關大尉出雲乘組	加藤武夫 印 藤成田	(篠崎改)	吾江淨光 印 藤公津
醫師(新潟醫專)	山崎一雄 全 永治	實業	磯山儀一 同 中郷
醫師(千葉醫專)	鈴木芳吉 全 安食	實業	寺内五市 同 中郷
實業	木内芳雄 同 成田	實業	吉岡彰 同 中郷
實業	大野龜之助 同 酒々井	實業	藤崎慶司 同 成田
神職(國學院)	宮崎廣則 同 成田	實業	飯田榮亮 香取大須賀
(早大)	藤崎章 同 遠山	第二回卒業生 (卅六名) (大正十年三月)	
實業	伊藤豐全 久住	神戶南歐貿易株式會社(東京高工)	泉野良作 印 藤登住
實業	中臺俊一 同 公津	東北帝國大學農學部在學	原義雄 同 富里
實業	竹村好一 同 八生	成田圖書館司書	高田定吉 同 成田
實業	石井權之尉 同 遠山	(文部省圖書館講習所)	安達一郎 同 遠山
實業	石井庄平 全 酒々井	(東京商大)	齋藤光治 同 成田
實業	萩原英一 同 成田	實業	日暮勝重 全 遠山
實業	小倉興市 同 遠山	小學校訓導	
(甲田改)		(松岡改)	

私立成田中學校一覽

大多喜高等女學校教諭(早大)	鈴木徐人	同	大森
海軍中尉	高野照典	同	成田
實業	森竹雄	同	遠山
實業	菅澤英	同	香取高岡
僧侶(智山大)	松田照應	同	印旛成田
實業	內藤榮	同	茨城金江津
小學校訓導	和田英	同	印旛酒々井
官吏	大貫貞吉	同	安食
(明大)	泉瑞敏	同	夷隅古澤
實業	小倉良太郎	同	印旛八生
小學校訓導	椎名永良	同	安食
(中央大)	小海川昌則	同	久住
小學校訓導	手島英	同	山武千代田
小學校訓導	秋山榮吉	同	印旛八生
實業	齋藤貞雄	同	公津
(千葉醫科大學附屬藥學)	萩原道三	同	海上銚子
小學校訓導	後藤慎平	同	印旛安食
實業	山崎信夫	同	遠山
小學校訓導	磯山宣	同	公津
實業	福田登	同	同酒々井
小學校訓導	藤崎巖	同	遠山
實業	寺內彌茂	同	同中郷
實業	宇井聖	同	成田
實業(慶應)	山木善兵	同	成田
(石川改)	丸善文雄	同	公津
實業	山倉文雄	同	久住
實業	關川雅司	同	成田
實業	小倉桂	同	成田
接骨醫	小川勳	同	富里
小學校訓導	永山敬榮	同	福島豊岡
僧侶	大島仁	同	印旛成田
(大正十一年三月)	根本五郎	同	富里
東京帝國大學大學院在學	根木五郎	同	富里
北海道三重國北海製糖株式會社	竹村猛	同	成田
(水産講習所)	石橋廣吉	同	香取滑川
醫師(慈惠會醫科大)	羽方章	同	印旛成田
實業	平山諦	同	成田
秋田縣立角館中學校教諭(帝大)(榎田改)	關谷重雄	同	公津
東北大學大學院在學(帝大)	淺井義一	同	成田
(早大)	島村治助	同	成田
不動銀行東京乃木坂支店(大阪高商)	太田家倚	同	公津
銚子合資會社勝味屋本店	飯高治夫	同	山武二川
小學校訓導	岩澤丈夫	同	印旛遠山
小學校訓導	藤崎昇	同	同和

日本郵船(東京商船)	野平統一	同	中郷
實業	岩澤多門	同	遠山
實業	小林博	同	成田
鐵道省(明治大)	高橋清	同	成田
小學校訓導	坂田己一郎	同	富里
醫師(千葉醫大)	關川博道	同	成田
日本火災保險會社	木内正夫	同	成田
小學校訓導	渡邊三郎	同	成田
實業(明治大)	桑原啓次郎	同	安食
小學校訓導	寺本巖	同	印旛富里
日本郵船無線電信係	芝山克己	同	八生
(無線電信講習所)	本多己代治	同	遠山
東京不動銀行(明大)	諸岡一次	同	成田
小學校訓導	加藤曉治	同	成田
小學校訓導	藤崎勲司	同	遠山
小學校訓導	石木晃	同	廣島竹二
小學校訓導	丸山正臣	同	長野明盛
實業	萩原喜知太郎	同	印旛豊住
(明治大)	湯淺八郎	同	八生
實業	山田忍	同	公津
(朝鮮水原高等農林學校)	加藤北二郎	同	八生
實業	伊能春夫	同	山武二川
鐵道從業員	吉岡順	同	印旛中郷
小學校訓導	吉田義法	同	安房田原
實業	竹田正吉	同	印旛成田
第二十二回卒業生(卅八名)	熊切修二	同	夷隅古澤
(大正十二年三月)	檜垣兼三	同	印旛久住
醫師(帝大)	戸村照學	同	八日市場
小御門農學校教諭(東京農大)	齋藤操	同	印旛公津
小學校訓導	三門健一	同	木下
成田中學校教諭(國學院)	小泉國衛	同	印旛成田
千葉合同銀行本店(慶應)	三橋監物	同	成田
(帝大)	大澤猷太郎	同	八生
(帝大)	大塚謙三	同	成田
實業(慶應)	石井俣男	同	山武千代田
小學校訓導	山口忠	同	印旛八生
東京市役所	大須賀誠	同	安食
南洋興業株式會社(大倉高等商業)	香取忠裕	同	山武千代田
實業	香取利雄	同	印旛久住
小學校訓導	加藤文一	同	成田
實業	石橋三郎	同	安食
公吏(東京外語)	多田清	同	公津
實業	大阪大森組本店設計部建築技師(横濱高工)	長澤博	同布織

私立成田中學校一覽



私立成田中學校一覽

實業 鈴木三郎 同 公津
 小學校訓導 松崎正重 同 八生
 安田銀行 篠崎操 同 遠山
 實業 平山正夫 香取多古
 (中央大) 新村新助 山武二川
 小學校訓導 原公 印旛富里
 小學校訓導 島照康 東京本所
 小學校訓導 小學校訓導 大木信雄 印旛公津
 實業 篠原幸次郎 同 成田
 小學校訓導 平山祝 香取吉田
 小學校訓導 飯塚泰亮 印旛成田
 (渡邊改) 平山幸一 香取多古
 齒科醫 (東京齒科醫專) 片岡勇 印旛遠山
 × × 桑名善雄 茨城那珂
 實業 小川重雄 印旛中郷
 (日本大) 石川明 同 遠山
 實業 竹尾隆 同 酒々井
 通信省官吏 石渡四郎 山武南郷
 實業 石山堯 山武二川
 實業 鈴木平 印旛公津
 第二十三回卒業生 (卅四名) (大正十三年三月)
 三井銀行名古屋支店 (明大) 藤崎浦治 印旛遠山

(帝大) 北海道大學農學部理學部助手 (帝大)
 日露漁業株式會社 (日露協會學校)
 平壤電氣會社 (帝大)
 日本郵船 (神戸商船)
 實業 小學校訓導
 (物理學校)
 實業 (日本大)
 東京鐵道局千葉運輸事務所
 (中央大)
 東京鐵道局千葉運輸事務所
 川崎銀行佐原支店

水野岩雄 同 成田
 牧野佐次郎 同 成田
 遠藤興惣次 同 公津
 加藤韓三 同 八生
 × 諏訪原四郎 同 八生
 渡邊進一 同 成田
 山內康夫 同 成田
 土屋清 山武二川
 篠田光治 茨城金五郎
 神崎謙三 印旛遠山
 岩內貢 同 遠山
 加藤岡武 同 成田
 × 谷上勝太郎 同 成田
 × 三橋新 同 成田
 行方喜一 山武大繩
 木內基一 香取滑川
 林貞一 山武日向
 高橋忠司 印旛公津
 佐藤寬 香取大須賀
 武田有信 印旛八生
 鳴田滿 同 遠山
 藤崎正義 同 遠山

私立成田中學校一覽

南洋瓜島マラン市佐伯商會 (高岡高商)
 實業 吉川克己 同 中郷
 大阪合同紡績株式會社天滿支店 (米澤高工) 手島寬 山武千代田
 小學校訓導 小川貞助 同 豊住
 實業 伊藤清 同 富里
 實業 (明治大) 青柳晴美 香取滑川
 實業 佐伯忠夫 長生土睦
 實業 大三川雄啓 香取多古
 實業 湯淺義雄 印旛公津
 (日大) 黒川富夫 同 成田
 四年ヨリ高等學校入學本校卒業生ニ準ズ× 安達次郎
 第二十四回卒業生 (四拾五名) (大正十四年三月)
 (いろは順)
 實業 生駒靜雄 山武二川
 小學校訓導 伊藤馨 印旛久住
 帝國在郷軍人會 (日本大) 伊藤汎 山武松尾
 實業 (早大) 石川仁一郎 印旛成田
 (横濱高工) 石川豐 同 遠山
 實業 石田享 香取高岡
 齒科醫 (東京齒科醫專) 石井雅衛 印旛富里
 (早大) 圓城寺次郎 同 公津
 秋田縣女子師範學校教諭 (東京高師) 林田武雄 同 富里

川崎第百銀行千葉支店 小學校訓導 林清風 同 遠山
 實業 大友廣高 同 臺
 岡野秋夫 印旛安食
 大木丈夫 同 須賀
 渡邊市左衛門 印旛成田
 金子忠治 同 中郷
 神崎迪太郎 茨城金五郎
 海保芳郎 印旛久住
 海保香苗 茨城金五郎
 神崎武夫 印旛遠山
 勝又勝伊 香取多古
 海瀨健爾 安房稻都
 高川俊夫 印旛成田
 × 高安愛之助 同 成田
 × 田中純一郎 茨城龍崎
 中村賢爾 印旛白井
 內海門磨 同 八生
 山本愛 同 安食
 川田彌 同 安食
 武士田讓 同 成田
 神戶剛 同 成田
 寺內一郎 同 成田

慶應義塾在學 奈良不動銀行在職 (明大)

私立成田中學校一覽

東京電燈佐原支社 (東京商大)
不動銀行東京兩國支店 (東京商大)

(明治大)
賞業
小學校訓導
賞業
東京電燈木下支社
賞業
東京瓦斯會社 (早大)
物理學校在學
大塚驛 (早大)
醫師 (帝大)
賞業

二十五回卒業生 (四十六名)
(大正十五年三月)
(龜田改)
公吏
賞業
賞業
小學校訓導 (東洋大)
賞業
賞業
齒科醫 (日本齒科)

寺内秀雄 同 成田
淺井銳次 同 成田
淺井隆 同 成田
相田重義 同 成田
秋山龍虎 同 成田
秋山龍一 同 成田
櫻井泰 同 成田
木内浩 同 成田
湯淺栽樹 同 成田
宮内喜夫 同 成田
清水文治 同 成田
新橋重三 同 成田
關川安世 同 成田
清宮博 同 成田
石橋浩 同 成田
丸芳洋 同 成田
磯部貢 同 成田
石橋昌七 同 成田
石井昌治 同 成田
萩原章 同 成田
大竹清 同 成田

中央大學法科在學
賞業 (物理學校)
賞業
長野縣松本片倉製絲紡績株式會社 (上田製絲專門)
小學校訓導
明治大學法科
賞業 (中央大)
東京鐵道局千葉運輸事務所
小學校訓導
賞業
僧侶
小學校訓導
新勝寺事務員
東京日々新聞社

大木晋市郎 同 成田
大木得三 同 成田
大久保貞治 同 成田
小川茂 同 成田
小川忠雄 同 成田
小海川重雄 同 成田
小川進 同 成田
大須賀信乃 同 成田
海保三千三 同 成田
川島千秋 同 成田
金澤俊亮 同 成田
加藤正則 同 成田
田村義教 同 成田
塚本克巳 同 成田
鶴岡大 同 成田
根本菊次 同 成田
中村信次 同 成田
村山信次 同 成田
内田正信 同 成田
黑田正信 同 成田
久保田潔 同 成田
山崎博 同 成田

官史 (中央大)
東京帝大在學
官史
小學校訓導
川崎第百銀行佐原支店
東京市深川區役所 (日大)
賞業
小學校訓導
神戸女學院教諭 (東京高師臨教)
僧侶
小學校訓導
(早大)
僧侶 (智山大學)
賞業
僧侶 (智山大學)
賞業
農林省横濱
生絲検査所 (帝大) 學本校卒業生ニ准ズ
第二十六回卒業生 (四十八名)
(昭和二年三月)
小學校訓導
(政玉社高等商業)
賞業

山田一雄 同 成田
丸三郎 同 成田
松本重雄 同 成田
藤崎廣夫 同 成田
藤崎傳 同 成田
佐久間誠一 同 成田
佐藤智雄 同 成田
齋藤仲次 同 成田
吉祥照 同 成田
密島和一 同 成田
平山岩雄 同 成田
森谷義正 同 成田
諸岡薫 同 成田
鈴木照澄 同 成田
諏訪原貞夫 同 成田
三橋誠一 同 成田

(神戸商船學校)
賞業
賞業
(米澤高工) アンド・カード容器商會
賞業
賞業
鐵道從業員
成田役場吏員
賞業
賞業
三重縣鳥羽町鳥羽築港事務所 (山梨高工)
賞業
千葉縣耕地整理課 (明治大)
賞業
小學校訓導
小學校訓導
鐵道省 (法政大)
(帝大)
(法政大)

伊藤倉三 同 成田
伊井與助 同 成田
石井三郎 同 成田
石橋瑞 同 成田
幡谷有吉 同 成田
萩原治房 同 成田
萬來親 同 成田
大木賢三 同 成田
小倉敏夫 同 成田
大野正 同 成田
小川德 同 成田
大見川正 同 成田
小川政 同 成田
渡邊昇 同 成田
渡邊司 同 成田
吉岡一 同 成田
吉岡二 同 成田
橫田四郎 同 成田
多田俊夫 同 成田
高橋健 同 成田
高橋忠 同 成田
高橋重雄 同 成田

私立成田中學校一覽

私立成田中學校一覽

四二

實業	瀧澤昇	早稻田大學在學	木內憲一	印旛成田
×	高橋仁	東京藥專在學	木內喜久雄	同成田
×	高橋浩	實業	木內季男	香取滑河
×	根本誠	實業	宮內德太郎	茨城鹿島
×	鶴澤幸雄	小學校訓導	宮本庫二	印旛富里
×	大澤新吾	兵役	篠田惣壽	同豊住
×	大木春基	東京府農事試驗場(盛岡高等農林)	平野仲次	同八生
×	大木一夫	早大高等學院在學	諸岡新一	同成田
×	大木勤吾	弘前高等學校在學	諸岡新一	同成田
×	山田保	官吏	關川順道	同成田
×	山田美	三越株式會社	諫訪原民雄	同八生
×	山崎要	實業	菅孝一	同遠山
×	丸盛	實業	菅嘉夫	同成田
×	藤崎末夫	東京市役所	鈴木順吉	同成田
×	古柳清	小學校訓導	鈴木覺	同遠山
×	寺內良則	(日大)	鈴木照汎	同公津
×	小川則成	東洋大學在學	飯田四郎三郎	香取滑河
×	笹川克己	日本大學在學	伊藤正治	印旛中郷
×	木村秀明	實業	岩館正美	同中郷
×	木村秀明	實業	岩澤善一郎	同中郷
×	木村秀明	實業	稻垣昌則	同成田

第二十九回卒業生 (四拾八名) (昭和五年三月)

實業	湯淺登	日大在學	山田武夫	同成田
(石原改)	石橋芳郎	日本大學在學	山田正元	同八生
×	石橋武四郎	千葉醫大附屬藥專在學	山岸林三郎	同木下
×	堀井信義	小學校訓導(日大)	藤崎健造	同公津
×	豐田利郎	實業	藤崎健造	同遠山
×	小野幸郎	實業	福田茂	同遠山
×	加藤進	物理學校	手島正爾	山武千代田
×	加勢和	東京區裁判所	出山誠一	印旛豊住
×	勝又康	(日大)	相川長	香取高岡
×	高橋孝	實業	秋山健夫	同多古
×	田中昇	實業	秋山健夫	印旛遠山
×	根本正	實業	齊藤一郎	東京下谷
×	根本二	實業	佐藤吉	印旛成田
×	成瀬寛	兵役	佐藤卓	同八生
×	中路敬	大正大學在學	三橋廣	同富里
×	中山久	實業	光本元	同富里
×	武藤七哉	兵役	椎名元	同富里
×	大木忠七	實業	椎野重	同富里
×	大木正	實業	篠原重	同成田
×	大島一	日大在學	諸岡武	同成田
×	山田勇	兵役	森田敏雄	同八生

私立成田中學校一覽

四三

私立成田中學校一覽

大阪鐘紡株式會社
 中鄉村信用組合(縣產聯)
 大丸屋吳服店
 朝鮮總督府通信局勤務
 實業
 小學校訓導
 日本大學商科在學
 實業
 兵役
 實業
 實業
 日大工科豫科在學
 千葉師範二部在學
 實業
 海軍志願兵

寺內三郎 印旛中郷
 土井義邦 同成田
 野宮茂毅 同成田
 長谷川秀吉 同成田
 長谷川正道 同久住
 長谷川能通 同成田
 長谷川勝司 同成田
 林田實 同富里
 林田光夫 同成田
 萩原儀助 同成田
 萩原儀助 同成田
 原正計 同成田
 日暮正 同成田
 藤崎昌良 同富里
 藤田知義 同富里
 松田正夫 同富里
 三池豐 同成田
 三橋清 同成田
 諸岡信吾 同成田
 矢村文雄 同成田
 山崎昇平 同成田
 湯淺重雄 同成田
 藤 同成田
 山崎 同成田
 湯淺 同成田

第三十二回卒業生 (五拾四名) (昭和八年三月)

伊藤市郎 印旛成田
 伊藤衛 山武二川
 五十嵐貫治 香取多古
 石井勝衛 印旛富里
 石井實 同成田
 石井一良 山武下代田
 石井秀雄 印旛六合
 石川一成 茨城金井
 石橋一太郎 印旛安食
 幡谷千尋 同成田
 林田五三郎 山武成東
 林田英雄 印旛富里
 吉岡茂 同成田
 吉岡巖 同成田
 谷岡藏 同成田
 瀧澤新介 同成田
 塚谷正能夫 同成田
 成毛利幾雄 同成田
 郡司佐兵衛 香取多古
 山口宏明 印旛遠山
 山本喜一 同安食

私立成田中學校一覽

早稻田高等學校在學
 實業
 朝鮮京城郵便局
 實業
 實業
 明治大學在學
 朝鮮慶尙北道奉化郡春陽面
 牛口峙里金井鐵山鑛業所
 實業
 實業
 橫濱高等工業學校在學
 實業
 早大高等學院在學
 實業
 實業
 小樽高商在學

谷ヶ崎 滿 印旛成田
 藤田勇 同成田
 小泉啓二 同久住
 遠藤武男 同成田
 青柳安正 香取滑川
 青野延良 茨城金井
 豐田正三 印旛成田
 土井良輔 同成田
 小川武夫 同成田
 小川建司 同成田
 大口政次 東京總戶
 大澤次 印旛八生
 大見川好之 同成田
 萩原徹郎 同成田
 萩原徹郎 同成田
 萩原徹郎 同成田
 加藤信之 同成田
 加藤弘 同成田
 河合定次 同成田
 荒木武雄 山武綠海
 佐久間榮一 印旛成田
 澤田演男 同成田
 木内武之助 同成田

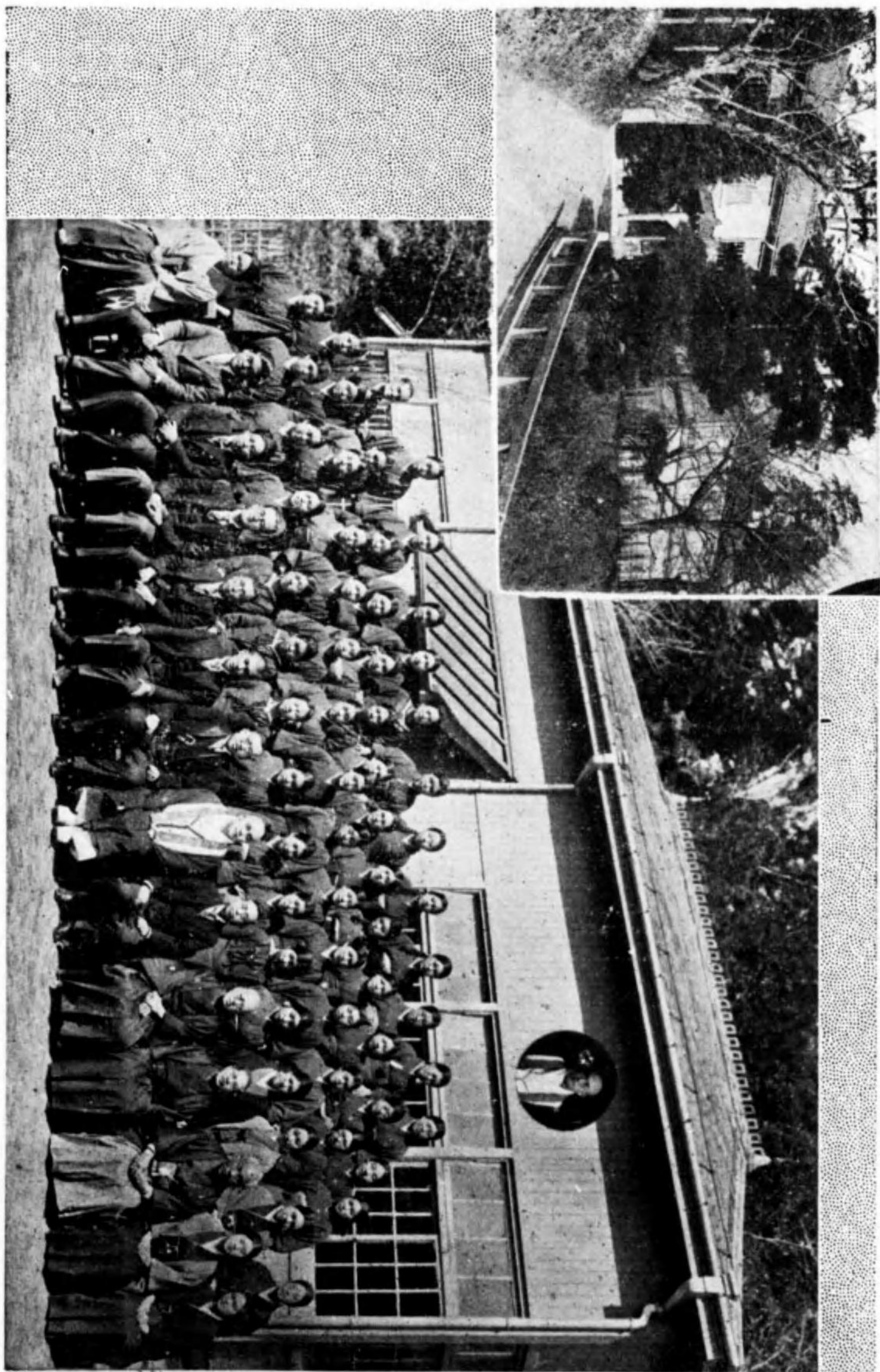
慶應義塾商科在學
 實業
 千葉高等園藝學校
 物理學校在學
 海軍機關學校在學
 千葉師範二部在學
 實業
 靜岡高等學校在學
 明治大學豫科在學
 第三十三回卒業生 (四拾九名) (昭和九年三月)

三橋茂 同成田
 宮内實 同成田
 塩田俊夫 同成田
 篠原精一 同成田
 篠原正三 同成田
 日暮正茂 同成田
 日暮正市 同成田
 一鉄田芳郎 同成田
 管沼仁兵衛 同成田
 諏訪原達衛 同成田
 鈴木覺祐 同成田
 江森己之助 同成田
 鈴木 同成田
 安達三郎 印旛遠山
 淺井武男 同成田
 石井俊次 同成田
 石橋八郎 同成田
 石賀次郎 同成田
 系賀次郎 同成田
 岩澤七郎 山武下代田
 荻原英男 印旛成田
 小高辰夫 同成田

成田高等女學校一覽

學 歷	一
教育方針及施設概要	一
沿革 略	一
昭和七年度重要記事	三
學 則	三
職 員 表	六
成田女學校卒業生人名	七
卒業生人名現況表	七
現在生徒及卒業生郡別表	二六
經費統計表	二六

成田高等女學校



生業卒回三十二第及員職教

昭和八年度
學 歷

第一學期 自四月一日至八月三十一日	九月 一日 始業式	一月 一日 新年祝賀式
第二學期 自九月一日至十二月三十一日	九月 旬 授業豫定記入	一月 九日 始業式
第三學期 自一月一日至三月三十一日	九月 旬 三、四學年志望調査	一月 旬 教授豫定記入
四月 五日 始業式、入學式、新人生父兄會	十月 旬 校友會學藝部會	二月 旬 來學年度教科書選定
四月 六日 午前八時十分始業	十月 旬 遠足四、三、二、一學年	二月 十一日 紀元節祝賀式
四月 中旬 教授豫定記入	十一月 旬 縣下中等學校女子競技大會	二月 十三日 創立記念祝賀式
四月 中旬 身體検査	十一月 日 明治節祝賀式	二月 同日 校友會學藝部會
四月 下旬 天長節祝賀式	十二月 旬 同 縣下中等學校女子競技大會	三月 六日 地久節祝賀式
五月 旬 口腔検査	十二月 旬 同 校友會雜誌原稿募集	三月 十日 陸軍記念日
五月 上旬 遠足四、三、二、一、學年	十二月 二十一日 第二學期授業終	三月 十二日 第三學期授業終
五月 中旬 海軍記念日	十二月 二十四日 成績發表終業式	三月 十五日 成績發、表終業式
七月 十八日 第一學期授業終	十二月 二十五日 同 校友會雜誌原稿募集	三月 十八日 證書授與式
七月 二十日 成績發表、終業式		三月 未定 入學考查及成績發表

昭和八年度
學 歷

第一學期 自四月一日至八月三十一日
第二學期 自九月一日至十二月三十一日
第三學期 自一月一日至三月三十一日

四 月
五日 始業式、入學式、新人生父兄會
六日 午前八時十分始業
中旬 教授豫定記入
中旬 身體檢查
二十九日 天長節祝賀式
下旬 口腔檢查

五 月
上旬 遠足四、三、二、一、學年
二十七日 海軍記念日

七 月
十八日 第一學期授業終
二十日 成績發表、終業式

九 月
一日 始業式
旬 授業豫定記入
下旬 三、四學年志望調査

十 月
中旬 校友會學藝部會
下旬 遠足四、三、二、一學年

十一月
三日 明治節祝賀式
四日 明治節體育ア
旬 縣下中等學校女子競技大會

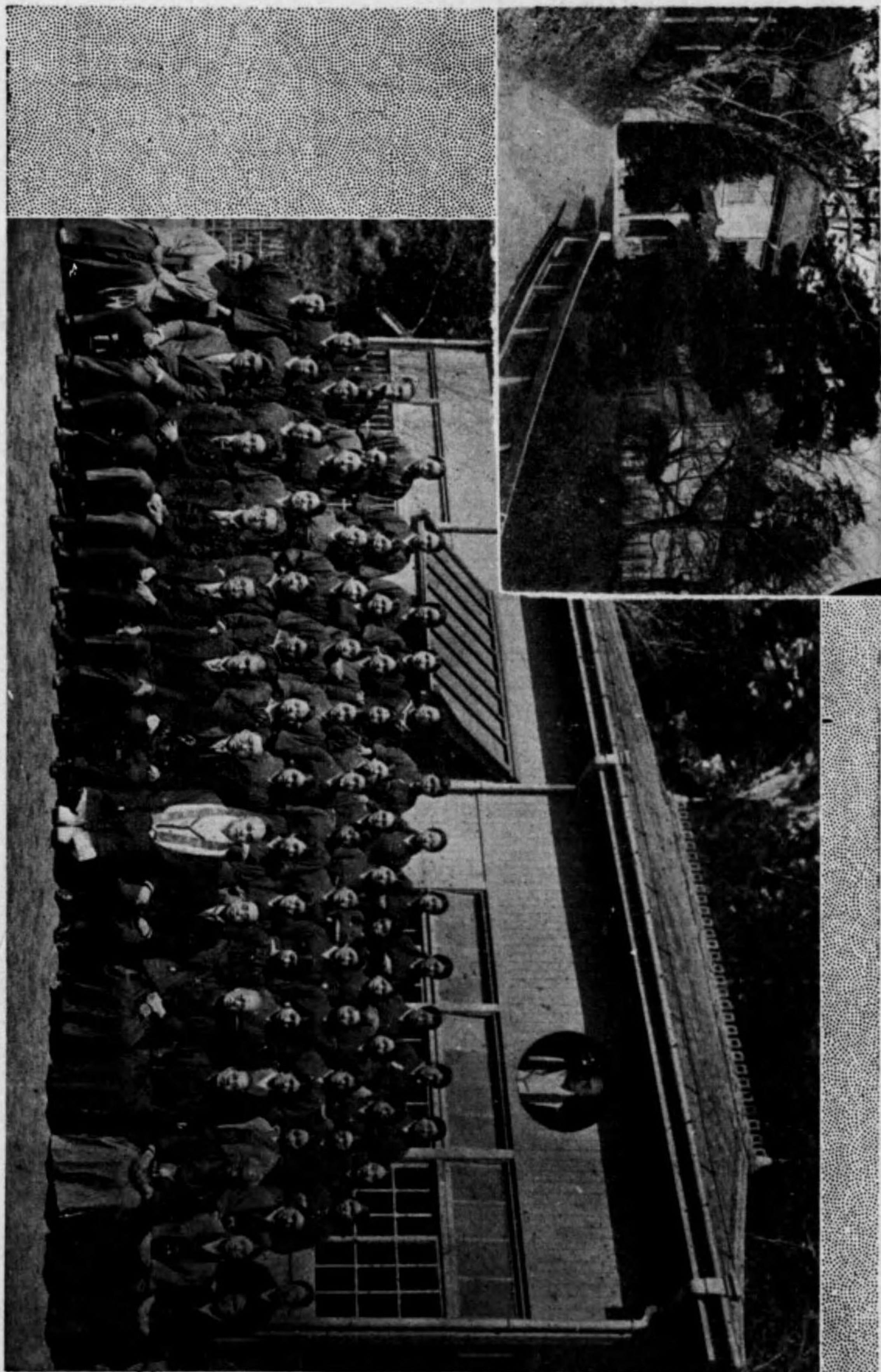
十二月
二十一日 第二學期授業終
二十四日 成績發表終業式
同 校友會雜誌原稿募集
二十五日 大正天皇祭

一 月
一日 新年祝賀式
九日 始業式
旬 教授豫定記入
中旬 來學年度教科書選定

二 月
十一日 紀元節祝賀式
十三日 創立記念祝賀式
同日 校友會學藝部會

三 月
六日 地久節祝賀式
十日 陸軍記念日
十二日 第三學期授業終
十五日 成績發表、終業式
十八日 證書授與式
未定 入學考查及成績發表

成田高等女學校



生業卒回三十二第及員職教

成田高等女學校々歌

笹川臨風作歌
山田耕作作曲

曉の榮ある光

永の夜の闇を破る

眠より覺めし乙女ら

なれの世ぞ今日の前に

美しき望は満てり

學びの窓は樂しき園生

幸ある前途いざこころほがん

成田なる岡の邊に咲く

千枝五百枝萬枝の梅

雪霜を凌ぎ堪へつゝ

さきがけし色匂やかに

清き香は四方に漂ふ

學びの窓は……

幸ある前途……

鐘の音は朝な夕なに

御堂より森へ響く

忘るな勤めはげめこ

我等をば教へ導く

澄み渡る心耳に冴えて

學びの窓は……

幸ある前途……

私立成田高等女學校一覽

(昭和九年四月現在)

◎教育方針及び施設概要

本校は成田山の經營に屬すも雖も確實に高等女學校令に準據し、絶對に宗教的布教宣傳の機關に供せず。専ら社會奉仕を目的として、國民教育の一部を負擔するものなり。

本校の教育方針は、教育勅語の御聖旨を服膺して、飽くまで其の實行を期し、學業を勵み、淑徳を修め、女子の本分を遵守せしめ、成田山事業の精神に鑑み實行動儉を旨として心身の鍛錬を怠らず、以て他日の社會奉仕を心掛けしむるにあり。

本校の經營たる、素より營利事業にあらざれば、成る可く父兄の負擔を軽減するのみならず、學費支辨に困難なる者の爲には、貸費、若しくは補助制度あり、獎學の爲には特待生、優等賞、精勤賞、等の制を設け學科に於ても正科の外、隨意科として手藝挿花、茶の湯、按摩を課し、體操科には薙刀を加へ形式を通じて武士道の精神を體得せしめ、音樂科にはオルガン數基の外、ピアノ二基を備へ、生徒に指導練習せしめ、創立記念日唱歌及校歌を制定して、本校の理想を明示し、併せて温雅優美の思想を涵養するに努む。

私立成田高等女學校一覽

◎沿革略

本校は元私立成田山女學校と稱し明治四十一年四月の創立に係り明治四十四年二月文部大臣の認可を得て成田高等女學校と改稱す所謂成田山事業の一にして校長兼校長たりし故成田山貫主石川大僧正の後を承け現貫首名譽校長荒木僧正慈心の下に生々發達しつゝあるものなり。

本校に理事ありて校長を補佐す石川甚兵衛、三橋金太郎の二氏は即ち其人にして石川理事現に専務たり。

明治四十四年二月十三日文部大臣より本校設立の認可を受けてより爾後の沿革は左の如し。

- 一 明治四十四年三月廿一日本校校則を制定す
- 一 同 四月一日成田中學校教諭中島喜二(高等師範 學校出身)校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一 同 四月一日、二日の兩日を以て二、三、四學年の編入試験を行ふ
- 一 同 四月五日生徒八十四名に入學を許可し之を本科第四學年以下の學年に分編し、同日始業式を行ふ

- 一 明治四十五年三月第一回卒業生を出し 千葉縣知事臨席す
- 一 明治四十四年十二月増築に着手せし講堂兼雨天體操場、理科教室普通教室等を竣へ大正元年十一月より使用したり
- 一 大正二年三月第二回卒業生を出す
- 一 大正二年九月校務主監兼教諭中島喜一休職を命ぜらる
- 一 同 十月理學士菅野皆可校務主監兼教諭に任せらる
- 一 大正三年三月第三回卒業生を出す
- 一 大正四年三月第四回卒業生を出せり
- 一 大正五年三月第五回卒業生を出す
- 一 大正六年三月第六回卒業生を出せり
- 一 同 十一月校務主監兼教諭菅野皆可休職を命ぜらる
- 一 同 十一月文學士中村安之助校務主監兼教諭に任せらる
- 一 大正七年三月第七回卒業生を出せり
- 一 大正八年三月第八回卒業生を出せり
- 一 大正八年十月校務主監死去
- 一 大正八年十二月文學士矢野太郎校務主監に任せらる
- 一 大正九年三月第九回卒業生を出す
- 一 大正十年三月第十回卒業生を出せり
- 一 大正十一年三月第十一回卒業生を出せり

- 一 大正十二年三月第十二回卒業生を出す
- 一 大正十二年十二月校務主監兼教諭矢野太郎依願解職を命ぜらる
- 一 大正十三年一月校主兼校長石川大僧正御遷化
- 一 大正十三年成田山貫主荒木僧正校長の認可を受く
- 一 大正十三年二月文學士笹川種郎校長に任せらる
- 一 大正十三年三月第十三回卒業生を出す
- 一 大正十三年五月神奈川縣立横濱第一中學校教諭佐藤國二校務主監兼教諭に任せらる
- 一 大正十四年三月第十四回卒業生を出す
- 一 大正十四年三月笹川文學士校長辭任
- 一 大正十四年四月笹川文學博士顧問となる
- 一 大正十四年三月校務主監佐藤國二校長兼教諭に任せらる
- 一 大正十四年七月理事小野寺清三郎死去
- 一 大正十五年三月第十五回卒業生を出す
- 一 昭和二年三月第十六回卒業生を出す
- 一 昭和二年三月校主荒木僧正を名譽校長に推戴す
- 一 昭和二年四月理事三橋重郎兵衛病氣の爲隱退す
- 一 昭和三年三月第十七回卒業生を出す
- 一 昭和四年三月第十八回卒業生を出す
- 一 昭和五年三月第十九回卒業生を出す

◎ 昭和八年度重要記事

- 一 昭和六年三月第二十回卒業生を出す
- 一 昭和七年三月第二十一回卒業生を出す
- 一 昭和八年三月第二十二回卒業生を出す
- 一 昭和九年三月第二十三回卒業生を出す
- 四月 五日 入學式、始業式舉行
- 四月 十七日 生徒身體検査施行
- 四月 廿五日 口腔検査施行
- 四月 廿九日 天長節祝賀式舉行
- 五月 十一日 檜山教諭の新任披露
- 五月 十三日 全校生徒銚子遠足
- 五月 十七日 講堂にて奥村五百子女史の映画開催
- 五月 十八日 滿洲事變戦病者慰靈祭舉行につき一同新勝寺大師堂に參拜
- 九月 廿三日 縣下女子競技大會に三四年外有志千葉高女行
- 十月 十五日 四學年塩原日光方面に修學旅行
- 十月 廿六日 一學年より三學年迄筑波遠行
- 十月 三十日 教育勅語奉讀式舉行
- 十一月 四日 競技大會開催
- 十一月 十日 精神作興詔書煥發十週年記念式舉行

◎ 學 則

- 十一月十九日 同窓會開催
 - 十二月十四日 琵琶演奏會開催
 - 一月 一日 四方拜祝賀式舉行
 - 二月 十一日 紀元節祝賀式舉行
 - 二月 十三日 創立記念式學藝部大會開催
 - 二月 十五日 青木督學官來校
 - 三月 十八日 第廿三回卒業式舉行
 - 三月 廿二日 入學考查施行
 - 三月 廿三日
- 第一章 總 則
- 第一條 本校の修業年限は本科四箇年とす
 - 第二條 生徒定員は二百人とす
 - 第三條 休日は左の如し
 - 一、祝日、大祭日
 - 二、日曜日
 - 三、皇后陛下御誕辰
 - 四、記念日二月十三日
 - 五、夏季休業七月廿日より八月卅一日に至る
 - 六、冬季休業十二月廿六日より翌一月七日に至る

私立成田高等女學校一覽

第二章 學科課程教授時數
 第四條 本校の學科目に編物袋物挿花按摩茶の湯を加へ隨意科目をす
 第五條 學科課程及び教授時數左の如し

科目	年級			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	人倫道德ノ要旨、作法、法	同上	同上	同上
公民	同上	同上	同上	同上
國語	講讀、習字、作文、文法	同上	講讀、作文、漢文	同上
英語	讀本、譯解、習字	同上	讀本、譯解、作文	同上
歴史	本邦地理、本邦歴史	外國地理、外國歴史	同上	同上
地理	本邦地理、本邦歴史	外國地理、外國歴史	同上	同上
數學	算術、代數、幾何	同上	同上	同上
理科	植物、動物、生理衛生	同上	同上	同上
圖畫	自在畫	同上	同上	同上
家事	同上	同上	同上	同上
裁縫	縫方、裁方	同上	同上	同上
音樂	二重音、唱歌	同上	同上	同上

科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
體操	普通體操	同上	同上	同上
遊藝	同上	同上	同上	同上
教育	同上	同上	同上	同上
計	同上	同上	同上	同上
編物	同上	同上	同上	同上
袋物	同上	同上	同上	同上
挿花	同上	同上	同上	同上
茶湯	同上	同上	同上	同上
按摩	同上	同上	同上	同上

第三章 入學及退學
 第六條 生徒募集は學校長期日學年及人員を定め之を公告すべし但時宜に依り臨時入學を許すことあるべし
 第七條 入學志願者は本校所定の入學願書を差出すべし
 第八條 一學年入學志願者に就いては小學校長の内申に基づき試問及身體検査に依りて之を檢定す
 第九條 前條の試問は小學校卒業程度に依りて之れを行ふ
 第十條 第二學年以上に入學を許すべき者は相當年齢に達し學力檢定に合格したるものたるべし
 第十一條 入學を許可せられたる者は在學証書に戶籍謄本を添へて差出すべし
 (在學証書は印刷しあるを以て省略す)

第十二條 保證人は親權者若くは後見人又は親族にして一家計を立て本人に關し一切の責を負ふに足るべきものたるべし
 第十三條 保證人の住所學校所在地より一里以内に在らざるべきは一里以内に住所を有し一家計を立つる者を以て代理保證人に定め保證人連署の上之を學校長に届出づべし
 第十四條 學校長は必要に認むるときは保證人又は代理保證人を變更せしむることあるべし
 第十五條 保證人若しくは代理保證人住所氏名を變更し又は改印したる時は直に學校長に届出づべし
 第十六條 生徒退學せんときは其理由を記し保證人連署の上學校長に届出づべし
 第十七條 生徒病氣其の他止むを得ざる事由に由り三ヶ月以上出席し難き時は期間を定め休學を願出づることを得但し期間は一ヶ年間を超ゆることを得ず
 第四章 修了及卒業
 第十八條 各學科の課程の修了又は卒業を認むるには平素の學業成績を考査して定むべし
 第十九條 卒業證書及修業證書は所定の形式に依る
 第五章 授業料及入學料
 第二十條 一、授業料は月額金三圓とし毎月十日迄に之を納め

特に其期日を指定したる時は其當日納むべし但毎年八月は之を徴收せず
 二、入學志願者は入學考査料金壹圓を納附すべし
 第六條 賞 罰
 第廿二條 品行方正學術優秀なる者は特待生として授業料の全部又は一部を免除し若くは賞品褒状を與ふ
 第廿三條 學校長は左の各項に該當する者には退學を命ず
 一、性行不良にして改善の見込なしに認めたる者
 二、成業の見込なしに認めたる者
 三、出席常ならざる者
 第廿四條 規則命令に違背し學校の風紀を害する者は其の輕重に依り戒飭停學又は退學に處す
 第廿五條 生徒取締に關する規程は學校長之を定む
 第七章 附 則
 第廿六條 本校則施行に關する細則及び其の他必要なる内規は學校長之を定む

◎職員

受持學科	職名	姓名	籍	就職年月
修身、歴史、	校長	荒木照定	千葉縣	大正十三年二月
數學、	名譽校長	笹川種郎	東京府	大正十三年五月
英語、歴史、教育、	文藝學博士	佐藤國二	滋賀縣	昭和四年九月
物理、博物、地理、	校長兼教諭	並木和彦	長野縣	昭和六年九月
圖畫、習字、英語、	教諭	太田幾	千葉縣	昭和七年四月
家事、化學、地理、	教諭	岡内	千葉縣	昭和五年四月
裁縫、作法、	教諭	大倉治	千葉縣	昭和四年一月
裁縫、	教諭	小倉美津子	千葉縣	昭和六年四月
國語、歴史、	教諭	平山	千葉縣	昭和六年四月
體操、	教諭	中野美津子	千葉縣	昭和六年四月
音樂、	囑託教師	小野山	東京府	昭和四年四月
插花、	同	櫻井文吉	千葉縣	大正十五年四月
按摩、	同	酒井泰作	千葉縣	大正十四年三月
	同	伊藤藤	千葉縣	明治四十五年四月
	同	山内平治	千葉縣	明治四十四年四月
	同	三須重五郎	千葉縣	昭和五年五月
	學校醫(商科)			

◎成田山女學校卒業生人名

(明治四十四年三月) (ハ結婚ノ印) (イロハ順)

◎卒業生人名現況表

(イロハ順) (ハ結婚ノ印) (ニ死亡ノ印)

第一回卒業生 (明治四十五年三月) 十名	現況
(舊岩瀨) 藤崎好	大塚
石原みよ	大木
橋谷もと	山野
長谷川り	若林
長谷川さ	香取
戸塚ひさ	深喜
小川し	秋葉
小田近	木内
(舊吉岡) 泉とみ	木内
吉田とよ	三橋
田中あ	菅澤
(舊上原) 杉山あ	鈴木

第二回卒業生 (明治四十五年三月) 十名	現況
(岩瀨改) 藤崎好	吉本
(橋谷改) 平井もと	大木
×田中あい	山野
×成田	野取
×成田	野取
×成田	野取
×成田	野取
×成田	野取
×成田	野取
×成田	野取

私立成田高等女學校一覽

第二回卒業生 (大正二年三月) (十二名)

(木内改) 生田 欣 同 成田
 ×木内 けい 同 成田
 ×三橋 妙子 同 中郷
 (池田改) 勝田 ゆき 印旛中郷
 池田 みち 印旛成田
 石原 静 同 成田
 (林改) 川村 ふく 同 八生
 (渡邊改) 林 清喜 安房 湊
 (加藤改) 竹村 きん 印旛中郷
 (田中改) 横山 菊子 印旛成田
 ×黒澤 きく 同 富里
 (中島改) 齋藤 朝 君津青柳
 (大友改) 石井 光子 宮城仙臺
 (小林改) 武津 キン 東京牛込
 (秋葉改) 土屋 ふで 山武城東
 (伊藤改) 澤田 ひさ 印旛八生
 ×飯泉 しげ 同 成田
 石原 ひろ 同 同
 (林改) 谷田 部ゆき 同 同
 (幡谷改) 師岡 幸 同 同

第三回卒業生 (大正三年三月) (二十一名)

小學校訓導
 東京和洋裁縫學校卒業
 小學校訓導

(土井改) 永塚 わき 同 桝原
 加藤 あい 同 成田
 (吉岡改) 鈴木 てい 同 公津
 (吉岡改) 鈴木 とし 同 同
 (谷平改) 平山 かね 同 久住
 (露崎改) 荒木 キク子 長生五郷
 (成田改) 綿貫 きよ 印旛佐倉
 (武藤改) 渡邊 さだ 同 永治
 (大島改) 石橋 のぶ 同 八生
 大須賀 ゆう 同 安食
 (桑原改) 加藤 くに 同 安食
 (山下改) 藤崎 たか 同 成田
 (藤崎改) 茂木 包 同 富里
 (宮崎改) 佐竹 和歌子 東京下谷
 (鹽田改) ×北村 菊代 同 布織
 (岩井改) 大木 美津 印旛安食
 ×土井 わか 同 公津
 ×蔵 くに 同 公津
 (綿貫改) 青柳 らめ 茨城取手
 (加藤改) 安田 もと 印旛成田

第四回卒業生 (大正四年三月) (二十八名)

小學校訓導

神戸 もと 同 成田
 ×川島 フサ 同 富里
 (竹村改) 鈴木 しげ 同 富里
 (根本改) 古川 菊 千葉椎名
 (並木改) 打木 すづ 印旛遠山
 武藤 きみ 茨城 文
 (猪野改) 松戸 その 山武 源
 (平山改) 伊藤 あい 印旛成田
 大竹 たい 香取小御門
 (大木改) 鈴木 あやめ 印旛中郷
 (黒川改) 行方 りき 同 成田
 (桑原改) 岩井 なみ 同 安食
 山野 いく 同 成田
 (山田改) 土井 満喜 同 安食
 (山田改) 柴宮 よし 印旛八生
 (山田改) 齋藤 わか 同 豊住
 増岡 りき 埼玉藤田
 秋山 うめ 印旛八生
 天野 眞 知夷岡大多喜
 ×浅倉 みつ 印旛安食
 湯村 とよ 宮城仙臺
 (宮内改) 篠原 みや 印旛八生
 谷 とく 同 公津

第五回卒業生 (大正十五年三月) (二十六名)

大野 いく 印旛久住
 (磯部改) 石原 ゆう 印旛成田
 飯倉 きく 同 成田
 馬場 ちよ 同 宗像
 (土井改) 作羽 内とし 同 六合
 小川 敬 同 志津
 高橋 きく 香取滑河
 上原 こう 印旛成田
 野平 吉野 同 豊住
 (野平改) 横堀 ゆき 同 豊住
 (大三川改) 尾形 本子 香取多古
 (大木改) 廣澤 てい 印旛成田
 (奥澤改) 染谷 春野 同 白井
 (山内改) 土肥 徳子 同 成田
 山本 くに 同 安食
 京増 たか 同 酒々井
 (藤崎改) 相京 くに 同 遠山
 小坂 ひめ 同 酒々井
 圓城 寺てい 同 公津
 齋藤 こう 同 成田
 湯浅 うら 同 八生
 三橋 みち 同 富里

私立成田高等女學校一覽

戸板裁縫女學校卒業
 小學校訓導
 小學校訓導
 小學校訓導

小學校訓導
 東京高等師範學校保育科卒業

和洋裁縫女學校卒業
 日本女子大學卒業

私立成田高等女學校一覽

東京共立女子職業學校卒業

第六回卒業生 (大正六年三月) (二十九名)

- (三橋改) 東 平野 香根 市原高瀨
- (關川改) 藤崎 風 印藤成田
- 鈴木 けい 東葛飾明
- ×岩 館かね 印藤遠山
- (石原改) 原田 やす 同 成田
- (小川改) 吉原 晃 同 八生
- 萩原 美子 同 千代田
- 渡貫 はる 同 根郷
- (川口改) 森田 ユウ 同 佐倉
- (川崎改) 齋藤 よし 同 公津
- 吉岡 豊子 同 成田
- (高川改) 山崎 綾子 同 成田
- (鷲崎改) 上原 君子 同 長生五郷
- (夏海改) 岩井 千代 同 印藤遠山
- 大友 ちか 宮城仙臺
- (武藤改) 江口 ミヤ 同 印藤永治
- ×大木 道子 同 成田
- (大野改) 榎澤 千代 同 旭
- (國本改) 佐久間 とし 同 富里
- (山本改) 鈴木 せき 同 豊住

戸板裁縫女學校卒業

東京高等師範學校保育科卒業

成田幼稚園保母

佐倉大石裁縫女學校卒業

第七回卒業生 (大正七年三月) (二十七名)

- 山本 米 同 成田
- 山崎 たけ 同 阿蘇
- (淺井改) 瀧澤 よし 同 成田
- (相京改) 後藤 ひな 同 公津
- 安西 よし 同 遠山
- (京須改) 徳田 菊江 同 成田
- 水野 しま 同 成田
- (宮川改) 寺口 きよ 同 新潟源
- (篠田改) 石井 喜久 同 重茨城金江津
- (廣瀬改) 永島 てい 同 印藤成田
- 諸岡 米 同 成田
- (須藤改) 五十嵐 けい 同 六合
- (岩井改) 石野 ふぢ 同 印藤本塾
- (岩井改) 近藤 こう 同 大森
- (石井改) 杉野 ちい 同 豊住
- (石川改) 日暮 てい 同 成田
- 土井 きく 同 千葉大和田
- (土肥改) 鈴木 はな 同 印藤公津
- 土肥 なつ 同 公津
- 神崎 りん 同 印藤遠山

東京女子音楽學校卒業

小學校訓導

- (加藤改) 福島 千代 香取多古
- (大徳改) 横瀬 三枝 同 印藤久住
- 谷 よし 同 公津
- (玉村改) 三橋 千代 茨城布川
- 山口 ふじ 同 印藤成田
- (山田改) 岩井 よし 同 豊住
- 藤崎 いし 同 遠山
- 小林 とし 同 阿蘇
- 小坂 てる 同 酒々井
- (後藤改) 高橋 とし 同 安食
- (遠藤改) 石井 はる 同 公津
- 筋 慶子 同 酒々井
- (深山改) 押尾 とく 同 六合
- (宮内改) 丸 ぎよ 同 八生
- (宮内改) 石橋 三千江 同 長生一松
- 楡垣 千代 同 印藤久住
- ×關川 利子 同 成田
- 諏訪 原てる 同 久住
- 鈴木 きよ 同 成田

小學校訓導

東京共立女子職業學校卒業

女子美術學校卒業

第八回卒業生 (大正八年三月) (三十二名)

- 五十嵐 ゆき 東葛飾布佐
- 石原 つや 印藤四街道
- 小學校訓導
- 東京共立女子職業學校卒業
- (石上改) 梶谷 圭子 海上瀧郷
- (汚田改) 北村 喜代 同 福岡城内
- 長谷川 よし 同 埼玉小林
- (岡部改) 阪井 雪子 同 三重蒲田
- (小川改) 伊藤 はつ 同 印藤八生
- ×小川 喜美 同 東京淺草
- ×小川 喜以 同 印藤八生
- ×勝田 ふみ 同 安食
- (吉田改) 諸岡 のぶ 同 公津
- 瀧澤 喜久 同 成田
- (高川改) 東 種子 同 安房北三原
- 中村 はる 同 印藤成田
- (中島改) 加勢 清子 同 長野西寺尾
- 上野 直枝 同 東京麻布
- 大久保 しげ 同 印藤本塾
- (大川改) 石橋 さい 同 成田
- (山田改) 加藤 みつ 同 豊住
- (山田改) 大野 満壽 同 安食
- 山内 登波子 同 成田
- (山内改) 佐野 泰子 同 印藤成田
- (藤崎改) 小倉 三代 同 千葉更科
- 福田 とら 同 印藤成田
- (淺井改) 石岡 いし 同 成田

私立成田高等女學校一覽

私立成田高等女學校一覽

東京女子高等師範學校卒業

(坂本改)。伊藤はま 茨城文間
。湯淺 達 印旛八生
。島田 惠 同酒々井
(日暮改)。佐藤てい 同 中郷
。清宮いつ 同 八生

奈良女子高等師範學校卒業
前橋高等女學校教諭

(本橋改)。小島こう 同 本塾
(關川改)。原 郁 同 成田

第九回卒業生 (大正九年三月) (三十一名)

女子醫學專門學校卒業

(岩館改)。飯高やす 印旛成田
(石井改)。木下やす 同酒々井
(石井改)。鶴岡たけ 同 遠山
(伊藤改)。石井喜代 同 富里
(伊藤改)。野坂てる 同 成田
。池田敏子 茨城八原
(池田改)。菊地きよ 印旛富里
(土井改)。小出とみ 同 公津
(土井改)。岩井とし 同 公津

共立女子職業學校專攻科卒業
成田高等女學校教諭

。大木とし 同 成田
(小川改)。藤崎きよ 同 公津
。小川かく 同 公津
(小川改)。山田 靜 同 八生

和洋裁縫女學校卒業

小學校訓導
小學校訓導

(川上改)。笠井 謙 同 白井
。加瀬はな 同酒々井
(竹村改)。林田きみ 同 富里
。根本テル 同 豊住
(仲山改)。本多千代 同 公津
。宇井幾久子 同 成田
(山田改)。塚本喜代 同 八生
。山本こう 山武日向
。清水貞子 印旛成田
(山本改)。石田しげ 同 和田
(福田改)。小倉光子 同酒々井
。小林せい 同 白井
。寺内三枝 同 成田
。坂田コウ 同 富里
。宮島頼子 同 大森
(三須改)。高知 衣 同 川上
。杉田はな 印旛安食

第十回卒業生 (大正十年三月) (二十六名)

小學校訓導

。石川 久 印旛成田
。伊藤とも 山武上野
(林改)。湯淺君代 印旛八生

東京裁縫女學校卒業

。島村サト 山武松尾
(小川改)。根本てい 印旛公津
。小野寺千代子 同 成田

東京女子高等師範學校保育科卒業
成田幼稚園保母

(海瀨改)。高田よし江 安房稻都
(神崎改)。遠藤あい 印旛遠山
。吉岡きやう子 同 木下
(谷改)。榎垣うめ 同 公津
(中山改)。木村たつ 同 成田
。中越加津子 同 成田
。葛生かつ 同 安食

小學校訓導

帝國女子專門學校卒業

(山田改)。岩瀬布知 同 八生
(山田改)。藤崎せい 同 八生
。中野哲子 香取高岡
。×松田さだ 印旛成田
。×丸 みち 同 公津
(古田改)。湯淺千代 東葛飾布佐
。中野 愛茨城金江津
(後藤改)。鈴木たま 印旛安食
。篠田みつ 同 遠山
(遠藤改)。石井ゆう 同 公津
(須藤改)。富井静子 同 六合
(鈴木改)。守永好枝 茨城布川

女子醫學專門學校卒業

(鈴木改)。佐山いく 印旛六合
(石橋改)。伊藤喜代 印旛成田
(飯倉改)。片山ひさ 同 成田
。×秦野とく 同 公津
(堀改)。難波千代 東京大久保
(堀内改)。清岡三鶴 高知津呂
。大木みつ 印旛八生
。加藤くに 同 八生
。神崎やす 同 遠山
。川村長子 同 成田
。川島まつ 同酒々井
。田中はな 茨城龍崎
。高橋こと 印旛大森
(高川改)。深見興子 安房北三原
(谷改)。秋山すい 印旛公津
。高野嘉代 同 富里
。×増淵才 同 安食
。小倉 松 同 成田
。×黒田くに 同 成田
(山本改)。後藤たか 同 安食
(山田改)。小倉てい 同 八生

小學校訓導

小學校訓導

第十一回卒業生 (大正十一年三月) (三十八名)

(鈴木改)。佐山いく 印旛六合
(石橋改)。伊藤喜代 印旛成田
(飯倉改)。片山ひさ 同 成田
。×秦野とく 同 公津
(堀改)。難波千代 東京大久保
(堀内改)。清岡三鶴 高知津呂
。大木みつ 印旛八生
。加藤くに 同 八生
。神崎やす 同 遠山
。川村長子 同 成田
。川島まつ 同酒々井
。田中はな 茨城龍崎
。高橋こと 印旛大森
(高川改)。深見興子 安房北三原
(谷改)。秋山すい 印旛公津
。高野嘉代 同 富里
。×増淵才 同 安食
。小倉 松 同 成田
。×黒田くに 同 成田
(山本改)。後藤たか 同 安食
(山田改)。小倉てい 同 八生

私立成田高等女學校一覽

私立成田高等女學校一覽

一四

東京女子高等師範學校
専攻科卒業

(矢野改)。二瓶 敬 愛媛久米

保 姆

東京女子職業學校卒業

藤崎 しん 印旛遠山

(石橋改)。井浦多 美香取小見川

東京縫織女學校卒業

藤崎 ふみ 同酒々井

(荒改)。荒井な 印旛成田

千葉女子師範二部卒業

藤崎 たい 同酒々井

(石橋改)。石原とみ 同酒々井

小坂 とめ 同酒々井

(林改)。腰川八千代 同八生

寺本 きみ 同八生

(原改)。大木えつ 同佐倉

東京女子美術學校卒業

齋藤 たけ 市原八幡

(土井改)。土井よし 同公津

小學校訓導

齋藤 たい 市原八幡

(野口改)。野崎よし 同公津

宮崎 秀子 長生八積

(大澤改)。大澤しげの 印旛本塾

第十二回卒業生 (大正十二年三月) (三十九名)

(湯淺改)。神崎 はな 同八生

(大木改)。大木美代 同八街

篠原 芳技 印旛木下

(小野改)。小野寺シゲ 同成田

(日暮改)。西谷 トミ 同中郷

(小倉改)。小倉茂子 同成田

(泉對改)。石井 ヒロ 千葉豊富

(太田改)。大野鹿子 同公津

菅 壽美 匝瑛梅海

(勝田改)。勝田俊 同八生

(鈴木改)。竹尾 とし 印旛成田

(吉橋改)。海保きん 印旛旭

小學校訓導

(鈴木改)。松崎 錦 秋田本莊

(並木改)。三屋菊子 印旛遠山

小池 よし 同遠山

(鶴澤改)。鶴澤喜代 山武遠沼

小學校訓導

(安達改)。藤崎 靖子 同遠山

(高槻改)。高槻洋子 同公津

第十三回卒業生 (大正十三年三月) (四十七名)

相京 いく 同酒々井

(高橋改)。高橋しのぶ 香取滑河

秋山 ユヤ 同中郷

(瀧澤改)。瀧澤喜代 印旛成田

櫻井 けい 香取小御門

(中島改)。中島さき 同安食

私立成田高等女學校一覽

一五

×島田 輝代 印旛酒々井

(野口改)。野口と 同公津

平野 和子 同八生

(山田改)。山田か 同成田

平山 まさ 同成田

(山内改)。山内聰 同成田

平山 はつ 同成田

(松田改)。大竹ふく 同成田

(石川改)。今井たけ 印旛成田

(藤原改)。藤原せつ 同小御門

岩田 とみ 同布織

(船橋改)。船橋つね 同成田

石原 節 同安食

増田 とし 香取加藤津

豊田 登代 同成田

日本女子大學校家政科卒業

増淵 てい 同公津

紺谷 満枝 同成田

及川 ナカ 匝瑛 榮

小泉 繁子 同成田

岡田 けい 印旛本塾

私立成田高等女學校一覽

小學校訓導

秋山みつ 同 八生
 坪井むつ 香取高岡
 相京タケ 印旛公津
 齋藤あい 同 遠山
 齋藤きよ 同 酒々井
 ×佐伯とみ 長生土睦
 湯浅ゆり 印旛八生
 湯浅つね 同 八生
 ×三橋孝子 同 成田
 (宮川改) 長竹幾子 同 酒々井
 宮内はる 同 八生
 島田清 同 酒々井
 (平山改) 伊藤とし 香取多古
 (關川改) 淺尾昭 印旛成田
 鈴木とし 同 公津
 鈴木つる 茨城布川
 菅谷とし 同 白鳥
 伊藤みづ 印旛八生

第十四回卒業生 (大正十四年三月) (四十四名)

小學校訓導
 石橋あき 同 中郷
 林しめ子 印旛成田
 長谷川のぶ 同 成田
 大澤敦 同 八生
 ×岡田喜美 埼玉興野
 小倉治子 印旛成田
 小倉まさ 同 富里
 ×大木ヤキ 同 中郷
 大木ゆき 同 八生
 小川春子 同 八生
 大竹かね 同 富里
 竹尾きよ 印旛和田
 中野美津子 香取高岡
 (永田改) 蝦原順子 印旛成田
 岡崎律 同 豊住
 (牧野改) 川内とし 同 成田
 丸よし 同 公津
 (京須改) 汪八重 同 成田
 藤崎けい 同 遠山
 藤倉しげ 同 成田
 (古川改) 吉川壽 同 成田

櫻井女塾卒業

(小林改) 田中はる 茨城金江津

土岐裁縫女學校卒業

石橋とよ 印旛中郷

和洋裁縫女學校卒業

(手島改) 神戶せつ 同 遠山

和洋裁縫女學校卒業

池田頼子 山武千代田

小學校訓導

秋山ふさ 同 八生

土岐裁縫女學校卒業

今井春子 印旛成田

小學校訓導

相川とく 同 公津

小學校訓導

戸村千代 同 和田

小學校訓導

齊藤きよ 同 公津

臨時教員養成所卒業

小川つぎ 同 八生

小學校訓導

坂田信 同 富里

女子高等學園卒業

小倉梅 同 成田

小學校訓導

木内つね 同 酒々井

女子高等學園卒業

小倉とり 同 成田

小學校訓導

湯浅てい 同 八生

共立女子專門學校卒業

伊藤きん 同 成田

小學校訓導

諸岡ます 同 成田

共立女子專門學校卒業

勝田優 同 成田

小學校訓導

野村益代 同 成田

女子師範專攻科卒業

吉岡たか 同 北須賀

小學校訓導

關口しげ 同 久住

女子師範專攻科卒業

多田喜代 同 公津

小學校訓導

鈴木こと 同 富里

女子師範專攻科卒業

高橋さゆり 香取滑河

小學校訓導

石橋たみ 印旛成田

女子師範專攻科卒業

高橋さだ 茨城金江津

小學校訓導

石橋つたい 香取滑河

女子師範專攻科卒業

野々宮みつ 印旛成田

小學校訓導

葛生千代 同 久住

女子師範專攻科卒業

柳本喜恵子 印旛成田

小學校訓導

千葉高女補習科卒業

女子師範專攻科卒業

柳本喜恵子 印旛成田

私立成田高等女學校一覽

私立成田高等女學校一覽

女子師範保育科卒業
小學校訓導

山崎きく同 豊住
浅井 壽同 成田
麻生 菊 枝山武千代田

茨城女子師範二部卒業

(青木改)。石渡 ころ 印旛本塾
青山 まつ 茨城金江津

日本女子大學校卒業

(木村改)。山崎 よし 香取多古
木下 けい 印旛成田

女子高等學院在學

龍崎 しづ 同 遠山
湯淺 公巳 同 八生

小學校訓導

湯淺 みつ 同 八生
椎名 静 同 大森

小學校訓導

柴崎 ゆき 同 大森
平山 いち 同 成田

第十六回卒業生 (昭和二年三月) (四十六名)

(石井改)。岩澤 イワ 印旛豊住

女子美術學校卒業

砂原あや子同 富里
岩澤 利子同 遠山

和洋裁縫女學校卒業

(豊田改)。久保田喜美 同 成田
大竹 さと 同 富里

女子高師保育科卒業

大久原 節 同 成田
勝田 よし 同 八生

女子職業學校卒業

平山 ミツ 同 安食
吉岡 あゑ 同 印旛成田

千葉高女家庭科卒業

高橋 あゑ 同 印旛成田
高橋 よね 同 成田

千葉高女家庭科卒業
小學校訓導

高橋 よね 同 成田
瀧澤 由子 同 成田

和洋裁縫女學校卒業

中野 雪子 香取大和田
桑原 米 同 印旛久豊

(小倉改)。戸田 タケ子 同 成田

(渡邊改)。佐藤 すま 同 成田

小學校訓導

(渡邊改)。木原 ゆき 同 成田

大妻裁縫女學校卒業

片岡 てる 香取多古
木内 い 同 印旛遠山

土岐裁縫女學校卒業

(神崎改)。林 榮 同 遠山
福田 やす 茨城金江津

女子美術學校卒業

秋山 はる 同 八生
内田 愛 同 千代田

千葉高女家庭科卒業

(諸岡改)。藤岡 琴子 同 成田
平山 しづ 同 香取多古

女子美術學校卒業

宮田 節 同 成田
水野 愛子 同 成田

女子美術學校卒業

湯淺 とし 同 印旛八生
木内 ふじ 同 香取多古

女子美術學校卒業

齋藤 なみ 同 公津
齋藤 よし 同 公津

女子美術學校卒業

坂田 りう 同 印旛富里
寺内 八重 同 成田

女子美術學校卒業

加藤 けい 同 成田
加藤 なみ 同 公津

第十七回卒業生 (昭和三年三月) (四十九名)

石川 きく 同 印旛成田

(伊藤改)。中村 みさ子 同 遠山

飯塚 まつ 同 成田

林 花子 同 成田

土肥 みさを 同 公津

鳥居 薫 同 成田

小川 くに 同 公津

小川 のぶ 同 中郷

小倉 豊 同 成田

小倉 えい 同 成田

太田 愛和 夫 同 公津

(大島改)。大竹 春江 同 八生

×荻原 とみ 同 豊住

渡邊 つる 同 成田

神戶 光子 同 成田

加藤 カツエ 同 公津

×加藤 なみ 同 遠山

海保 富美代 茨城金江津

私立成田高等女學校一覽

(大徳改)。幸田光子 印旛成田

(長竹改)。池上勅子 同酒々井

(野口改)。小川七五三 同豊住

(葛生改)。楡垣つる 同安食

久保庭菊江 同成田

那司和歌子 同遠山

矢村仁枝 同公津

矢村美都江 同公津

山田とよ 同八生

山本雅子 同成田

山本幸子 同安食

丸本千代 同公津

(増淵改)。山田英子 同成田

藤江和子 同安食

藤崎ことね 同同

圓城寺つね 同公津

青木トク 同本塾

×秋山弘 同富里

佐久間ふみ 同成田

木内しげ 同成田

湯浅ちい 同八生

(清水改)。間中文代 同遠山

島田治子 同成田

鈴木隆子 同木下

(鈴木改)。大久保ぎん 茨城布川

池田いく 同印旛安食

(石橋改)。大木はつ 同成田

澤田千代 同八生

(伊藤改)。稲葉文子 同印旛公津

遠藤くに 同公津

本多ちよ 同遠山

細川喜美 同遠山

堀江正子 同成田

小野寺キク 同成田

小山マス 同六合

大木貞子 同成田

渡邊もと 同成田

松本まさ 同安食

勝又千代 同遠山

吉岡きみ 同公津

小學校訓導

高久 繁 同安食
高川 春野 同成田
谷本 敏子 同豊住
根本 敏子 同豊住
(成島改)。古池きい 同大森
宇島みさを 夷隅國吉
郡司 秀香 取日吉
黒川 喬 印旛成田
山田 包 同公津
山口 精 同東京
藤崎 精 同印旛成田
藤崎 のぶ 同安食
藤崎 千代 同成田
越川 春江 同遠山
小林 富子 同成田
宮下 有年子 同遠山
荒井 たまほ 同布織
吉岡 節 同中郷
坂本 富美代 香取滑川
坂田 米 印旛富里
菊地 喜代 同公津
塚本 とよ 香取滑川
(木内改)。成山 山 同印旛公津
(湯浅改)。成山 山 同印旛公津

和洋裁縫女學校卒業

大妻技藝學校高等家庭科卒業

佐倉伊藤裁縫女學校卒業

日本女子大學校卒業

小學校訓導

小學校訓導

第十九回卒業生 (昭和五年三月) (四十七名)

三橋 壽子 同公津
新橋 千代 同成田
(白田改)。柿崎 キワ 山形大谷
日暮 環 同印旛成田
瀨尾 ふく 同安食
鈴木 秋江 同公津
鈴木 木ふち 同成田
鈴木 木君 同公津
石井 八千代 同印旛布織
稲垣 シゲ 同成田
伊藤 清子 同成田
伊藤 清子 同木下
池田 百子 同遠山
五十嵐 はる 同木下
飯岡 文 同豊住
土井 しづ 同公津
土肥 こう 同公津
加藤 きよ子 同中郷
勝田 すま 同安食
吉岡 九重 香取滑河

私立成田高等女學校一覽

小學校訓導

瀧澤 ひさ 同 印旛成田
 武田 まさ 同 八生
 根本 せつ 香取滑河
 根本 ふで 同 印旛成田
 成毛 喜美枝 同 豊住
 宇佐見 智意 同 中郷
 小川 志津江 同 公津
 小川 あい 同 成田
 小川 きくえ 同 成田
 小川 けい 同 遠山
 小倉 とし 同 八生
 小高 ふよ 同 公津
 桑原 あい 同 布録
 山田 きん 同 豊住
 山田 はる子 同 成田
 X 藤崎 貞子 同 遠山
 藤田 好子 同 八生
 後藤 よね 同 八生
 後藤 正子 同 八生
 相京 サダ 同 公津
 浅野 ふみ 同 中郷
 佐久間 やす 同 成田
 石川 よね 同 成田

第二十回卒業生 (昭和六年三月) (四十二名)

X 湯浅 孝子 同 八生
 湯浅 きみ 同 八生
 宮内 たけ 同 八生
 水野 鶴子 同 成田
 下村 妙子 同 八生
 新橋 美子 同 成田
 平山 はな 香取多古
 平間 きみ 同 同
 廣瀬 はん 同 同
 泉 水志満 同 公津
 鈴木 美江 同 公津
 鈴木 かつ 同 成田
 伊藤 千代 同 印旛遠山
 八田 羽コウ 同 安食
 長谷川 すみ子 同 成田
 西内 せゑ 同 成田
 戸村 喜美山 同 武千代田
 豊田 徳 同 印旛成田
 土井 とし 同 成田
 小川 みつ 同 成田
 小川 てる 同 遠山

日本女子大學在學

小倉 のぶ 同 八生
 小倉 たか 同 久住
 大川 登志 同 印旛成田
 織原 はる 同 本埜
 海瀬 廣子 同 成田
 吉岡 緑 香取滑河
 高津 かな 同 成田
 谷 いわ 同 公津
 久保庭 しづ 同 成田
 黒川 マチ子 同 成田
 黒川 満 同 成田
 黒澤 たけ 同 富里
 山田 えい 同 印旛安食
 山崎 よし 同 公津
 山本 みちゑ 同 安食
 松田 まさ 同 成田
 丸 ふうさ 同 公津
 古矢 茂子 同 成田
 古矢 光子 同 成田
 古郷 渡子 同 成田
 小泉 りめ 同 富里
 浅井 きし 同 成田
 藤崎 しん 同 富里

第二十一回卒業生 (昭和七年三月) (四十六名)

(秋山改)。木内 トヨ 同 中郷
 佐藤 芳子 同 遠山
 木内 文江 同 成田
 三橋 梅子 同 遠山
 三橋 千代子 同 中郷
 椎名 八千代 同 大森
 澁谷 きよ 同 遠山
 一鍛田 よし 同 中郷
 菅沼 文 同 富里
 石川 壽 同 印旛成田
 石川 ちい 同 成田
 石橋 もと 同 中郷
 稻垣 ふみ 同 成田
 飯山 静子 同 大森
 岩澤 菊枝 同 山武二川
 新田 美穂子 同 宮城鷹来
 土井 とき 同 印旛公津
 大須賀 かつ 同 安食
 大木 まつ 香取小御門
 小川 トシ 同 印旛中郷
 小川 景 同 印旛八生

私立成田高等女學校一覽

私立成田高等女學校一覽

共立女子専門學校在學

東京女子醫學專門學校在學

共立女子専門學校在學

小川 すい 同 公津
 萩原 とし 同 豊住
 渡邊 佐喜子 同 成田
 渡邊 茂代 同 成田
 渡邊 由子 同 木下
 川村 春子 同 成田
 田中 節子 同 遠山
 多田 せつ子 同 公津
 竹内 たつ子 同 成田
 葛生 ふじ 同 安食
 山田 春枝 同 成田
 山野 うの 同 成田
 前田 みや 同 大森
 丸 たけ 同 公津
 藤崎 あい 同 成田
 藤崎 ヒサ子 同 成田
 後藤 しまつ 同 成田
 後藤 しまつ 同 成田
 青野 茂子 同 成田
 赤海 のぶ 同 成田
 佐久間 政子 同 成田
 佐瀬 光 同 成田

第二十二回卒業生 (昭和八年三月) (三十九名)

大妻技藝學校在學
 家政女學校卒業
 家政女學校卒業
 岩井 愛 同 成田
 岩内 なつ 同 成田
 石原 のぶ 同 成田
 石原 とし子 同 成田
 五十嵐 孝 同 成田
 長谷川 初子 同 成田
 長谷川 道子 同 成田
 長谷川 悦子 同 成田
 長谷川 悦子 同 成田
 土肥 かをる 同 成田
 大須賀 みちい 同 成田

川村女學院在學

共立女子専門學校在學

師範二部在學

大木 てい 同 中郷
 大久保 あい 同 本楚
 大塚 美智子 同 安食
 小川 壽美子 同 成田
 小川 繁 同 成田
 小倉 いく 同 成田
 渡邊 ふみ 同 成田
 勝田 幸子 同 成田
 勝田 かよ 同 成田
 加藤 りつ 同 成田
 加藤 昌子 同 成田
 高仲 ツル 同 成田
 多田 元子 同 成田
 塚本 節子 同 成田
 山本 まさ 同 成田
 山口 く 同 成田
 京増 希伊 同 成田
 武土田 喜久江 同 成田
 佐藤 貞子 同 成田
 在津 せつ 同 成田
 齋木 歌子 同 成田
 木内 あさ 同 成田
 湯浅 つや 同 成田

家政女學校卒業

第二十三回卒業生 (昭和九年三月) (五十三名)

佐倉高女研究科
 帝國女子醫學專門學校
 湯浅 えい 同 成田
 宮本 てい 同 成田
 篠原 ちづ子 同 成田
 日暮 照子 同 成田
 關川 澄子 同 成田
 杉山 八重子 同 成田
 稲垣 モト 同 成田
 石井 けい 同 成田
 石井 てる 同 成田
 石井 淑枝 同 成田
 石橋 國子 同 成田
 伊藤 てる 同 成田
 岩井 伊喜子 同 成田
 二宮 やり 同 成田
 大塚 てつ 同 成田
 大平 美代 同 成田
 大矢 晴江 同 成田
 大坂 てる 同 成田
 小川 て 同 成田
 小川 美い 同 成田
 小川 喜己 同 成田

私立成田高等女學校一覽

私立成田高等女學校一覽

二六

大阪女子高等職業學校	小川千代 同 公津	木内照代 同 成田
若海ひろ 同 遠山	湯淺こゝろ 同 同	湯淺貞子 同 公津
柏原房子 同 成田	湯淺まさ 同 八生	三橋てる 同 成田
吉岡てい 同 公津	島君枝 同 同	椎野よし 同 茨城高田
吉田ヤエ 同 同	椎名つね 同 香取多古	穴倉きよ 同 成田
高梨 同 成田	白石小夜 同 同	日野郁 同 遠山
田谷な 同 同	泉水とみ 同 公津	諏訪原よし 同 八生
瀧澤エセ 同 成田	鈴木正 同 公津	鈴木さた 同 安食
村島貞子 同 公津	日本女子高等商業學校	
工藤あい 同 八生	成鐵事務員	
山田美津 同 同	千葉産業組合學校	
山本穎子 同 安食	佐倉高女研究科	
山内智恵子 同 成田	佐倉高女研究科	
山田照子 同 中郷		
松田長子 同 成田		
淺井ます 同 同		
安達泰 同 遠山		
秋山律子 同 成田		
佐々木みや 同 同		
坂本孝子 同 同		
坂田タカ 同 富里		
澤田貞子 同 久住		

表別郡卒業及徒生在現
月四年九和昭

卒業生	計	一學年	二學年	三學年	四學年
七〇九	一八〇	四六	四七	四一	四一
三三二	五	一	一	二	二
一〇	三				
四					
二					
四					
二					
四					
二					
一					
五					
一					
一					
六					
四七	一八	五	二	四	四
八二四	二〇六	七	五二	五二	四八

經費概表

區別	郡別	俸給	雜給	校費	修繕費	退職給與金	合計
昭和五年度決算	一三、〇七六、五〇	四、三三一、三一	三、〇四八、六六	五五二、五六	一、四七〇、〇〇	二二、四七九、〇三	
昭和六年度決算	一三、六四五、〇〇	四、〇八三、一八	一、七五三、五二	三六九、〇四	一、四七五、〇〇	二一、三二五、七四	
昭和七年度決算	一二、九九五、〇〇	四、〇八七、四四	一、七三四、七九	二九九、七七	一、三一〇、〇〇	二〇、四二七、〇〇	
昭和八年度決算	一三、三〇〇、八〇	四、二〇三、二一	二、〇二四、二〇	八七〇、三三	三六〇、〇〇	二〇、七五八、五四	

私立成田高等女學校一覽

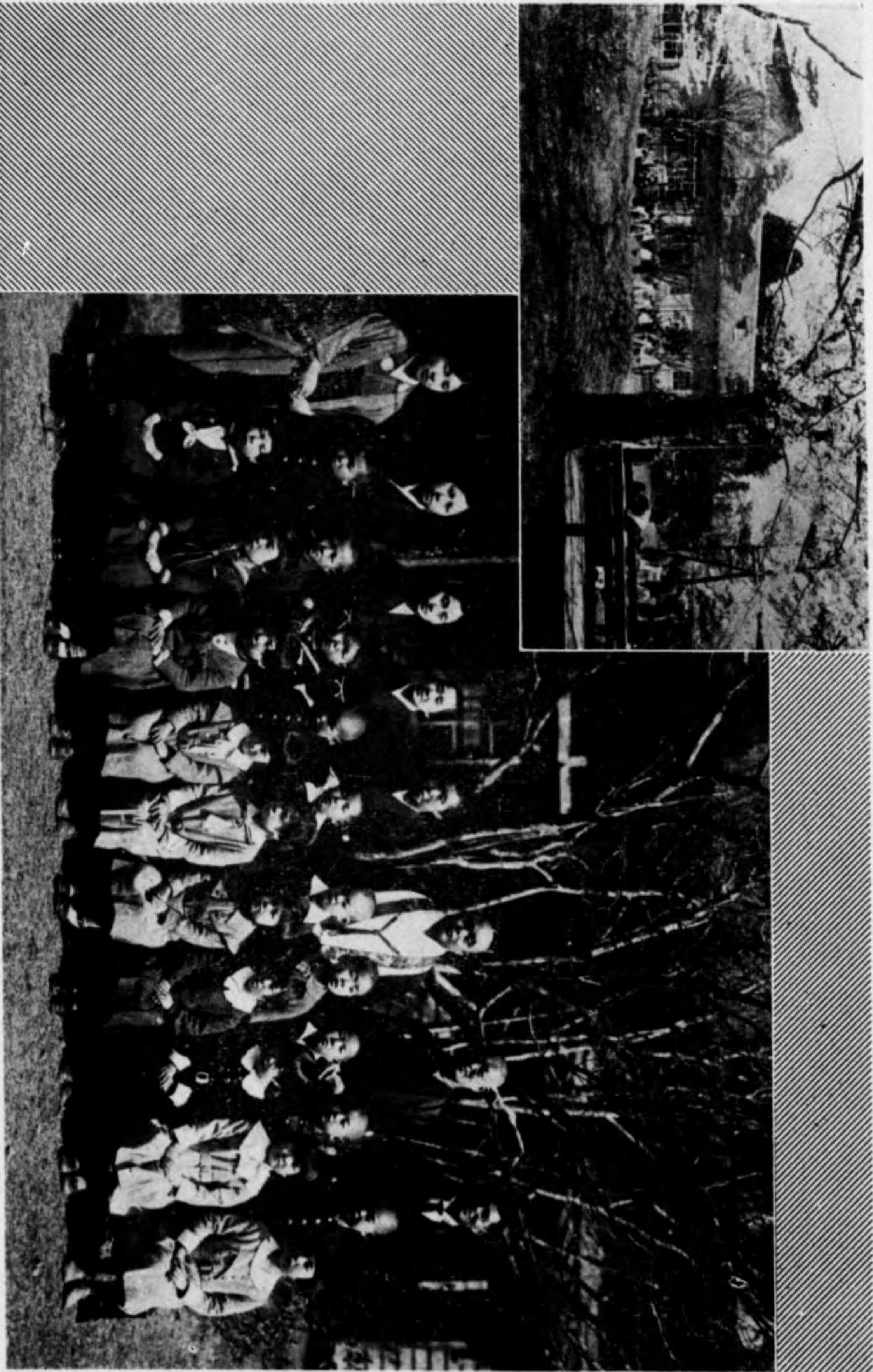
二七

成田幼稚園一覽

園歌	一
幼稚園の設置及衛生的設備	三
經費	三
保育料及入園料	三
八年入退園及年度未現員調	三
八年度保育修了幼兒數	三
職員	四
修了者	四
年中行事	四
休園日	四
保育課目	五
園則	五
私立成田幼稚園保護者心得	七
灌佛會(花まつり)	八
乳幼兒愛護日	八

如田成道園一覽

庭園



第九十二回終育了者及職員

園歌

大和田 建樹氏作歌
小山 作之助氏作曲

御寺の山をあげ暮に

見わたす成田の幼稚園

園に生ひたつ撫子の

花にめくみの露しけし

我等も日々に集りて

雲雀となりて謠はまし

その、恵の嬉しさを

御世の恵のたのしさを

私立成田幼稚園一覽

一、幼稚園の設置及衛生的設備

本園は成田山の經營にかゝる事業の一つとして明治三十八年五月日露戦役の記念として成田小學校に假園舎を設け保育を開始した全三十九年六月現在の新築園舎落成之に移轉す園舎は緑の森に包まれた空氣の最も清い高燥な地域に設置し保育室は南面して北に廊下を控へ全部芝生の庭園は少しの塵も揚らず往來の雑音も少なく繁茂せる樹木緑の芝生に依りて夏季日光の反射も極めて柔らかに衛生的設備を見る事が出来る成田驛よりは東方約三町四季の風光によく四ヶ所の砂場花壇四ヶ所の藤棚小山の三ヶ所之に種々の運動具を配置す

- 敷地 三千百八十九坪 遊園 貳千九百三十坪
 建坪 二百五十餘坪
- 一 保育室三 (四十一坪) 一 遊戯室一 (四十八坪)
 - 一 園長室兼圖書室一 (三坪) 一 職員室一 (九坪)
 - 一 静養室一 (四坪た、みの部屋) 一 應接室一 (四坪)
 - 一 玩具室一 (十二坪)
 - 一 小使室附屬建もの一 (十七坪半)

私立成田幼稚園一覽

一 職員住宅二 (六十三坪) 一 昇降口電話室廊下其他

一、經費

一金五千二百五十三圓三十七錢 昭和七年度 決算額
 一金五千二百四十六圓三十六錢 昭和八年度 決算額

一、保育料及入園料

保育料は月額金二圓二人以上通園のものは一人は全額他を半額とし入園料は創立當時徴收せし事あるも其後中止す

昭和八年度入退園及年度未現員調

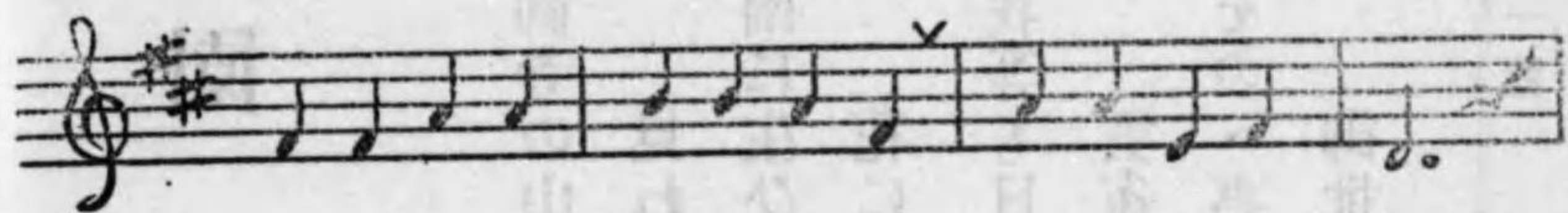
年 度	入 園		卒 業		退 園	死 亡	現 員
	男	女	男	女			
昭和八年度	一七	一八	一一	一〇	二	一	二〇
昭和七年度	一七	一八	一一	一〇	二	一	二〇

右の外昭和九年四月末日調査現在園兒數
 男 三〇 女 三二 合計 六二

昭和八年度保育修了幼兒數



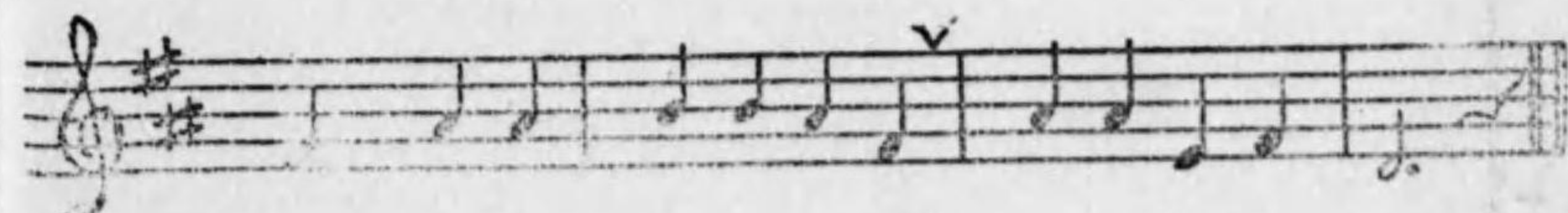
ミテラノ ヤ マヲ アケクレ ニ
 われら も ひ びに あつまり て



ミワタス ナリタノ ヨーチエ ン
 ひばりと なーりて うたはま し



ソ ノニ オヒタツ ナデシコ ノ
 そ のの めぐみの うれしさを



ハ ナニ メグミノ ツユシゲ シ
 み よの めぐみの たのしさを

保期	修了幼兒姓名	保期	修了幼兒姓名	保期	修了幼兒姓名
三年	小田垣千惠子 全	三年	林千舟 全	三年	清水範子 全
全	加納トミ 全	全	牧野志子 全	全	石橋美津 全
全	長谷川禱子 全	全	坂本品子 全	全	大塚睦三 全
全	京須徳彦 全	全	山内崇之 全	全	伊藤美江 全
二年	長谷川義一 全	二年	木内八郎 全	二年	稻岡不二雄 全
全	稻垣信夫 全	全	諸岡三郎 全	全	小山内衛 全
全	日暮義重 全	全	櫻井壽美江 全		
一年	増田龍一 全				

一、職員

一、園主兼園長は成田山貫主荒木僧正にして理事石川甚兵衛淺井儀助の兩理事之を補佐し淺井儀助専務理事兼會計主任を兼任す

職名	氏名	原籍	就職年月
園主兼園長	荒木 照定	千葉縣	大正十三年二月
主任	山口 政子	徳島縣	大正三年十月
保母	若命 喜美	神奈川縣	大正十年三月
全	龍澤 よし	千葉縣	大正七年十月
全	高田よしゑ	千葉縣	大正十年五月

代 姆 西内 せい 千葉縣 昭和六年四月
 園醫學博士 藤崎 公道 千葉縣 昭和六年一月
 全 商科 久保田 章 千葉縣 昭和六年四月

一、修了兒

明治三十九年三月第一回保育修了生廿二名を出してより昭和八年度第二十九回修了生廿一名を合せ男五百三拾六、女五百十計壹千〇四十六名の修了になつた

一、年中行事

- 一月八日 新年始業式
- 二月十一日 紀元節
- 三月三日 雛節句
- 三月廿日 保育修了式
- 四月七日 入園式
- 四月廿九日 天長節
- 五月五日 端午の節句と乳幼児愛護日
- 六月一日 創立記念日
- 七月七日 七夕祭

一、休園日 大祭祝日の外

夏季休園 七月二十一日より八月三十一日迄
 冬季休園 十二月二十五日より翌年一月七日迄

學年末休園 三月廿一日より四月三日迄

法會式日 七月 八日

氏神祭日 七月十七日

一、保育課目

- 遊 嬉 童謡遊嬉 律動遊嬉
- 唱 歌 童謡及幼稚園唱歌
- 觀 察 自然物其他凡てに就いて
- 談 話 童話 訓話 其他ラヂオより得たる諸種の談話
- 手 技 細工もの(紙細工、豆細工、自然物應用
キビガラ細工及圖畫、粘土細工等)

一、幼兒保育狀況

満三歳より就學までの幼兒を收容満二年以上在園のものに限り入園を許す
 年少の組は満三歳の幼兒を收容する年齢の關係上幼兒數に於て十五名程度とし次の入園期に於て其數を増加す
 幼兒一同集合の上一同に會して朝の禮を行ひ園歌合唱後保育項目の課程に依り屋内に又は庭園の遊びに移る
 三千坪の芝生は幼兒の遊び場として少しの不安もなく且雜草はいろ／＼の花を開きて幼兒を喜ばすに充分であり一面觀察の

資料も豊富にこり入れて屋内の保育と共に多大の幸福を幼兒に與ふ
 其他美的觀念の養成として畑に於ける落花生の種蒔き朝顔の栽培植物の採集等も廣き庭を利用して保育の資料に供して雨天の折なき蓄音機を利用して優秀なる音楽に依り幼兒の美しき心情を養ふ
 保育時間は短きは夏季に方ける二時間長きは朝九時より一時までの季節に依り變更す
 教材としては其の時期の植物動物ラヂオの子供の時間に於ける音楽談話其他子供新聞等參考資料として幼兒の解し得る教育的ものは廣く之を用ゆ

一、園 則

本園は満三歳より學齡迄満二年以上在園のものに限り入園を許し其心身の發達善良なる情操を涵養す
 入園期は四月九月の兩度とす
 入園志願者には園所定の入園願書を交付し簡易なる方法にて考查をなし選擇の上三月末許可の通知をなし入園を決定す收容人員は其年度保育修了者と同數を選定し四月入園後事故退園等のため人員に異動あるも臨時の補充を行はず九月の新學期に於て同様考查の上入園を許す

入園證書

原籍
出生地
現住所
族籍
職業
幼兒氏名
生年月日

右は今般貴園に入園御許可相成候に就ては本人に關する一切の事件拙者引受可申候也

右保護者

千葉縣印旛郡成田町何番地

何 某印

昭和 年 月 日

私立成田幼稚園長荒木照定殿

經歷書項目

一、生父健否 年 齡
一、生母健否 年 齡
一、兄 姉
一、弟 妹
一、生母ノ乳 乳母ノ乳
一、牛 乳 里 子
一、生來重病ニカ、リタルコトノ有無
一、性質習慣ノ著シキモノ

右報告申上候也

幼兒保護者 何 某印

昭和 年 月 日

私立成田幼稚園御中

私立成田幼稚園幼兒保護者心得

一、家庭ニ幼稚園の連絡に關する事
家庭ニ幼兒保育の連絡に就ては相互に協力するにあらざれば効果を得る事能はざるは云ふまでもなき事なるべしされば家庭ニ幼稚園ニは常に氣脈を通じ内外相應じて保育の効を全くせざるべからず今彼此の連絡に關し當園の冀望を掲ぐ

一、家庭より當園の事に付き疑義あるか又は幼兒の事に關して擔任保母に問合せ協議せられたき事あらば遠慮なく口頭又は書面にて申出てられたし

一、父母兄弟並に直接幼兒の保育に關係ある人は時々來園して當園の實況を視察し之を家庭保育の參考にせられん事當園の最も冀望する所なり

又春秋の頃子供の會を開き保護者諸君の來會を請ふを例させり是は一は實地保育の模様を諸君に示し又一は諸君より家庭の狀況を聞き幼兒の保育に關し相互に懇話せんが爲なり日時は其都度通知すべければ成るべく來會ありたし

一、幼兒付添人に關する事
當園に於ては付添を斷る

但往復途中の送迎は隨意たるべし

一、幼兒の遊嬉に關する事
遊嬉は實に幼兒の仕事にして心身の發達一に之によるものなれば最も自由快活に之を爲さしむるに必要なれども野鄙亂暴に渉るものは之を制せざるべからざるは勿論玩具等に就きても亦能く其良否を選定し繪本の如きは色彩の良否説明せる字の如何に依り幼兒を害する事は恐るべき事なれば其内容を充分に取調べられて幼兒に與へられる様注意せられたし

一、幼兒服裝に關する事
幼兒の服裝は成るべく質素にして遊嬉運動等に便利なるものを用ひ可成洋服又は和服は筒袖に仕立られたし

一、幼兒の携帶品に關する事
幼兒在園中に用ふべき器具其他總て園のものを使用する事なれば手拭鼻紙等必要なもの、外は幼兒に携帶せしめざる様致したし

帽子辨當傘の携帶品マントクツ等にも必ず氏名を記されたし

一、幼兒の往復に關する事
幼兒の往復は近來自動車其他の爲に故障生じ易ければ風雨其他注意保護せられたし格別の事情なき限り必ず徒歩せしめら

れたし

一、幼児の缺席並に家庭の疾病等に關する事

幼児の缺席一週間を越ゆるときは口頭又は書面にて詳に其事由を届出てらるべし凡て多人数の集る所は充分注意を爲すにあらざれば或は悪疾傳染の媒をなす恐あるを以て幼児の家族に傳染病者ある時は直に其病名を記して届出てられたし

但茲に傳染病を稱するは痘瘡及假痘、猩紅熱、腸窒扶斯、發疹窒扶斯、虎列刺、赤痢、ヂフテリア、ペスト等を云ふ

一、保護者の異動に關する事

保護者の變更は勿論其轉任改氏名等異動ありたるときは直ちに届出てられたし

一、灌佛會（花まつり）

昭和八年四月八日園庭の櫻は爛漫と咲き亂る、この日お釋迦様御降誕を記念して第二回花祭りを新更會主催にて當園に開かれた

成田山貫主荒木僧正猥下を始め多數の來賓と成田高等女學校、成田小學校、成田幼稚園の生徒児童幼児等參集し荒木僧正猥下の御灌佛御拜禮小學校及幼稚園兒童の献花灌佛拜禮等を終りて後各學校生徒の唱歌、遊嬉、舞踊等あり内山憲堂先生の面白く有益な童話があつて會を終つた來會者場内に溢れ時間も豫

定通りに進み誠に楽しい一日であつた

端午のお節句と乳幼児愛護日

年中行事の一つである端午のお節句に當り乳幼児愛護日を兼ねて昭和八年五月五日午前九時より當園に於て開催した

疊のお部屋は五月のほりを始め數々の武者人形鯉幟なご雄々しく勇ましく飾られた保護者の方々にもお出を願つて端午のお節句と乳幼児愛護日を催した

此のお節句にちなめるお話幼児の遊嬉、談話等楽しく時を過し幼児はお祝ひのお菓子を頂き歸宅した

保護者の方は引續き園醫藤崎先生より幼児の身体各部傳染病等に付き保護者に一々圖解を示され御注意あり又園醫久保田先生は齒の衛生に就て父兄と親しくお話を交換せられた

この保護者の集合を機とし幼児の上衣制定に付て種々御相談の結果一同の賛成を得て近々調製を約し間もなく幼児一同男女兒に分ち夏衣より着用した一定の上衣着用は園として始めての試みてあつた五月五日は成田町としての各家庭の最も多用の折柄を三十餘名の出席と云ふ誠に結構な會合であつた

成田學園一覽

今日一日ノ務	一
沿革要項	二
位 置	二
設 備	二
職 員	三
關係事項概要	四
退園生狀況一覽	六
現在生狀況一覽	六
生 活	七
入 園	一〇
退 園	一一
教育成績	一三
経 費	一五
基本金ノ蓄積	一六
感謝 錄	一六

れたし

一、幼児の缺席並に家庭の疾病等に關する事

幼児の缺席一週間を越ゆるときは口頭又は書面にて詳に其事由を届出てらるべし凡て多人数の集る所は充分注意を爲すにあらざれば或は悪疾傳染の媒をなす恐あるを以て幼児の家族に傳染病者ある時は直に其病名を記して届出てられたし

但茲に傳染病と稱するは痘瘡及假痘、猩紅熱、腸窒扶斯、發疹窒扶斯、虎列刺、赤痢、チフテリア、ペスト等を云ふ

一、保護者の異動に關する事

保護者の變更は勿論其轉任改氏名等異動ありたるときは直ちに届出てられたし

一、灌佛會（花まつり）

昭和八年四月八日園庭の櫻は爛漫と咲き亂る、この日お釋迦様御降誕を記念して第二回花祭りを新更會主催にて當園に開かれた

成田山貫主荒木僧正親下を始め多數の來賓と成田高等女學校、成田小學校、成田幼稚園の生徒児童幼児等參集し荒木僧正親下の御灌佛御拜禮小學校及幼稚園兒童の獻花灌佛拜禮等を終りて後各學校生徒の唱歌、遊嬉、舞踊等あり内山憲堂先生の面白く有益な童話があつて會を終つた來會者場内に溢れ時間も豫

定通りに進み誠に楽しい一日であつた

端午のお節句と乳幼児愛護日

年中行事の一つである端午のお節句に當り乳幼児愛護日を兼ねて昭和八年五月五日午前九時より當園に於て開催した

疊のお部屋は五月のぼりを始め數々の武者人形鯉幟なき雄々しく勇ましく飾られた保護者の方々にもお出を願つて端午のお節句と乳幼児愛護日を催した

此のお節句にちなめるお話幼児の遊嬉、談話等楽しく時を過し幼児はお祝ひのお菓子を頂き歸宅した

保護者の方は引續き園醫藤崎先生より幼児の身体各部傳染病等に付き保護者に一々圖解を示され御注意あり又園醫久保田先生は齒の衛生に就て父兄と親しくお話を交換せられた

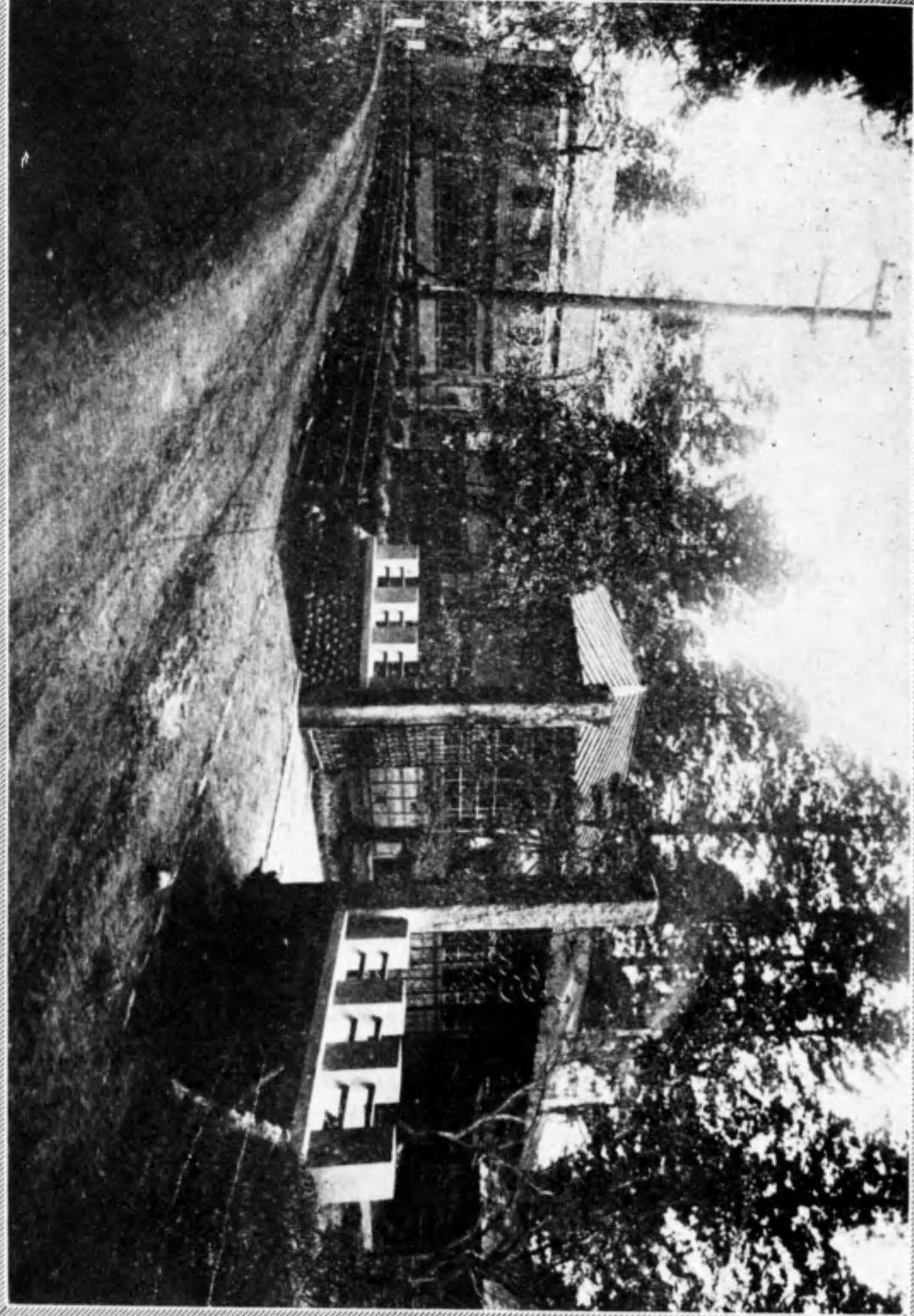
この保護者の集合を機とし幼児の上衣制定に付て種々御相談の結果一同の賛成を得て近々調製を約し間もなく幼児一同男女兒に分ち夏衣より着用した一定の上衣着用は園として始めての試みてあつた五月五日は成田町としての各家庭の最も多用の折柄を三十餘名の出席と云ふ誠に結構な會合であつた

成田學園一覽

今日一日ノ務	一
沿革要項	二
位 置	二
設 備	二
職 員	三
關係事項概要	四
退園生狀況一覽	六
現在生狀況一覽	六
生 活	七
入 園	一〇
退 園	一一
教育成績	一三
經 費	一五
基本金ノ蓄積	一六
感謝 錄	一六

今日一日の務

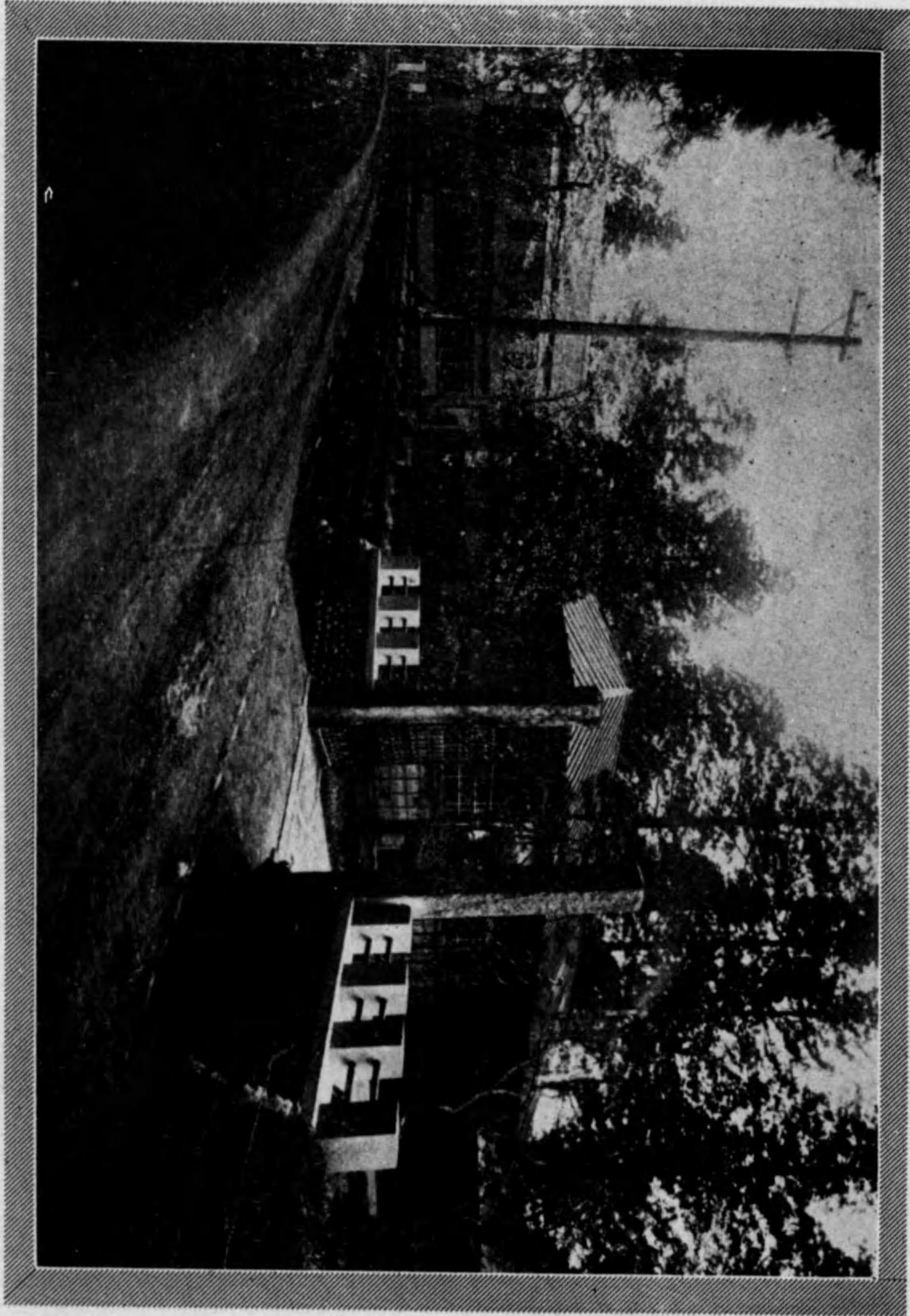
- 一、今日一日一心に不動尊を信仰する事
 - 二、今日一日父母教師の教を守り能く命に従ふ事
 - 三、今日一日心から親切の人となり又動物を愛する事
 - 四、今日一日能く自制克己し我儘なことや悪いと思ふことをせぬ事
 - 五、今日一日常に正直を旨とし決して虚偽を言はぬ事
 - 六、今日一日よく勉學しよく仕事を働く事
 - 七、今日一日禮儀を守り無作法の言行をせぬ事
 - 八、今日一日他より受けた恩を忘れぬ事
 - 九、今日一日腹を立てぬ事
 - 十、今日一日仕事に倦まない事
 - 十一、今日一日總てに對し清潔整頓を心掛くる事
 - 十二、今日一日物を大切に取扱ふ事
 - 十三、今日一日人の悪口を言はぬ事
 - 十四、今日一日不平なく愉快に日を暮す事
 - 十五、今日一日出来る丈多く善行を積む事
- 右十五ヶ條毎朝精讀し必ず實行せらるべし



門正園學田成

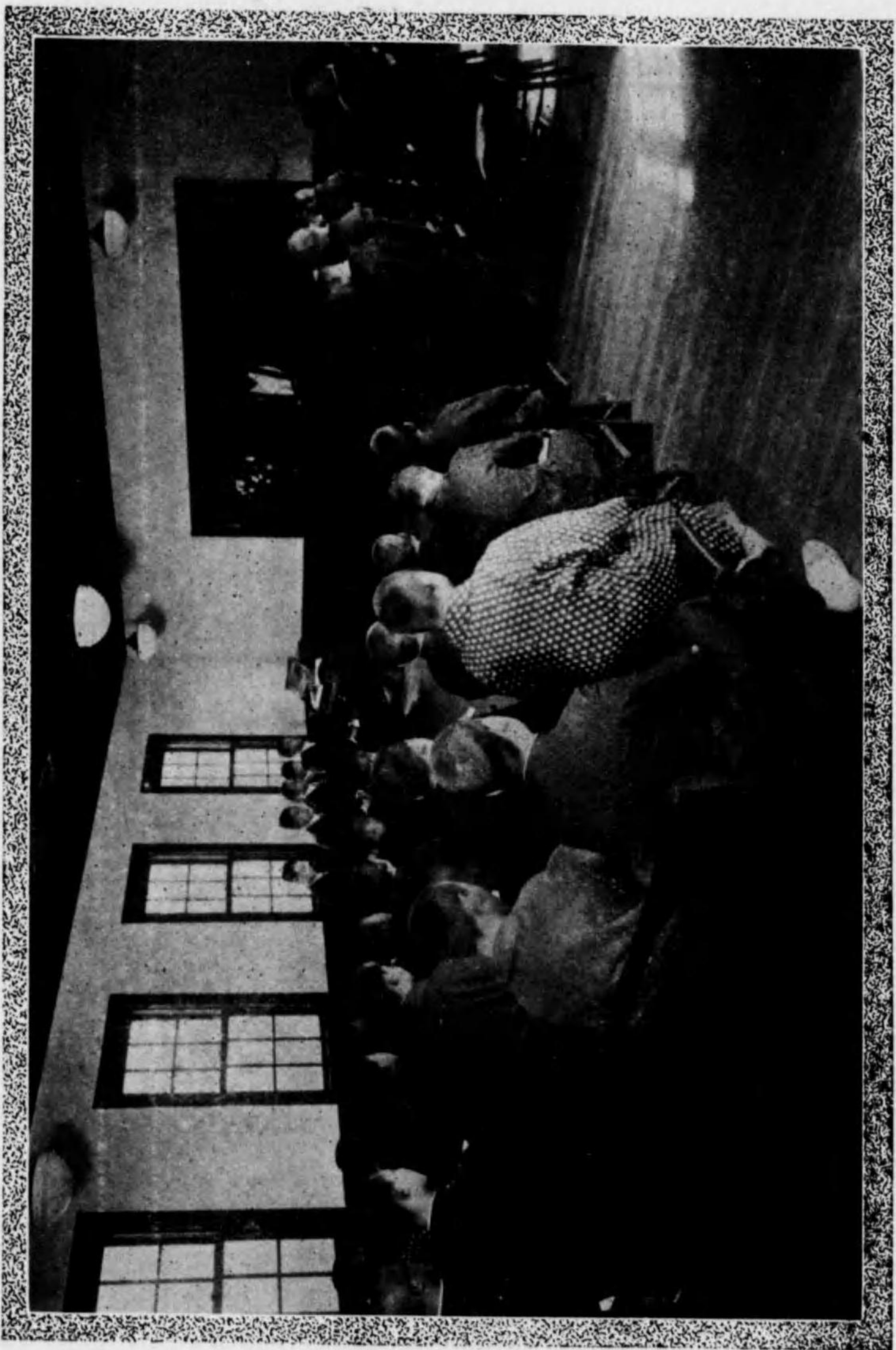
今日一日の務

- 一、今日一日一心に不動尊を信仰する事
 - 二、今日一日父母教師の教を守り能く命に従ふ事
 - 三、今日一日心から親切の人となり又動物を愛する事
 - 四、今日一日能く自制克己し我儘なことや悪いと思ふことをせぬ事
 - 五、今日一日常に正直を旨とし決して虚偽を言はぬ事
 - 六、今日一日よく勉學しよく仕事を働く事
 - 七、今日一日禮儀を守り無作法の言行をせぬ事
 - 八、今日一日他より受けた恩を忘れぬ事
 - 九、今日一日腹を立てぬ事
 - 十、今日一日仕事に倦まない事
 - 十一、今日一日總てに對し清潔整頓を心掛くる事
 - 十二、今日一日物を大切に取扱ふ事
 - 十三、今日一日人の悪口を言はぬ事
 - 十四、今日一日不平なく愉快に日を暮す事
 - 十五、今日一日出来る丈多く善行を積む事
- 右十五ヶ條毎朝精讀し必ず實行せらるべし



門正園學田成

新講堂ニ於ケル記念式(園訓長諭)



私立成田學園一覽

◎沿革要項

- 一 創 立 明治十九年十一月二十八日(認可明治十九年五月二十四日)千葉感化院と稱し千葉縣下各宗寺院共同事業として千葉町に創設。
- 一 組織の變更 明治二十一年四月以降成田山新勝寺一手に本園を經營維持することに變更。
- 一 千葉感化院建築竣工 明治二十四年五月三十日。
- 一 園長 更迭 明治二十七年五月二十七日舊院長三池照鳳師辭職。前院長石川照勤師就職。大正十三年一月三十一日石川院長遷化せられ現園長就職。
- 一 移轉 改稱 明治四十一年三月二十五日、現在地に園舎を新築して之に移轉し、同時に成田山感化院を改稱。更に昭和三年三月二十五日成田學園を改稱。
- 一 御膳本下附 明治四十三年九月七日、教育勅語膳本並に戊申詔書膳本各一通下附。
- 大正十三年四月五日、國民精神作興に關する詔書膳本一通下附。

私立成田學園一覽

(昭和九年三月末日現在)

- 一 皇族御來園 明治四十四年十月十七日山階宮鷹芳王殿下久邇宮朝融王殿下 華頂宮博忠王殿下 久邇宮邦久王殿下 山階宮藤曆王殿下本園へ御成り被遊 尙同月二十二日更に山階宮妃殿下には御姫君安子女王殿下を御伴はせられ、本園へ御成り遊され生徒一同へ御菓子料御下賜の光榮を蒙れり。
- 一 宮内省より御下賜金 本園事業御獎勵の思召を以て左の通り御下賜。
- 大正十一年二月十一日 金參百圓
- 大正十二年二月十一日 金四百圓
- 大正十三年二月十一日 金四百圓
- 大正十五年二月十一日 金壹百圓
- 昭和二年二月十一日 金一封
- 昭和三年二月十一日 金一封
- 昭和四年二月十一日 金一封
- 昭和五年二月十一日 金一封
- 昭和六年二月十一日 金一封
- 昭和七年二月十一日 金一封
- 昭和八年二月十一日 金一封

昭和九年二月十一日 金一封
一内務大臣より下附金品 本園事業上從來功績ありし且つ獎勵の趣旨を以て左の通り下附。

- 明治四十二年二月十一日 金壹百圓
 - 大正四年二月十一日 花瓶一對 〔市岡紫雲作 青銅製松上ノ鶴模様〕
 - 大正十一年二月十一日 金貳百圓
 - 大正十三年二月十一日 金參百圓
 - 大正十五年二月十一日 金壹百圓
 - 昭和三年二月十一日 金壹百圓
 - 昭利四年二月十一日 金壹百圓
 - 昭和五年二月十一日 金壹百圓
 - 昭和六年二月十一日 金壹百圓
 - 昭和七年二月十一日 金壹百圓
 - 昭和八年二月十一日 金壹百圓
 - 昭和九年二月十一日 金四百圓
- 一本縣知事より獎勵金 本園事業獎勵として左の通り下附。
 大正十一年一月十三日 金壹百圓
 大正十二年三月九日 金壹百圓
 大正十三年三月二十五日 金壹百圓
 大正十四年三月二十七日 金壹百圓
 大正十五年三月三十一日 金壹百五十圓

- 昭和二年三月三十一日 金壹百五十圓
 - 昭和三年三月三十一日 金壹百五十圓
 - 昭和四年三月三十一日 金壹百五十圓
 - 昭和五年三月三十一日 金壹百圓
 - 昭和六年三月三十一日 金壹百圓
 - 昭和七年三月三十一日 金壹百圓
 - 昭和八年三月三十一日 金貳百圓
 - 昭和九年三月三十一日 金壹百圓
- 一平和記念東京博覽會より銅牌受領 大正十一年七月十日 先に出陳したる本園一覽に對し銅牌を贈らる。
 一恩賜財團慶福會より助成金 當園講堂改増築助成金とし 左の通り交付。
 昭和九年二月十一日 金五百圓

◎位 置

千葉縣印旛郡成田町成田四百二番地の一（電話成田百三番）にして成田山境内に在り、前面成田幸町より新勝寺へ往復する道路に沿ひ、成田停車場よりは約壹軒、成田不動尊よりは山上奥の院大日如來の伽藍を右に見、左方へ約二百米にして來たるを得。東隣出世稻荷への參詣者は左方に古木鬱蒼幽靜の間に白堊の一家屋を見るべし本園是れなり。

◎設 備

明治四十一年三月二十五日の竣工に係り其後昭和八、九兩年度に亘りて増改築をなせり。敷地建物左の如し。
 土地 三千百三十五坪
 内 譯
 一宅 地 九百七十二坪
 一裏 山 千四百八十八坪
 一耕 地 六百七十五坪
 建 物 五棟二百八十坪二合五勺

◎職 員

- 成田山新勝寺住職
 一園主兼園長 荒 木 照 定
 一主 任 正八位 大 友 惟 誠
 一會計主任 淺 井 照 次
 一教 師 鶴 澤 弘 吉
 一實科教師 勝 田 吉 治
 一實科教師 押 田 尾 清
 一保 姆 大 友 子
 一保 姆 見 習 田 友 静 子

一實科助手

- 伊 達 好 友
- 一篤志園醫 醫學博士 藤 崎 公 道
- 一篤志齒科園醫 久 保 田 章
- 一篤志眼科園醫 山 崎 一 雄
- 一篤志整骨園醫 小 倉 桂

職員一同は園長の指導監督を受くるは勿論、能く園長の精神に當國職員たるの自覺により、職務に従ふの外現在にしては別に職員に對する成文の制令なし。唯協同一致して圓滿に且つ規律ある家庭を作るを目的とし、而かも此の範圍に於て自由に活動を許し妄りに牽制を加へざる組織なり。

藤崎公道氏は御岳父關川博道氏（前篤志園醫）のあこを受けて其職に在り、其經營にかゝる如春堂病院醫員を擧げて常に園生の保健に留意せられ、殊に疾病治療に際しては熱心親切に之に當らる。更に久保田齒科醫院長久保田章氏は口腔科を、小倉整骨醫院小倉桂氏は整骨外科を、山崎眼科醫院長山崎一雄氏は眼科を擔任せらる。されば入園し來る兒童は精神状態薄弱なるに共に、身體亦強健ならざるもの多きにも係らず、日を経るに従て健康状態良好になり稀に疾病負傷等あるも、後害を遺せし者なきは當園の最も欣幸し最も誇りとする所にして、前記諸士の高情に深く謝意を表し居る所なり。

昭和八年度本園關係事項概要

一、園生入退園ノ狀況

前年度繰越園生 二十一名 新入生 八名
退園生 九名 現在生 二十名

二、園生ノ疾病

名	病名	治療日	名	病名	治療日
寛	呼吸器	自三月二十六日至三月三十一日	富藏	トラホーム	自五月二十九日至六月三十一日
一男	手掌腫物	自四月十一日至四月二十二日	健三	全	自五月二十九日至六月三十一日
鐵也	手首捻挫	自五月十二日至五月二十二日	勇	足部切創	自五月二十九日至六月三十一日
豊三	手指腫物	自五月二十二日至五月二十九日	清	手指腫物	自五月二十九日至六月三十一日
政夫	頭部怪我	自五月二十五日至五月二十九日	豊三	齒痛	自六月十日至六月二十日
明	トラホーム	自五月二十六日至五月二十九日	友章	右腕關節炎	自六月十二日至六月二十二日
啓輔	全	自五月二十六日至五月二十九日	良吉	盲腸炎	自七月十二日至七月二十二日
信雄	全	自五月二十六日至五月二十九日	信彦	頭部裂傷	自七月十二日至七月二十二日
實	全	自五月二十六日至五月二十九日	清	手指裂傷	自七月二十五日至七月三十一日
友章	全	自五月二十六日至五月二十九日	友章	右腕關節炎	自七月二十六日至七月三十一日
豊三	全	自五月二十六日至五月二十九日	健三	胃腸	自七月二十八日至七月三十一日

三、御下賜金及獎勵金等拜受

- 一、宮内省ヨリ御下賜金一封
 - 一、内務省ヨリ獎勵金四百圓
 - 一、千葉縣ヨリ獎勵金百圓
 - 一、恩賜財團慶福會ヨリ建築費へ助成金五百圓
 - 一、住友家ヨリ職業指導へノ寄附金六百圓
 - 一、岩崎家ヨリ全三百圓
- 右ノ外諸方ヨリノ本年度寄附金合計貳拾五圓也
外ニ洋畫一面、夏帽子貳拾五個ノ寄附アリ。

四、特殊事項

1、修學旅行
五月九日野田方面へ旅行、先ツ野田醬油會社ニ至リ第十七

友章	全	明	政夫	八郎	信雄	君雄
右腕關節炎	全	眼物入	感	腕骨折	腕骨折	腹痛
自八月十九日至九月九日	自九月四日至九月十六日	自九月二十五日至十月六日	自十月十一日至十月二十二日	自十一月十一日至十一月二十二日	自十二月十一日至十二月二十二日	自十二月二十四日至一月四日
實	信彦	明	健三	君雄	謹次	良吉
感	吹出物	全	眼異常	手指腫物	肢腫物	手掌腫物
自一月十七日至一月二十七	自一月二十八日至一月二十八	自一月二十八日至一月二十八	自二月三日至二月五	自二月六日至二月八	自二月九日至二月十一	自二月十二日至二月十四

2、臨海生活

八月三日ヨリ全月十六日マデ本年モ山武郡綠海村木戸海殿寺住職小林祐然師ノ御厚意ニヨリ其寺内ノ一部を拜借シ生活ヲ此處ニ移シ愉快ノ中ニ心身ノ鍛練ヲ計リ少カラザル好果ヲ得タリ。

3、設備ノ改善

イ、講堂、教室ノ新築並ニ模様替。
昭和七年ヨリ三ヶ年間住友、岩崎兩家殿ヨリ職業指導へノ助成トシテ多額ノ寄附金(三ヶ年合計金貳千七百圓内金千八百圓頂戴濟)アルコト、ナリ之ガ使途ニツキ考究中ノトコロ宛モ印刷部教室ノ狹隘ヲ感ジツツアリシコ、トテ之ガ擴張ニ費スハ其ノ御寄附ノ趣旨ニモ副フコトナリトナシ種々協議ノ結果從來講堂、教室ニ使用セシ平屋一棟ヲ改増築シテ二階建トナシ階上ヲ講堂、教室及圖書室トナシ階下全部ヲ印刷及製本室ニ充ツルコト、ナリ昭和八年五月一日工ヲ起シ今年八月十日竣工セリ。

内

其ノ工費左ノ如シ。
一金四千六拾七圓二十八錢
金八百四拾四圓四拾錢
金貳千九百四拾五圓〇九錢
金九拾參圓七拾九錢
金百八拾四圓
總額
階下改修工事費
増築二階五十二坪分
附隨土留工事費
内部設備費

「最モ不潔ナル所ヲ最モ清潔ニ」ノ意味ヨリシテ便所ノ清潔ニハ常ニ意ヲ注ギタルトコロナリシガ、從來ノ便所ハ腐蝕シテ動々モスレバ不潔ヲ免レザルヲ以テ今般ハ多額ノ費用ヲ投ジテ二ヶ所共マイル張りニ改造シムシロ立派過ギル位ニ出來上リタリ。
ハ、娛樂室ノ新設。
園生ノ性情ヲ圓滿ニ發達セシムル爲メニ娛樂ニハ相當意ヲ用ヒツツアリタルガ今回印刷教室ノ移轉ト共ニ其跡ヲ改造シテ四坪半ノ疊敷、十坪ノ板敷二室ヨリ成ル娛樂室トナシ娛樂具ヲ此處ニ集メ室内遊戯ハ總テ此所ニテナサシムルコト、ナシタリ。
ニ、機械室ノ新設。
印刷教室ノ跡ノ一部ヲ機械室トシ此處ニ精米機、水汲機洗濯機等ヲマトメタリ。

私立成田學園一覽

ホ、洗面所ノ改造。
木造洗面台ノ腐蝕ヲ機トシ新ニ洗面所ヲ作り洗面台モ新調セリ。

ヘ、物干場ノ新設。

從來夜具布團ノ日光消毒、洗濯物ノ乾燥等ニ不便ヲ感ジツ、アリシガ今回屋上ニ九坪ノ物干場ヲ新設シ其不便ヲ少カラシメタリ。

ト、土堤ノ構築。

一昨年以來ノ改善ニヨリ園舎内部ノ設備稍整ヒタルヲ以テ今回ハ外部ニ移リ長年苦心シテ其効ヲ得ザリシ生垣(大木ノ下ニテ日光不充ナル爲)ヲ廢シテ土堤ヲ構築シ全時ニ正門附近ヲ模様替セリ。

昭和八年度本園退園生狀況一覽

名	府縣名	生計ノ職業	退園月日	退園現在事由成績	現在職業
イ	東京	被雇	四月二十二日	請願	印刷所ニ奉公
ロ	東京	全	四月二十九日	改善	印刷所ニ奉公
ハ	東京	魚屋	五月十一日	改善	印刷所ニ奉公
ニ	東京	職工	五月三十一日	請願	修行者
ホ	東京	製園工	七月二十二日	謝絶	他ノ教育所

名	府縣名	入園年月日	家庭ノ生計ノ職業	生育	現在ノ年齢	現在ノ學力		
ヘ	神奈川	居酒屋	下	祖母	十月二十九日	改善	良	紙折屋ニ奉公
ト	東京	會社員	上	實母	八月二十日	請願	普	家庭ニ在リ
チ	千葉	漁師	下	實母	十一月二十日	謝絶	普	家庭ニ在リ
リ	東京	家扶	下	繼實母	十二月三十日	請願	普	當園ニテ印刷見習

昭和九年三月現在生狀況一覽

名	府縣名	入園年月日	家庭ノ生計ノ職業	生育	現在ノ年齢	現在ノ學力
イ	千葉	七、一六	下	○	十六才	尋卒
ロ	千葉	五、一六	下	○	十六才	尋卒
ハ	千葉	八、一六	下	○	十三才	尋五
ニ	東京	三、一	下	○	十七才	中三
ホ	東京	四、一	下	○	十六才	中二
ヘ	東京	四、一	下	○	十六才	中二
ト	東京	四、一	下	○	十六才	中二
テ	千葉	四、一	中	○	十六才	中一
リ	千葉	二、二四	下	○	十六才	高一
メ	東京	一、三〇	下	○	十三才	尋卒

名	府縣名	生計ノ職業	退園月日	退園現在事由成績	現在職業
ル	東京	土工	四月二十二日	請願	印刷所ニ奉公
ヲ	千葉	被雇	四月二十九日	改善	印刷所ニ奉公
ワ	東京	會社員	五月十一日	改善	印刷所ニ奉公
カ	栃木	被雇	五月三十一日	請願	修行者
ヨ	茨城	被雇	七月二十二日	謝絶	他ノ教育所
タ	東京	カフエー	五月三十一日	請願	修行者
レ	千葉	酒屋	七月二十二日	謝絶	他ノ教育所
ソ	東京	茶小賣	七月二十二日	謝絶	他ノ教育所
ツ	東京	製園工	七月二十二日	謝絶	他ノ教育所

園内生活

本園の生活は普通一般に於ける温き家庭生活ニ毫も異なる所なし。尤も普通教育ニ異り或る一定の時間を限り教育するにあらざりて、普通教育の時間以外、家庭教育として兒童一般の躰をなすに共に、信仰の觀念を生ぜしむるを以て實に本園生活の精神ニすが故に、此根本の精神に基き、總ての施設方法を實現し居れり。其生徒待遇の方法に至りては、慈悲仁愛の情を以て之に對するは勿論、一面には亦整然たる規律生活をなさしめ亂雜放肆に流れざる様最注意せり。然れ共本園家庭内の大小悉く

私立成田學園一覽

豫て定めたる成文によつて行動せしめ、監督するニ云ふが如き方法にあらざり、常に便宜を主とし、温き家風、自然の慣例により之を訓練し、力めて愉快なる生活をなさしむるを以て主眼とせり。約言すれば本園の生活は信仰ある規律正しき家庭生活といふを得べし。

日課及其説明を擧ぐれば左の如し。

- 午前五時起床、直に掃除
- 午前六時 ラヂオ体操
- 午前六時二十分 朝拜式
- 一、皇室の萬歳を奉祝す
- 二、大廟遙拜
- 三、成田山不動尊禮拜
- 四、各自先祖敬拜
- 午前七時 朝食
- 自午前八時至正午 學科
- 正午 晝食
- 自午後一時至同四時 實科
- 午後六時 夕食
- 自午後六時半至同八時 學科(年長者は九時迄)
- 午後八時 禮拜後就床
- 以上の如く定むるに雖も、時季にり時々變更するは勿論、便宜上臨時變更することあり。

起床 朝起は新勝寺の曉鐘に警醒せられ蹶起せざるを得ざる習慣を作れり。但本園のみならず成田町一般に此良習を存するが如し。

清潔 清潔は本園の最も努むる所也。毎朝掃除の外日に數回之をなし時々大掃除及各室の清潔整頓を検査す。

衣類 普通の衣類を用ゆ。曾ては制服ありしも今は之を定めず。

朝拜式 毎朝講堂に於て之を行ひ、兒童に敬虔の心を養成せんが爲め職員特に敬虔的態度を持し、最も嚴肅に之を行ふ。本園修身教育の大本として教育勅語の御聖旨を奉戴する事勿論にして、之が實踐躬行の實を擧ぐるは宜しく信仰の力に依りて之を喚起せざる可らざるを信ず。本園の特長として成田山不動尊を信仰せしむる所以即是なり。

訓話 一般に對する訓話は毎朝先祖敬拜の際、及就海前不動尊禮拜の時之をなせ共、平易簡單にし之が爲め多くの時間を費さず。何となれば職員は生徒と起臥を同うし行住座臥の間、之が師たり父兄たるの心を持し、實踐躬行所謂行を以て訓ふるを旨とすればなり。されど個人に對しては、機會を捕へ之に投じて、其兒童に適切に徹底的に訓話をなすは勿論なり。

食事 常に兒童の營養状態を考慮し食事には相當の意を用ゆ。特に先年より試みたる三分搗、(園内に動力精米機を設備し純無砂にて精米す)は、保健上好結果を示しつゝあり。而して職員生徒皆一堂に集りて食を共にす。單に食事のみならず本園の生活は總てに於て、

「共に」をいふ事に最も留意し學ぶも働くも遊ぶも常に職員生徒其行動を共にし、美しき圓滿なる家庭を作る事に努力し居れり。

學科 概ね小學校令に據る教科目により、午前中三時間乃至四時間(但雨天又は冬期は午後)に及ぶ事あり。夜間二時間の授業をなす。但特に重きを讀方書方綴方算術珠算等の實用學科に置けり。尋常科を卒業せし後尙尙上の見込ある兒童にして、且品行最早差支なしと認めらる、時は上級の學校へ通學せしむる事あり。

實科 農業、活版印刷及簡易なる手工を課す。但冬期は農業を行はず。耕地は目下二段二畝余歩を有す。印刷部は創設日尙淺く、未だ完備の域に達せざるも普通の設備を有し、主として新勝寺關係の印刷物を以て其の實習材料に充て、生徒中嗜好性能に適應せる者を撰びて習得せしめつゝあり。園内に於ける實科に對しては生産的職業的技術を與へ、實社會に出

てて直に夫に依て自活し得るものを撰ばざる可らずと論ずる者あり。本園固より考量したる事にして、先年印刷部創設の如きも其一端なるが、三四の業務を設備したりて到底、全生徒の個性嗜好に悉く適せしむる事至難にして、強て職業を狭き範圍に押込む嫌あり、殊に學園に適する授業師たる人物を得る事至難にして、施設の繁多なる割合に好果を收められざる遺憾あり、依て本園は教育終局の目的を主眼とし、身體の鍛鍊、精神の訓練、特に勤勞性の養成を目的とし單に以上の三課を設くるのみ。尤も年齢其の他の關係よりして、在園中職業を與ふるの必要ある者に對しては當町内の家を撰み、之に委託して本園より通勤其職業を見習はしむるこゝあり。

娛樂 兒童の性情を圓滿に發達せしめ、愉快の中に教化の目的を遂げんし娛樂には相當の意を用ゆ。

一、庭球フットボール及少年野球 娛樂に供する外、體力養成にも資せんとして之等を設けたるに、一同喜びて之を遊び、晴天の日は殆んそ其遊び時間を之に費し居れり。

一、娛樂室 前掲の如く今回新に疊敷板敷二室より成る娛樂室を設け、ラヂオ(電蓄兼用)ビンボン、カラム、碁、將碁、コリント等の娛樂具を此所に集めたり。

一、生徒圖書室 此所に有益なるお伽噺雜誌、寫眞、繪畫

等を置き、兒童の閱覽に供す。尙時々圖書館より圖書を拜借し來り此室にて閱覽せしむ。

一、散歩遠足及旅行 毎月一日十五日二十八日及日曜日の午後不動尊に參拜、終つて散歩せしむ。又附近神社佛閣の參拜、水泳、船遊、魚釣、茸狩、栗拾ひ、或は單なる山遊等にて數々山野を跋渉し、郊外に遠足し、娛樂に兼て體力養成を計り、或は臨時に汽車電車等に乗りにて遠方への修學旅行をなす。

一、四大節及本園記念日 當日は祝賀式後種々なる餘興をなして一日を祝はしむるを以て、兒童は頗る樂みなし居れり。

一、誕生祝 園長を始め、職員生徒の誕生日には其夜職員生徒一堂に團樂し、茶話會を行ふ。特に生徒の誕生日には該兒童に一日の休暇を與へ、早朝不動尊に參詣、其立身出世を祈らしめ本園よりは祝意を表して、本人の好める文具を贈り又特に御馳走を供す。

一、五月節句 柏餅にて茶話會を開く。

一、降誕會及義士祭 毎年四月八日十二月十四日に於て祭祀を行ひたる後、園生の相談になる趣向に依り餘興をなす。右の外生徒自が時節により流行によりてなす遊戯例へば

早や五年に成ります
時々成田の事を思い出しますそして私も行きたく思つて居りますが色々用が有り行けないので残念に思つて居ります近内には是非御伺い致したいと思つて居りますでは皆様によろしく左様なら

拜啓随分久しく御無沙汰致しました
先生のお宅では皆様御變りはありませんか僕は毎日無事で通學致してをりますから御安心下さい皆さんと海岸へ行つたことなど考へてなつかしくなります
皆様に宜敷御願ひ致します さようなら

先生様

先生お目出度う御座います新聞に先生様が表彰されたさ出て居りますそれを思はず嬉しく成りましたさだめ先生には御障りのなきことと思ひます
私も相變らず丈夫にて働いて居ります柄御安心下さい三月二十五日は間違なく今年に行きます伊達さんにもすみませんがこの事をいつて下さい私も二十五日をたのしみに一生懸命働いて居ります

先日は色々御世話下され誠にありがたう御座いました六時五分の汽車に乘りましたが千葉から先を疑てしまつて兩國までつてから

先生様

職員に起されましたが無事歸りましたから御安心下さい
あの日は一日中嬉しくてたまりませんでした母も兄も大變喜んでくれくもよろしくお申しました
こんだ又行かれる日を楽しみに一生懸命働きます先生や奥さん恭子さん達の姿が眼の前に何時までものこつてゐます
皆様には御變りありませんでしたがなつかしい教室や講堂など變つてゐたのでほんとにびつくりさせられました
奥さんには先生からよろしく申し上げて下さい

さようなら

只今名刺確かに受取りました

結構なる贈り物を戴き有難く御禮申上げます
先日は又突然何ひ色々に御世話様に相成りました御禮の手紙も差上げず今に成りました事をお詫び致します
其の後皆様にはお變りもありませんか
講堂の新築の方の進行は如何で御座ます大分進行致しましたせう此の次何ふ時その偉容を是非拜見させて戴きます
私はその後家業大事さ毎日々々を店に送つてゐます尙勉強も致し藥劑師としての本分に誤のない様心掛けて居ります
店の方は現在は無事平穩に水平線上をたどつてゐます悪くなく少し良いと云ふ處です
先生皆様どうぞ東京においでの際はどうぞ拙店にお立ちより下さい先日奥様にお目に掛かれず残念でした何れ次の機会に奥様にどうぞよろしくお傳へ下さい
簡單ではありますがこの贈り物に對し重々お禮申上げます

秋色日に増し濃く朝夕は冷氣加はりしのぎよい時節と成りました長らく御無沙汰ばかり致して居りました申譯御座居ません
御家内一同様には益々御健勝のことし推察致して居ります
私儀お蔭様を持ちましてずつと風一つ引かす元氣に暮して居ります他事乍ら御休心下さい
さて此度徴兵検査と成り甲種合格にて徴兵せられる事に成りました

私立成田學園一覽

◎教育成績

明治十九年開園以來入園生二百二十八人なるもあまりに古き分は音信自然に絶えて現況を詳に爲し難し依て便宜上左記の如く明治三十四年以降を掲げたり。

自明治三十四年二十三年間生徒狀況一覽
至昭和九年

(昭和九年三月末日詞)

一、成績

私立成田學園一覽

事業費	四、四四七圓五〇	需用費、管轄費、人件費、雜費等
園生諸費	二、三四四、七五	食費、被服費、手當金、消耗品費、學科費、旅行費、退園生保護費等
作業費	三、六六三、二〇	素品費、器具機械費、工費、
歲出臨時部	七、二〇八圓一六錢	
積立金	一、四七一、五六	基本金
工事費	五、七三六、六〇	講堂、教室、園生廬所、洗面所、娛樂室、其他増改築費、土堤構築費、
歲出總計	一七、六六三圓六一錢	
差引殘金	七七七、六九	翌年度繰越金

◎本園基本金の蓄積

明治四十一年三月本園を千葉市より成田町へ移轉せし以來各慈善家より本園へ寄附せられたる金員を蓄積し將來の基本金を作るの方針を採り着々實行中恰も前掲の如く宮内省内務省及本縣より本園へ事業資金として金圓の下賜あり依て政府の斯道に對する意嚮獎勵も茲に存するを知らるも本園より進んで寄附金を受けんとするの方法を採るは往々世の誤解を受くるの嫌ひあるを以て全然勸募方法を採らず一に篤志家の同情義捐に任せ其

結果として現下は金一萬三千八百六拾壹圓五拾六錢の勤業債券拾圓券六拾二枚五圓券二枚(三月三十一日調)を有するに至る。殊に敬服すべきは成田町々民諸君の美風にして一朝其家人に不幸あるときは其追善供養の爲に大抵本園に金圓を寄附し其意を表せらるゝことなり。

◎感謝錄

本年度に於て各篤志家より本園に寄附せられたるもの左の如く茲に記して衷心感謝の意を表す、但し各團體より寄附せらるゝ雜誌等は之を略せり。

一金五圓也	湖田健二殿 (成田)
一金五圓也	織田可吉殿 (成田)
一金五圓也	石原清泉殿 (大連)
一金五圓也	石川清春殿 (成田)
一金六百圓也(同額宛三年間)	住友家殿 (東京)
一金參百圓也(全右)	岩崎家殿 (全)
一金五圓也	松浦治三郎殿 (成田)
一夏帽子二十五個	小川惠嗣殿 (東京)
一洋画一面	山内貞殿 (成田)
一御菓子澤山	若松分店殿 (成田)
一理髮(毎月一回)	平澤光殿 (成田)

以上

成田圖書館一覽

圖書館事務體系	一
圖書分類要目表	二
館務要綱	三
沿革大略	三
建物及敷地	四
館址	五
職員	五
閱覽狀況	六
閱覽統計	六
私立成田圖書館規則	七
成田圖書館圖書貸出規則	七
報	八
本館と小学校との連絡	九
傳教關係雜誌索引の編纂	一〇
青年讀物紹介	一一
主要 錄事	一二
圖書寄贈者芳名	一二
雜誌新聞寄贈者芳名	一四

私立成田學園一覽

内 譯	事業費	四、四四七圓五〇	需用費、管籍費、人件費、雜費等
	園生諸費	二、三四四、七五	食費、被服費、手當金、消耗品費、學科費、旅行費、退園生保護費等
	作業費	三、六六三、二〇	素品費、器具機械費、工費、
	歲出臨時部	七、二〇八圓一六錢	
内 譯	積立金	一、四七一、五六	基本金
	工事費	五、七三六、六〇	講堂、教室、園生便所、洗面所、娛樂室、其他増改築費、土堤構築費、
	歲出總計	一七、六六三圓六一錢	
	差引殘金	七七七、六九	翌年度繰越金

◎本園基本金の蓄積

明治四十一年三月本園を千葉市より成田町へ移轉せし以來各慈善家より本園へ寄附せられたる金員を蓄積し將來の基本金を作るの方針を採り着々實行中恰も前掲の如く宮内省内務省及本縣より本園へ事業資金として金圓の下賜あり依て政府の斯道に對する意嚮獎勵も茲に存するを知らるも本園より進んで寄附金を受けんとする方法を採るは往々世の誤解を受くるの嫌ひあるを以て全然勸募方法を採らず一に篤志家の同情義捐に任せ其

結果として現下は金一萬三千八百六拾壹圓五拾六錢の勤業債券拾圓券六拾二枚五圓券二枚(三月三十一日調)を有するに至る。殊に敬服すべきは成田町々民諸君の美風にして一朝其家人に不幸あるときは其追善供養の爲に大抵本園に金圓を寄附し其意を表せらるゝことなり。

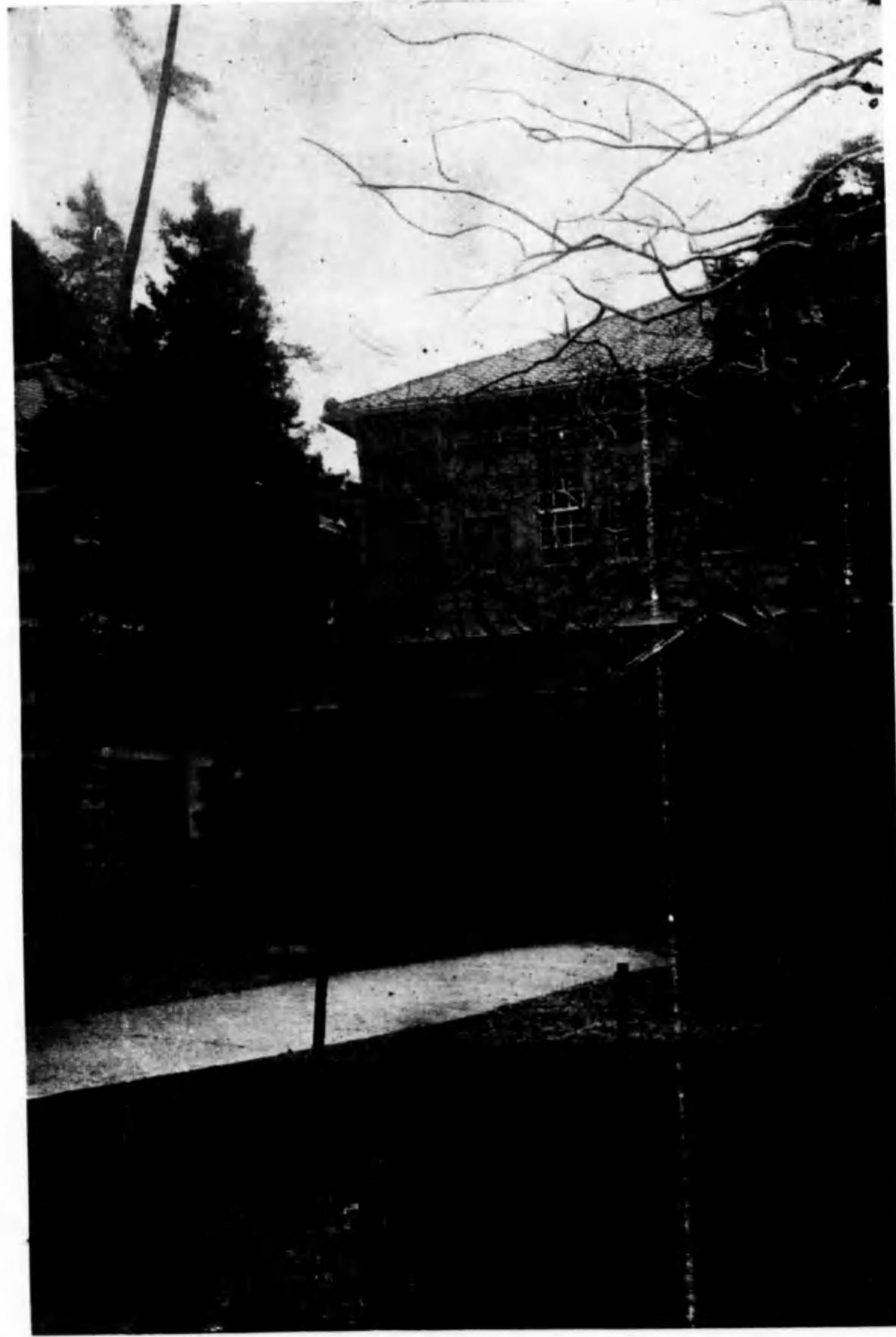
◎感謝錄

本年度に於て各篤志家より本園に寄附せられたるもの左の如く茲に記して衷心感謝の意を表す、但し各團體より寄贈せらるゝ雜誌等は之を略せり。

一金 五圓也	潮田健二殿 (成田)
一金 五圓也	織田可吉殿 (成田)
一金 五圓也	石原清泉殿 (大連)
一金 五圓也	石川清春殿 (成田)
一金 六圓也(同額宛三年間)	住友家殿 (東京)
一金 參百圓也(全有)	岩崎家殿 (全)
一金 五圓也	松浦治三郎殿 (成田)
一夏帽子二十五個	小川惠嗣殿 (東京)
一洋画一面	山内貞殿 (成田)
一御菓子澤山	若松分店殿 (成田)
一理髮(毎月一回)	平澤光殿 (成田)

成田圖書館一覽

圖書館事務體系	一
圖書分類要目表	二
館勢要綱	三
沿革大略	三
建物及敷地	四
經費	五
職員錄	五
目録	六
閱覽狀況	六
閱覽統計	七
私立成田圖書館規則	七
成田圖書館圖書貸出規則	八
報	九
本館と小學校との連絡	一〇
佛教關係雜誌索引の編纂	一〇
青年讀物紹介	一一
主要錄事	一二
圖書寄贈者芳名	一二
雜誌新聞寄贈者芳名	一四



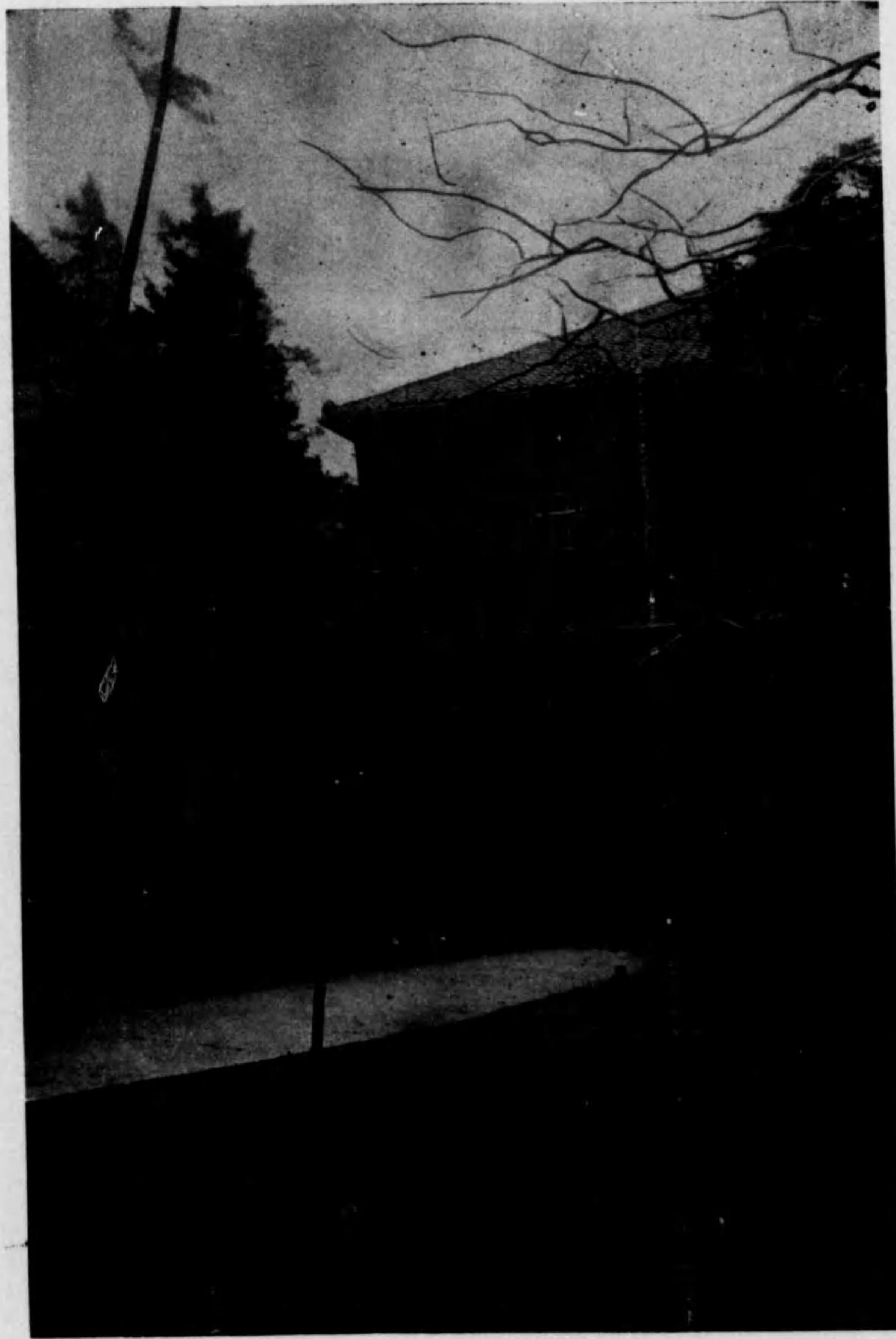
成田圖書館

徳道圖書館

- ▼ 圖書ヲ投ゲタリ、落シタリナサラヌコト
- ▼ 圖書ヲ讀ミ放シニナサラヌコト
- ▼ 圖書ヘノ書入レヤ汚損ニ注意アリタキコト
- ▼ 圖書ヲ捲イタリ、頁ヲ折ツタリナサラヌコト
- ▼ 指ヲナメテ頁ヲ繰ラヌコト
- ▼ 讀ミナガラ物ヲ食ベヌコト
- ▼ 圖書ハ叮嚀ニ取扱ハレタキコト

圖書ヲ愛シ圖書館ヲ理解サレタキコト

- ▼ 他ノ閱覽者ニ迷惑ヲカケヌコト
- ▼ 借リタ圖書ハ「また貸」ヲナサラヌコト
- ▼ 帶出圖書ハ期限ヲ守ラレタキコト
- ▼ 秩序ヲ保タレタキコト
- ▼ 閱覽室ハ靜肅ヲ保タレタキコト
- ▼ 御所持品一切ハ各自ニ於テモ盜難、遺失ニ御注意ノコト
- ▼ 本館ノ規則ヲ守ラレタキコト



成田圖書館

圖書館道德

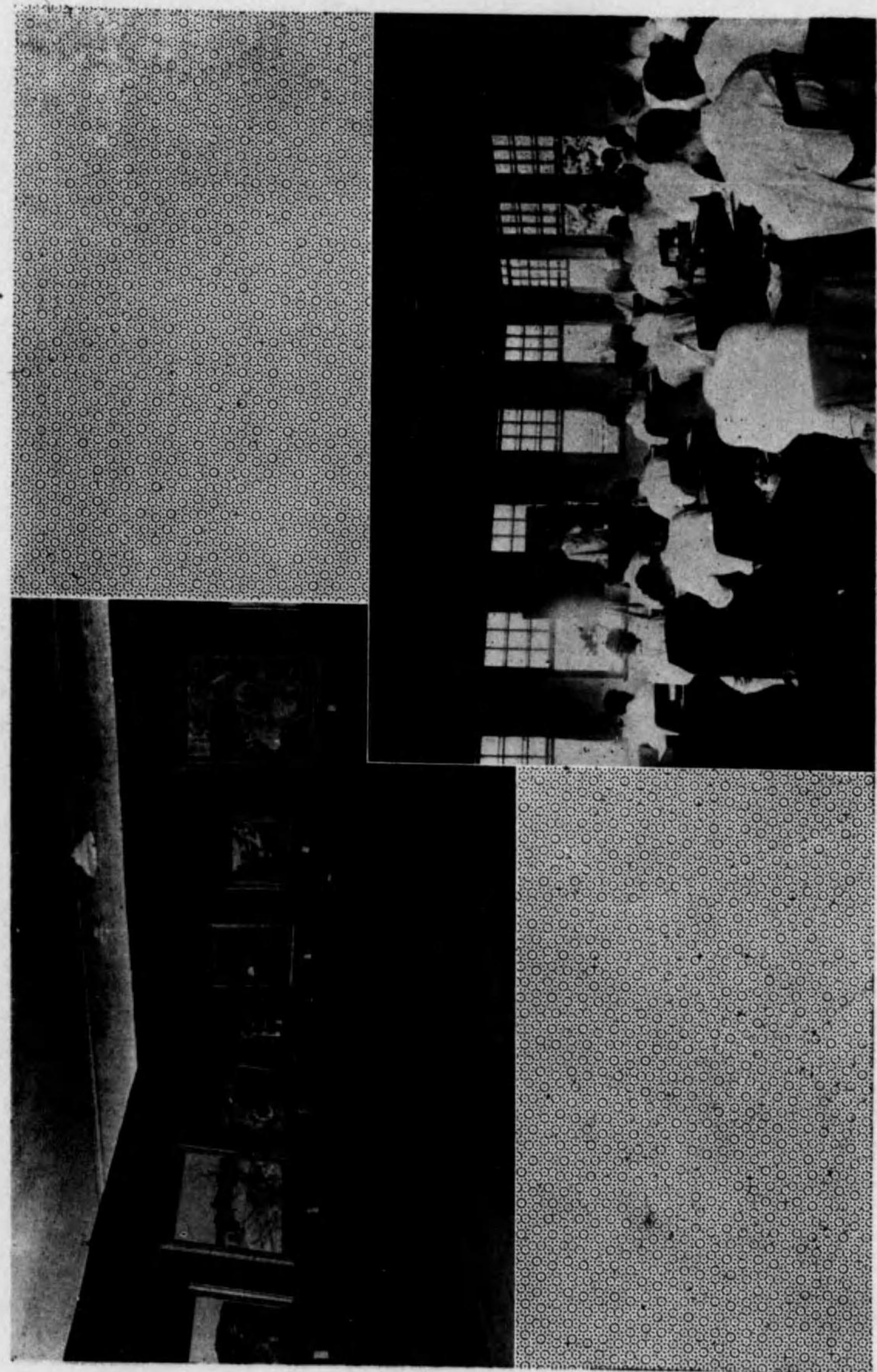
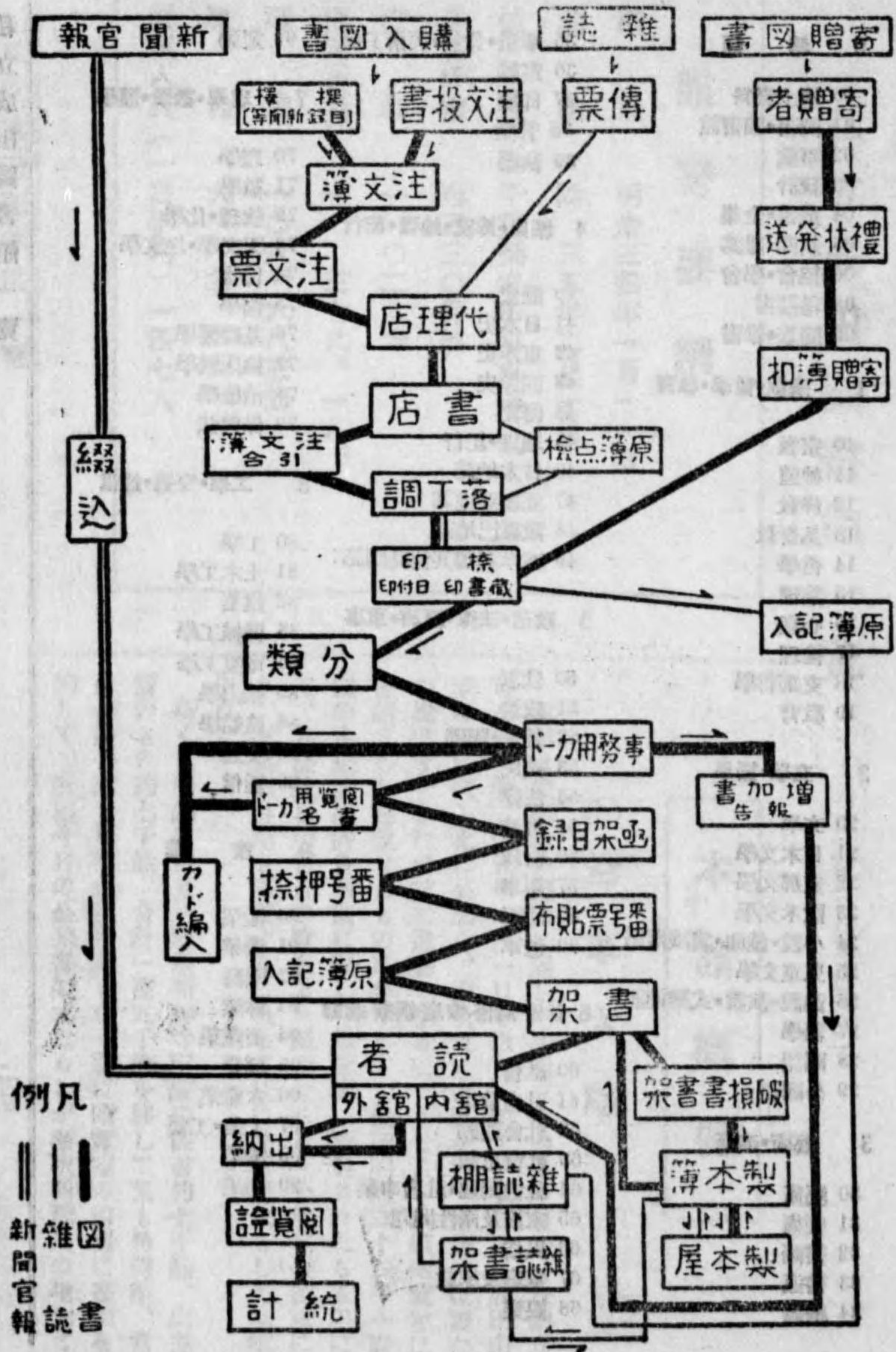
圖書ヲ愛シ圖書館ヲ理解サレタキコト

- ▼ 圖書ヲ投ゲタリ、落シタリナサラスコト
- ▼ 圖書ヲ讀ミ放シニナサラスコト
- ▼ 圖書ヘノ書入レヤ汚損ニ注意アリタキコト
- ▼ 圖書ヲ捲イタリ、頁ヲ折ツタリナサラスコト
- ▼ 指ヲナメテ頁ヲ繰ラスコト
- ▼ 讀ミナガラ物ヲ食ベヌコト
- ▼ 圖書ハ叮嚀ニ取扱ハレタキコト

- ▼ 他ノ閱覽者ニ迷惑ヲカケヌコト
- ▼ 借リタ圖書ハ「また貸」ヲナサラスコト
- ▼ 帶出圖書ハ期限ヲ守ラレタキコト
- ▼ 秩序ヲ保タレタキコト
- ▼ 閱覽室ハ靜肅ヲ保タレタキコト
- ▼ 御所持品一切ハ各自ニ於テモ盜難、遺失ニ御注意ノコト
- ▼ 本館ノ規則ヲ守ラレタキコト

系體務事館書圖

すまりごを路經たしうかこる來へ館書圖が本の册一



第五千回葉縣圖書館講習會

會覽展輸輸會

圖書分類要目表

0 總類	35 彫塑・骨董・美術工藝	69 運動
00 郷土資料	36 寫眞	7 理學・數學・醫學
01 圖書・圖書館	37 印刷	70 理學
02 事彙	38 音樂	71 數學
03 統計	39 演藝	72 物理・化學
04 叢書・全集	4 歴史・傳記・地理・紀行	73 天文學・地文學
05 新聞・雜誌	40 歴史	74 博物
06 協會・學會	41 日本史	75 醫學
08 稀覯書	42 東洋史	76 基礎醫學
09 隨筆・雜書	43 西洋史	77 臨床醫學
1 宗教・哲學・教育	44 傳記	78 治療學
10 宗教	45 地理・紀行	79 保健法
11 神道	46 日本地誌	8 工學・交通・通信
12 佛教	47 亞細亞地誌	80 工學
13 基督教	48 歐羅巴地誌	81 土木工學
14 哲學	49 亞米利加其他諸國誌	82 建築
15 論理	5 政治・法律・經濟・軍事	83 機械工學
16 心理	50 法制	84 電氣工學
17 倫理	51 政治	85 鑛山學
18 支那哲學	52 外交・國際	86 造船學
19 教育	53 植民	88 交通
2 文學・語學	54 法律	89 通信
20 文學	55 經濟	9 産業
21 日本文學	56 財政	90 産業
22 支那文學	57 軍事	91 農業
23 歐米文學	58 陸軍	92 園藝
24 小説・戯曲・講談落語	59 海軍	93 林業
25 兒童文學	6 社會・風俗・家庭・娛樂・運動	94 畜産業
26 論說・演說・式辭速記	60 社會	95 蠶業
27 語學	61 社會政策	96 水産業
28 國語	62 社會運動	97 工業・工藝
29 外國語	63 社會思想	98 鑛業
3 藝術・演藝	64 社會問題・社會事業	99 商業
30 藝術	65 家族及兩性問題	
31 美術	66 風俗	
32 書画	67 家庭及家政	
33 書道	68 娛樂	
34 繪畫		

私立成田圖書館一覽

(昭和九年三月末日現在)

館勢要綱

創立 明治三十四年一月一日
 開館 同 三十五年二月一日
 位置 千葉縣成田町成田
 建物坪數 延三三〇坪餘
 敷地 一、〇二八坪
 經費(決算) 一一、三七八円一八銭
 藏書 一〇六、六八三冊
 職員 九名
 閱覽人員(一日平均) 一四七人

本館概要

◎沿革大略

本館は成田山の經營に屬し、明治三十四年一月十一日創立認可を得、翌三十五年二月一日を以て開館す。現在地は成田山本堂の東に位し北に公園を、南及東に市區を控へ好適の位置たるを疑はず、されど茲に遺憾とするは、もも／＼本館閱覽室は圖書館として建設せしものに非ずして、最初明治三十三年一府三縣の水産物品評會開催に際し、其會場に貸與されたるものにして、其後故石川貫首の歐米より歸朝せらる、や僧正の發意により、斷然圖書館を開設するに決し、茲に洋行記念として本館は生れたり。

斯くて開館に當り不取敢新勝寺所藏の圖書約七千餘、山主書齋のもの約七千餘、合計一萬五千冊を移して兎も角開館、當時は勿論書庫もなければ目錄もなく單に閱覽室の四圍に書架を羅列して、所謂今日の公開書架式なりしが漸次閱覽人の増加と共に

に職員も増し三十五年六月には和漢書分類假目録完成、次いで三十八年二月より館外貸出を開始、爾來年を遡るて蔵書増嵩愈々書庫の必要を痛感し、三十九年三月書庫新築、四十年六月九日之が落成式を舉行し此日を以て本館永遠の記念日とすに至る。

蔵書も四十一年に及んで四万冊を越えれば茲に印刷目録の切要を感じ四十三年十月和漢書分類目録第一編を刊行し、更に大正三年三月第二編の印刷目録を刊行するに至る。

四十四年一月より夜間開館を實施倍々閱覽者の便宜を圖る。降つて大正十三年、館長石川僧正物故せられるに及び直に現貫主荒木僧正後を襲ふて館長と成る。

この間、主事高津親義氏は開館以來の主事として館務を執掌し來りしも、昭和二年十二月老齡の故を以て勇退願問となり、翌三年五月小林力彌氏後任して就職、次いで昭和四年四月全氏の退職に伴ひ、同年五月高井觀海氏の就任を見たるも昭和六年四月引退す。其後二年有半空位なりしも本年一月より本館司書成田善亮氏昇任し主事と成る。

一方蔵書は逐年の増加に加へ、屢々特殊蒐書の移管入蔵ありて愈々内容の充實を加へ、内外諸般の活動も逐次敢行し得るに至りしを以て今後は漸次地方文化の啓發に寄與し得るに共益々その機能を發揮し得るや必せり。

◎建物及敷地

- 閱覽室(木造二階建) 延 七十七坪
- 目錄席(木造) 六坪
- 事務席(全) 九坪
- 宿直室(全) 四坪
- 使丁室(全) 三坪
- 休憩所(全) 三坪
- 應接室(煉瓦造) 六坪
- 書庫(全三階建) 延 九十坪
- 雜誌書庫(木造) 六坪
- 住宅其他附屬建物(木造) 延 百廿六坪餘

閱覽室は固より舊物利用のものなれば多少遺憾の點あるは免かれざるも、之を適當に指定区分し閱覽者の自治的感念に委ねてゐる。即ち階上を一般閱覽室とし、階下は婦人、兒童、新聞の各席に指定しあるも嚴密なる區分を施さず、寧ろ自由開放といふも差支へなき程度のものである。又事務席は階下閱覽室の一角に設け、事務監視を兼ねつゝある。書庫は明治四十年の新築なるも、年々報の如く蔵書充實、愈々増築の必要なるものがある。

◎經費

○昭和八年度決算額

- (一) 職員給、雜給 五、三一五〇〇
- (二) 需用費其他 一、八一五、一一
- (三) 圖書費(新聞、雜誌、製本費等) 三、八四一、八二
- (四) 營繕費 四〇六、二五
- 計 一一、三七八、一八

◎藏書

○昭和八年度増加書

- 和 漢 書 二、二二〇冊
- 洋 書 一八冊
- 計 二、二三八冊

○昭和九年三月末日現在圖書數

- 和 漢 書 一〇一、六六七冊
- 洋 書 五、〇一六冊
- 合 計 一〇六、六八三冊

蔵書として購入すべき圖書の標準は勿論一般公共圖書館のそれと大同小異であるが、宗教地にある本館としては勢ひ宗教的文獻に力を須ひざるを得ない立場にある。蔵書の増加率は大體寄贈を合して年々二千餘冊ではあるがそ

◎目錄

目錄は大別して來館者の爲のカード目錄と外部にある者に對する印刷目錄との二種に分ける事が能き。

本館備付のカード目錄は「分類」に「書名」の二種であるが實際上使用率の多いのは矢張分類目錄である。更に之を時代別に見るべきは舊きものより新しきものが使用されてゐる。

尤も昭和四年以前の分類は多少杜撰であるに加へ其後のものは從來の八門分類を廢し別記新制の十進分類に改めたるを以て無論組織も一變し精細となりたる爲檢索上の利便を増大した事にも依る。

印刷目錄は第二編迄の刊行成り、大正三年初期迄の蔵書を發表し得たのであるが其後種々の關係上印刷の機會なく今日に遷

延してゐるものは云へ事實其の内容は優に第四乃至第五編迄は刊行し得る見込である。随つて他日續編上梓の暁は一段の貢獻をなし得ることと思ふ。

次に、新着圖書の紹介方法としては整理済の圖書を閲覧室の新刊書架に排列公開し、この中主なるものは季刊のパンフレット「増加書の知らせ」に登載して希望者に頒布しつゝある。

◎職員

館主兼館長	荒木照定
顧問	高津親義
主事	成田善亮
司書	高田定吉
司書	小川益藏
事務員	武士田文哉
同僚	岩生館子
嘱託	佐藤凛明

◎閲覧状況

閲覧圖書の第一位が文藝物にあることは、何時の世、如何な

別類書圖覽閱

種別	館内	館外	合計	百分比
總類	4320	520	4840	100.0
宗教・哲學・教育	332	675	1007	20.8
文學・語學	947	1075	1922	39.7
藝術・演藝	134	248	382	7.9
歴史・傳記	355	368	723	14.9
地理・紀行	191	153	344	7.1
政治・法律	191	153	344	7.1
經濟・軍事	255	100	355	7.3
社會・風俗・家庭	302	79	381	7.9
娛樂・運動	555	77	632	13.1
理學・數學・醫學	327	77	404	8.4
工業・交通・通信	555	77	632	13.1
産業	327	77	404	8.4
兒童圖書	1273	89	1362	28.1
合計	4493	547	5040	100.0
一日平均	1418	175	1593	—

昭和八年年度 閲覧統計 (開館日数三二七日)

別業職人覽閱

種別	館内	館外	合計	一日平均
學生	736	355	1091	22.5
官公吏	455	33	488	10.2
實業	414	71	485	10.1
婦人	1201	1090	2291	47.6
兒童	933	311	1244	26.0
其他	384	670	1054	22.1
合計	2747	1229	3976	83.5

◎私立成田圖書館規則

- 第一條 本館ハ主トシテ一般圖書、雜誌等ヲ蒐集シテ廣ク公衆ノ閲覧ニ供シ社會ノ智徳啓發ニ裨益スルヲ以テ目的トス
- 第二條 何人ニテモ滿十二歳以上ノ者ハ本館ニ來リテ圖書ノ借覽ヲナスコトヲ得
- 第三條 本館ハ左ノ時限ヲ以テ開閉ス
 - 開館時限 閉館時限

私立成田圖書館一覽

五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
午前八時	午後八時半	午前八時	午後八時	午前九時	午後八時	午前九時	午後八時

- 第四條 本館ノ定期休日ハ左ノ如シ但臨時休館ハ其時々揭示ス
 歳首 自一月一日 館内掃除 毎月末日
 紀元節 二月十一日 天長節 四月二十九日
 記念日 六月九日 明治節 十一月三日
 曝書期 九、十月、中 自十二月廿八日
 凡十日内外 末 至同三十一日
- 第五條 本館内ノ圖書閱覽ハ總テ無料トス
- 第六條 圖書閱覽希望者ハ圖書閱覽證(求書ノ書名冊數番號及住所職業氏名月日ヲ記入シ出納所ヘ提出シテ書冊ヲ借受クベシ)
- 第七條 貸附圖書ノ員數ハ求書人ニ對シ一時ニ和裝書ハ二種十二冊洋裝書ハ二種二冊ヲ限リトシ和洋併借ノ時ハ各其半數ニ過グルヲ得ズ但語學ニ關スル辭書ノ併借ハ此ノ制限外トス
- 第八條 借受ノ圖書ハ閱覽室外ヘ携帶スルコトヲ得ズ

- 一、圖書帶出願書ヲ差出スベシ(用紙ハ本館交附)
- 二、圖書帶出願書ニハ本館ノ承認セル保證人ヲ要ス
- 三、帶出料金壹圓ヲ豫納スベシ
- 四、成田中學校、成田高等女學校、成田學園、成田幼稚園、新更會ノ教職員ハ同校長、主任若クハ理事ノ保證ニ依リ帶出ヲ許可ス
- 五、新勝寺徒弟詰合員ニ限リ同寺執事ノ證明ニ依リ成田尋常高等小學校職員ニ限リ同學校長ノ保證ニ依リ帶出ヲ許可ス
- 六、四、五項ノ場合ニハ帶出料ヲ要セズ
- 第七條 本館ハ前條ノ手續ヲ了シタル上ニテ帶出簿ヲ交附ス
- 第八條 帶出有効期間ハ一ヶ年トス
- 第九條 貸出圖書數ハ一回ニ付和裝書ハ三冊以内洋裝書ハ一冊トス
- 第十條 貸出期間ハ一週間以上三週間以内ノ範圍ニ於テ本館ノ見込ヲ以テ其時々之ヲ定ム
- 第十一條 期限ニ至リ尙續借セントスルモノハ一旦返納シ更ニ借受ノ手續ヲナスベシ
- 第十二條 但他ニ同書ノ借覽ヲ請フモノアル時ハ續借ヲ謝絶スルコトアルベシ
- 第十三條 特許借受ノ圖書ト雖モ本館ニ於テ要用アル時ハ臨時返戻セシムルコトアルベシ
- 第十四條 帶出權ヲ得タルモノニシテ他所ヘ轉居シタル場合又ハ改名シタル場合ハ其都度届出ヅベシ
- 第十五條 保證人死亡其他ノ事故ニ依リ資格ヲ失ヒタル時ハ更ニ保證人ヲ定メ定式ノ證書ヲ差出スベシ

私立成田圖書館一覽

- 第九條 過失ト故意トニ關セズ借受ノ圖書ヲ紛失シ又ハ汚損毀傷シタル時ハ同一ノ圖書若クハ相當代價ヲ辨償セシム但汚損ノ狀況ニ依リ本文ヲ斟酌スルコトアルベシ又其行爲ノ次第ニ依リ一ヶ月乃至一年間登館ヲ謝絶スルコトアルベシ
- 第十條 本館ノ規則ニ違背シ又ハ不法ノ行爲アル者ハ其情狀ニ依リ登館ヲ謝絶スルコトアルベシ
- 第十一條 閱覽席ヲ一般、婦人、兒童ノ三區ニ別チアレバ猥リニ他席ヲ侵スベカラズ
- 第十二條 閱覽所内ニ於テハ一切音讀、談話、喫煙ヲ禁ズ
- 第十三條 何人ニテモ圖書ヲ寄贈セラル、トキハ其目錄員數及住所氏名ヲ詳記シ寄贈圖書ニ添テ送付セラレタシ但寄贈圖書運搬費用ヲ自辨シ難キ向ハ時宜ニ依リ本館ヨリ支辨ス
- 第十四條 凡ソ公衆ノ閱覽ニ供シ若シハ保管ヲ請フノ目的ヲ以テ本館ニ圖書ヲ委託セント欲スル者ハ其事由目錄員數ヲ詳記シ必ズ本館ヘ照會シ承諾ヲ得タル後其圖書ヲ送致サルベシ
- 第十五條 委託ノ圖書ハ館藏ト同一ノ取扱ヲナスベシ
- 第十六條 委託ノ圖書ハ厚ク保護スト雖モ不幸火災盜難其他天災ニ罹リテ損失敗亡ヲ來スコトアリトモ本館ハ其責ニ任セズ
- 第十七條 館外圖書貸出規則ハ別ニ之ヲ定ム 以上

◎成田圖書館圖書貸出規則

- 第十條 左記ニ該當スル圖書ハ帶出ヲ許サズ
 一、大部ノ圖書
 二、各學科ノ事典、辭書、類書、書目、新聞
 三、館内閱覽人ノ請求多キ圖書
 四、貴重高價ナル圖書
 五、新刊圖書ハ二ヶ月乃至三ヶ月後定期刊行書雜誌類ハ裝釘ノ上ニアラザレバ貸出セズ
- 第十一條 借覽期限ヲ經過シ本館ノ注意ヲ受クル二回ニ及ビ尙返戻セザル時ハ本館ハ圖書帶出ノ効力ヲ取消シ其事情ニヨリ再ビ之ヲ許可セザルベシ此場合ニ於テハ帶出圖書ノ代金ハ保證人ニ辨償セシムベシ
- 第十二條 借受圖書ヲ紛失シ若クハ汚損シタル時ハ本人及保證人ハ辨償ノ責ニ任ズ
- 第十三條 圖書帶出ハ開館期間中ニ限ルモノトス
- 第十四條 圖書帶出ヲ中止セントスルトキハ其届届出ヅベシ
- 第十五條 但帶出料ハ返戻セズ
- 第十六條 圖書帶出有効期間滿期トナリ引續キ希望ノモノハ更ニ帶出願書ヲ差出スベシ 以上

情報

私立成田圖書館一覽

神戶高等工業學校	興風會文藝部	鈴本治	千葉縣學務部
神戶市立圖書館	須田寛治	千葉縣知事官房	千葉縣藥劑師會
郊北文學會	駿河台圖書館	千葉縣羅災救護會	千葉縣立圖書館
國民教育會	生命保險會社協會	千葉縣立圖書館	中央大學々員會
國民精神文化研究所	淺草寺教學部	中央大學々員會	中央報德會
國務院總務廳情報部	善隣協會	朝鮮總督府	朝鮮總督府官房文書課長
黑龍會	反町義雄	朝鮮總督府官房文書課長	朝鮮總督府通信局
小島謙	台北高等商業學校	朝鮮總督府通信局	津雲國利
互尊文庫	台灣總督府圖書館	高岡市立圖書館	格一郎
埼玉縣立圖書館	高岡市立圖書館	高田芳枝	帝國公民教育協會
佐藤源明	高田定吉	高根政次郎	帝國公民教育協會
三圭社	高根政次郎	高松高等商業學校	寺島敏巧
産業組合中央金庫	高松高等商業學校	高松宮家事務所	天理圖書館
産業振興研究所	高松宮家事務所	拓務省拓務局	東京一篤志家
篠田著山	拓務省拓務局	拓務大臣官房文書課	東京工業大學
島本義典	田尻先生傳記及遺稿編纂會	千葉縣衛生課	東京中央放送局
昭文館	千葉縣衛生課		東京帝國大學
神宮學館庶務部			
神宮文庫			
新更會			

東京天文台	南洋興發株式會社東京事務所	保險加入者協會	文部省
東京府學務部社會課	日露協會	堀田正夫	文部省社會教育局
東北帝國大學	日本興業銀行調查課	戊辰會	八橋徳次郎
東洋協會	初谷豊作	本田重次郎	山一證券株式會社
東洋文庫	ばんだね社	增田榮	山一本堂
德政工務店	日比谷圖書館	松村金助	横濱市役所秘書課
都南莊	日比谷圖書館兒童部	水野葉舟	米本照全
內閣統計局	廣島商工會議所	密教研究會	よろこび會
中山文化研究所	福島商工會議所	三橋たけ	陸軍大臣官房
成田參光協會	豊山派宗務所	三宅俊成	陸軍大臣官房
成田善亮	文化教育會	明治生命保險株式會社	林業試驗場
成田煙草販賣所長	逸見製作所	明治佛敎史編纂所	
成田町役場	北滿鐵路經濟調查局	最上慶隆	
成富儀一			

昭和八年 雜誌新聞寄贈者芳名

(每誌寄贈者のみを掲ぐ) [五十音順] [敬稱省略]

明るい家社	明るい家	秋田縣立圖書館	秋田縣立圖書館々報	朝日新聞調査課	讀書標
秋田縣立圖書館	秋田縣立圖書館々報	朝日新聞調査課	讀書標		
石川縣立圖書館	石川縣立圖書館々報	石川甚兵衛	國家學會雜誌		
石川縣立圖書館	石川縣立圖書館々報	石川甚兵衛	國家學會雜誌		
大日本國防義會會報	內觀	三田評論	滿州評論	石川富士雄	れきしとちり
上原虎之助	南國	新國民	潮田健二	土上	變人

私立成田圖書館一覽

私立成田圖書館一覽

- 香 書
- 台灣總督府圖書館
- 新著圖書目錄
- 高田定吉
- 東京毎夕新聞
- 高田芳枝
- 話方研究
- 婦人俱樂部
- 拓務省拓務局
- 拓務時報
- 智山公論社
- 智山公論
- 智山派宗務所
- 智山派宗報
- 千葉縣教育會
- 千葉教育
- 千葉縣社會事業協會
- 社會事業タイムス
- 千葉縣消防新聞社
- 千葉縣消防新聞
- 千葉縣統計協會
- 統計
- 千葉縣圖書館協會
- 房總圖書館之志料
- 千葉縣農會
- 愛土
- 千葉縣立圖書館
- 千葉縣立圖書館報
- 千葉縣聯合青年團
- 千葉縣青年處女
- 朝鮮總督府
- 調查月報
- 朝鮮圖書館研究會
- 朝鮮の圖書館
- 中央大學々員會
- 中央大學々報
- 土筆社
- 土筆
- 帝國水難救護會
- 海
- 帝國圖書館
- 帝國圖書館報
- 天理圖書館
- 天理時報
- 天理圖書館報
- 東京堂
- 東京堂月報
- 東寺事務所
- 護國
- 東總時報社
- 東總時報
- 燈臺社
- 黃金時報
- 東洋協會
- 東洋
- 特許局
- 特許公報
- 鳥取縣立圖書館
- 鳥取縣立圖書館報
- 內閣統計局
- 統計時報
- 行方喜一
- 經濟知識
- 奈良縣立圖書館
- 奈良縣立圖書館報
- 成田幸子
- 天理圖書館報
- 婦女界
- 成田高等女學校
- 校友會雜誌
- 成田中學校
- 成邱タイムス
- 校友會雜誌
- 成田信
- 少年俱樂部
- 西宮市立圖書館
- 西宮市立圖書館報
- 日本弘道會
- 弘道
- 日本植民通信社
- 植民
- 日本赤十字社
- 博愛
- 日本のローマ字社
- ローマ字の世界
- 羅馬字の日本
- 日本博物館協會
- 博物館研究
- 哈爾濱圖書館

私立成田圖書館一覽

- 牛込新報社
- 牛込新報
- 英語青年社
- 英語青年
- 大阪出版社
- 英文大阪毎日學習號
- 大阪商船株式會社
- 海
- 大竹又次郎
- サンデー毎日
- 新聞及新聞記者
- 海防義會
- 海防
- 外務省情報部
- 國際事情
- 科學博物館事業後援會
- 自然科學と博物館
- 學而會
- 密宗學報
- カナモジカイ
- カナノヒカリ
- 鎌田共濟會
- 鎌田共濟會雜誌
- 關西藝術新聞社
- 露
- 錦旗會本部
- 日本思想
- 組合金融研究會
- 組合金融
- クリチツク社
- クリチツク
- 經濟市場社
- 經濟市場
- 京城帝大心理學彙報發行所
- 心理學彙報
- 研究社
- 研究社月報
- 高知縣立圖書館
- 高知縣立圖書館報
- 神戸市立圖書館
- 神戸市立圖書館
- 增加圖書月報
- 高野山時報社
- 高野山時報
- 高野山大學密教研究會
- 密教研究
- 國民精神社
- 國民精神
- サラリーマン社
- サラリーマン
- 時事新報成田專賣所
- 時事新報
- 實業の世界社
- 實業の世界
- 社會教育會
- 社會教育
- 十善會
- 十善會
- 修驗社
- 修驗
- 新更會
- 新更
- 新興社
- 新興
- 新勝寺收納方
- 新勝寺
- 高野山時報
- 高野山大學密教研究會
- 國民精神社
- 國民精神
- サラリーマン社
- サラリーマン
- 時事新報成田專賣所
- 時事新報
- 實業の世界社
- 實業の世界
- 社會教育會
- 社會教育
- 十善會
- 十善會
- 修驗社
- 修驗
- 新更會
- 新更
- 新興社
- 新興
- 新勝寺收納方
- 新勝寺
- 五七
- 日本勸業銀行月報
- 新變社
- 新變
- 鈴木勇
- 鈴木
- 須田寬治
- 須田
- 週刊朝日
- 週刊朝日
- 清觀編輯部
- 清觀
- 清觀
- 聖道社
- 聖道
- 淺草寺社會部
- 淺草寺
- 淺草寺時報
- 淺草寺
- 大衆往來社
- 大衆往來
- 大衆往來
- 大小タイムス出版社
- 大小タイムス
- 大タイムス
- 小タイムス
- 大日本國民中學會
- 大日本國民
- 大連圖書館
- 大連

私立成田図書館一覽

新著極東資料月報
 ばんだね社
 ばんだね
 日比谷図書館
 東京市立図書館と其事業
 被服協同會
 被服
 藤崎公道
 結核
 細菌學雜誌
 兒科雜誌
 實驗治療
 社會醫學雜誌
 千葉醫學會雜誌
 治療及處方
 治療藥報

東京醫事新誌
 日本消化器病學雜誌
 日本婦人科學會雜誌
 皮膚科及泌尿器科雜誌
 ミュンヘンホル・メヂチ
 ニツシュオツヘンシ
 ユリフト
 平民病院
 凡人の力
 逋路同行會
 逋路
 房總郷土研究會
 房總郷土研究
 房總新聞社
 房總新聞
 法華會

法華
 滿鐵社員會
 協和
 水野葉舟
 ローマ字
 三越洋書部
 ザ、バイバー
 フロムミツコシ
 宮内正之助
 明倫會出版部
 明倫
 森江書店雜誌部
 三賢
 文部省圖書館講習所
 學友會雜誌

ヤマサ醤油株式會社尙友會
 山中文庫
 安房同人
 謠曲界發行所
 謠曲界
 横濱市立圖書館
 横濱市立圖書館報
 よろこび會
 よろこび
 ラスピハリボース
 新亞細亞
 隣人の友社
 隣人の友
 早稻田大學々友會
 早稻田學報

新更會一覽

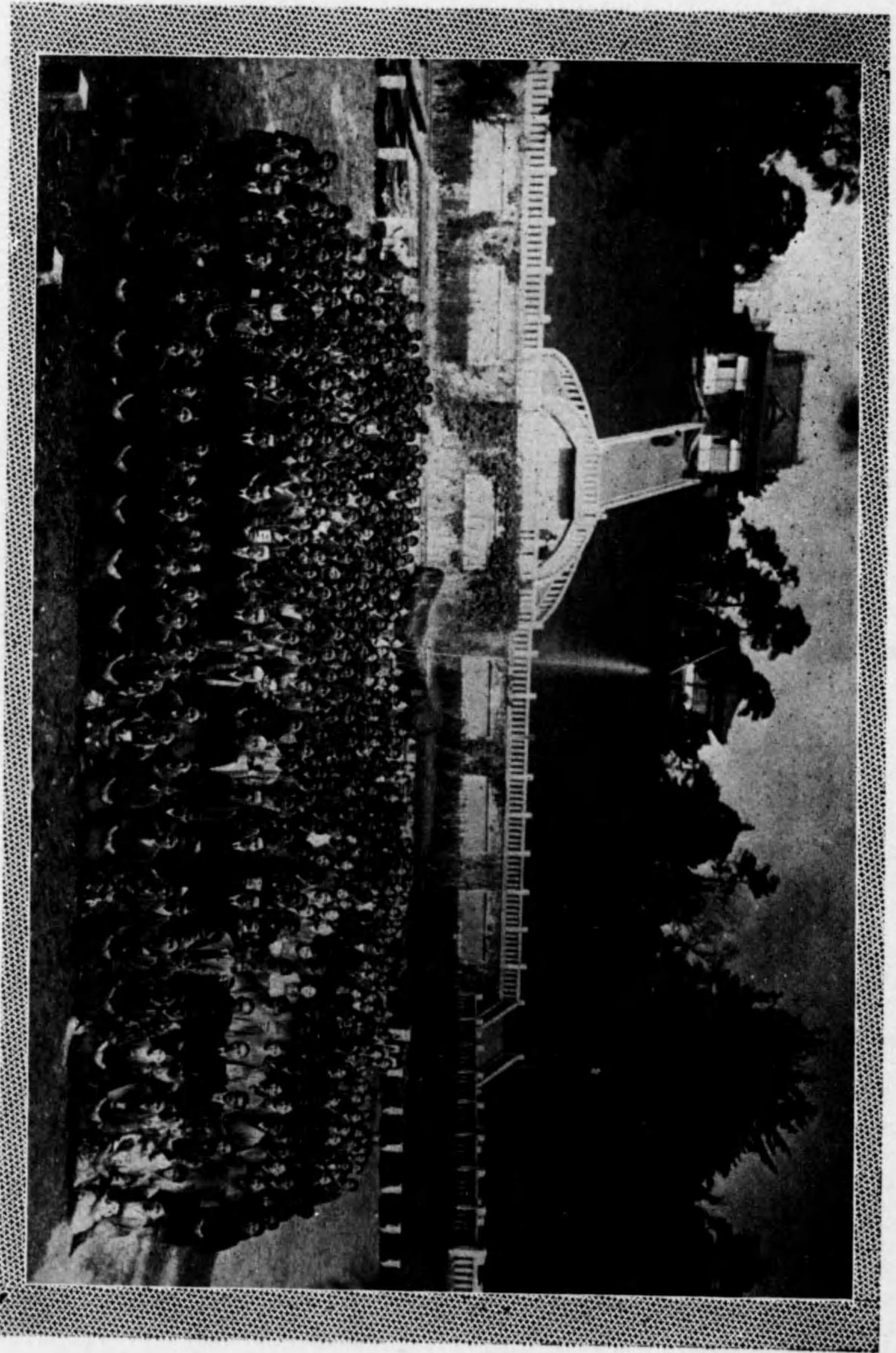
總會	一
役員及職員	三
平面圖	五
事業報告	六
新更學院學則	一二
新更學院職員	一三
會員分布現在數	一八
支部分布現在數	一九

私立成田図書館一覽

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 新著極東資料月報
ばんだね社
ばんだね
日比谷図書館
東京市立図書館と共事業
被服協會
被服
藤崎公道
結核
細菌學雜誌
兒科雜誌
實驗治療
社會醫學雜誌
千葉醫學會雜誌
治療及處方
治療藥報 | 東京醫事新誌
日本消化器病學雜誌
日本婦人科學會雜誌
皮膚科及泌尿器科雜誌
ミュンヘンネル・メヂチ
ニツシユオツヘンシ
ユリフト
平民病院
凡人の力
逋路同行會
逋路
房總郷土研究會
房總郷土研究
房總新聞社
房總新聞
法華會 | 法華
滿鐵社員會
協和
水野葉舟
ローマ字
三越洋書部
ザ、バイパー
フロムミツコシ
宮内正之助
檉
明倫會出版部
明倫
森江書店雜誌部
三寶
文部省圖書館講習所
學友會雜誌 | ヤマサ醤油株式會社尙友會
尙友
山中文庫
安房同人
謠曲界發行所
謠曲界
橫濱市立圖書館
橫濱市立圖書館報
よろこび會
よろこび
ラスピハリボース
新亞細亞
隣人の友社
隣人の友
早稻田大學々友會
早稻田學報 |
|---|--|--|---|

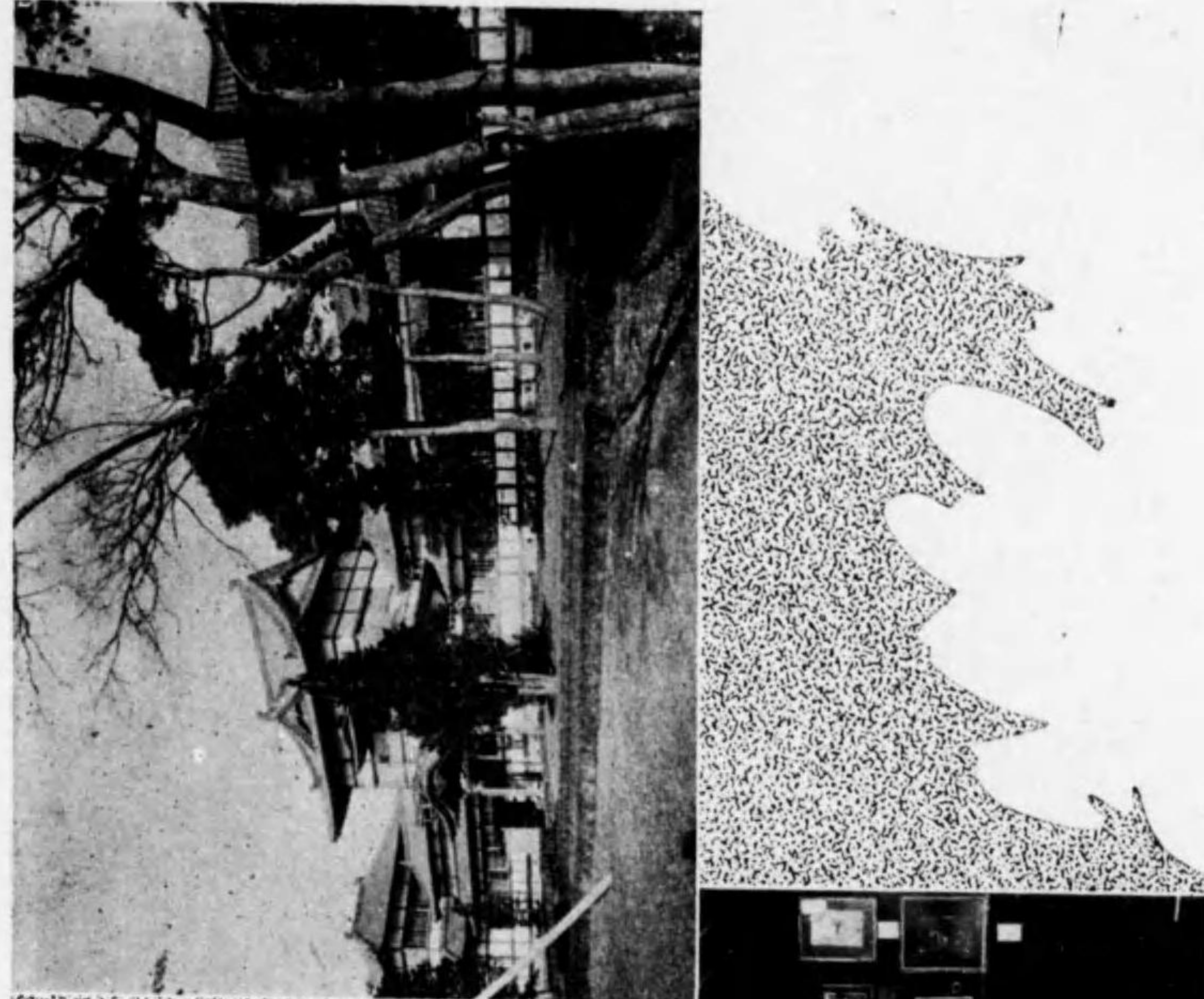
新更會一覽

趣意書	一
會則	二
役員及職員	三
平面圖	五
事業報告	六
新更學院學則	一二
新更學院職員	一三
會員分布現在數	一八
支部分布現在數	一九

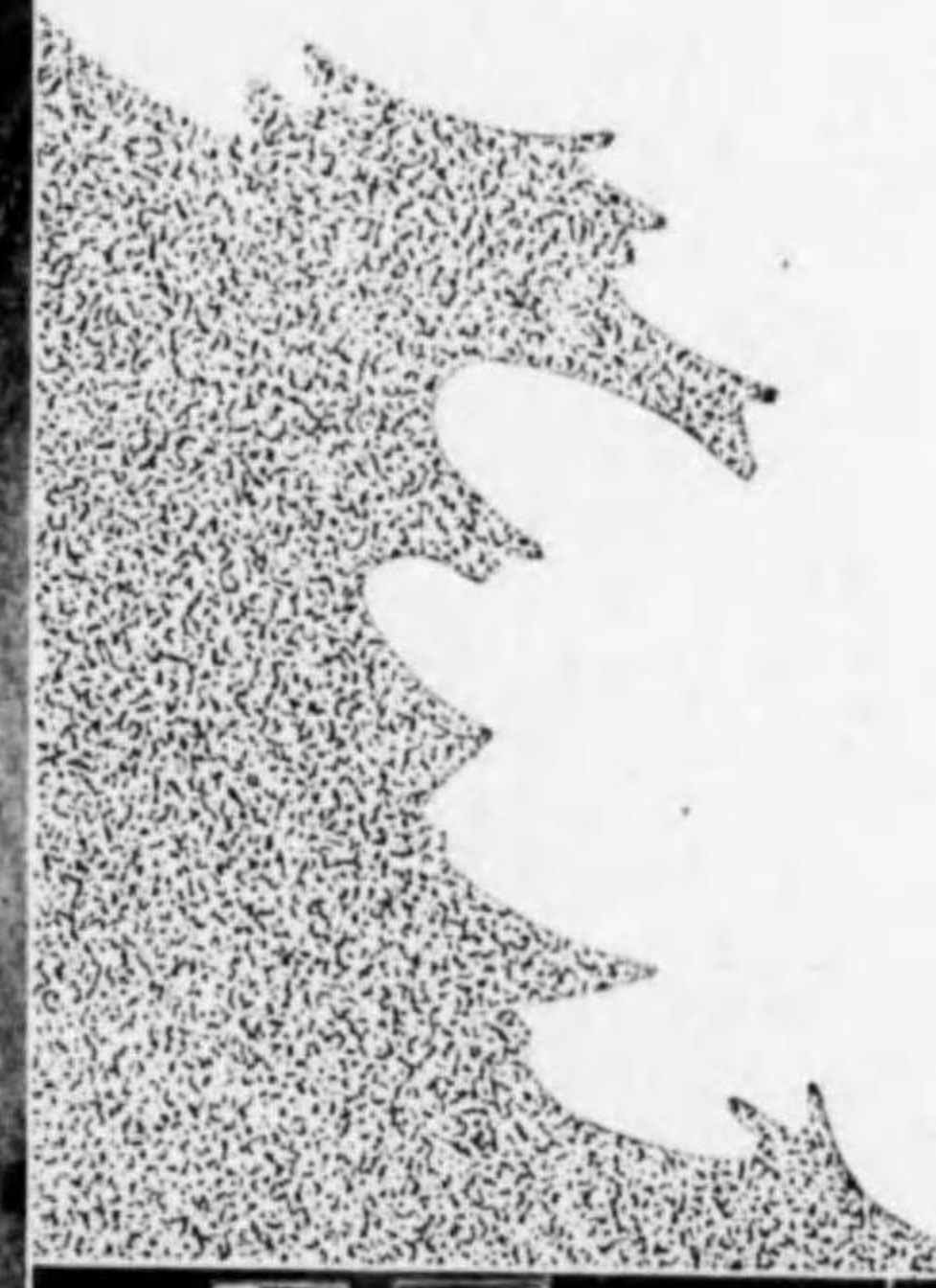


第三回更新女子講習會聽講生





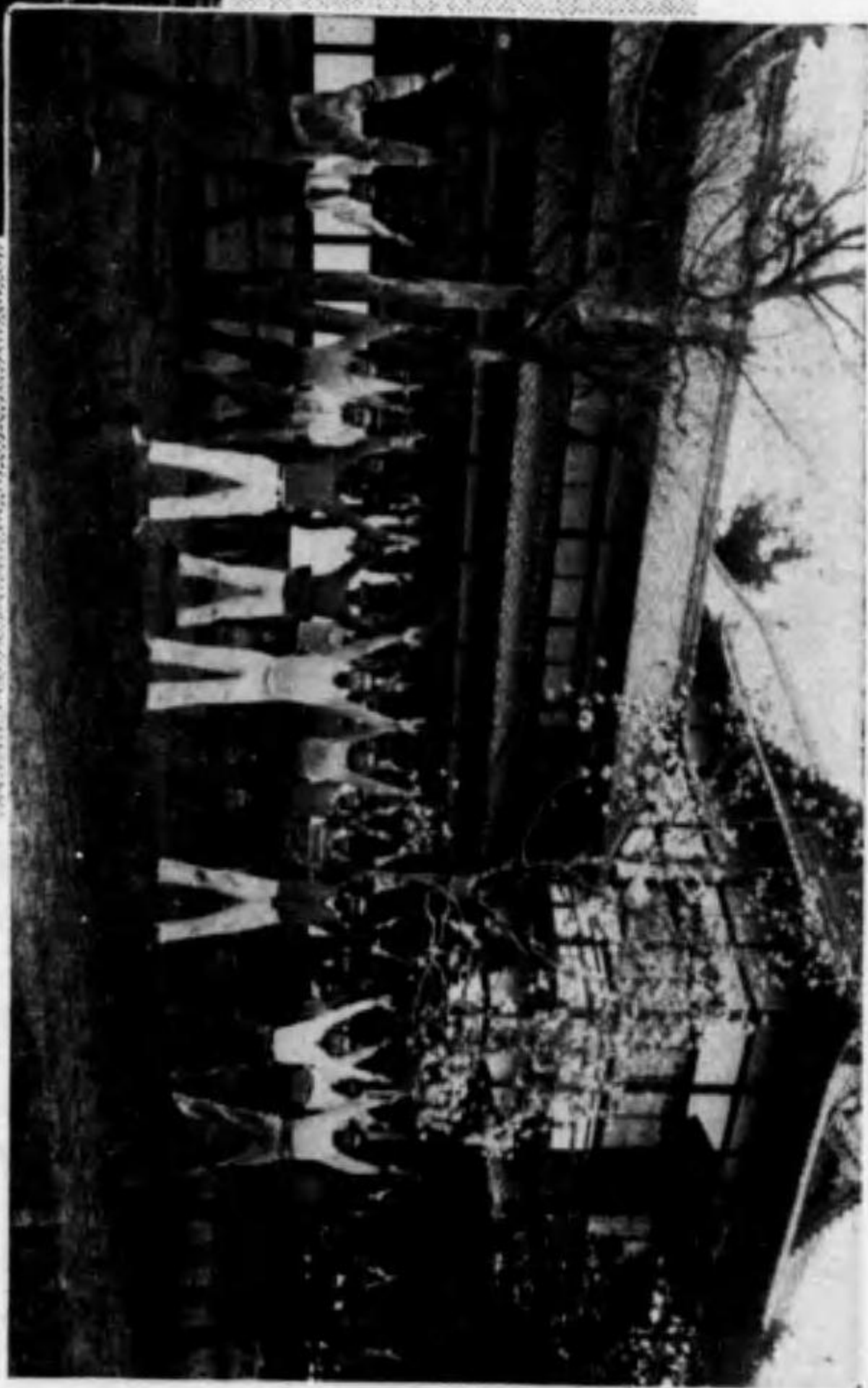
影全館會更新



會覽展畫童更新回一第



操體の生習課



同一生習講年青回十第

新更會歌

石川富士雄作歌
弘田龍太郎作曲

壯快に ♩=112

トキハノミドリシタタリテ アカツキキヨキセ
よにさきかけしはたじるしせいじんきやういく
チトクノレンマカサネツツ ミチニイソシム
もりにこもりししようれいのせいさうのきをた

イレイニソソリ タチタルカイ ーカソノイキ
きそかたくくわだう せいしんかう ーやうの
ンジクノキヤクダウ ニリサウシノ ーバルムセ
たへたるじねに ちかひししめ ーいもて

ラカニヒカリ ハエツタル ソワレラノ
はくにかみちて ヨゆるぎなし ワレラノ
ホキカタノマム スリきらむ われらの

ダンケ ーツ シンカウ ーツ イ ー
だんけ ーつ しんかう ーつ い ー
だんけ ーつ しんかう ーつ い ー
だんけ ーつ しんかう ーつ い ー

新更會歌

(男子の部)

一、常磐の翠滴りて

曉淨き成嶺に

そり立ちたる會館の

窓に光り映えわたる

我等の團結 新更會

三、智徳の練磨重ねつゝ

道にいそしむ春秋の

行事に理想偲ばるゝ

牽き固めを結びたり

我等の團結 新更會

二、世に魁けし旗標

成人教育の基礎固く

皇道精神高揚の

氣魄に満ちて搖ぎなし

我等の團結 新更會

四、杜に籠りし鐘韻の

清爽の氣を湛へたる

胸に誓し使命もて

世路の波濤を乗り切らむ

我等の團結 新更會

新更會歌

石川富士雄作歌
弘田龍太郎作曲

♩=118 明かに

コ キ ト キー ハ ギ ニ カー コー マ ル ル
 え い ち のー か が み きー よー め つ つ
 も り を わー た れ る かー ねー の ね を

イ ラ カ ニ ヒ カ リ ハ ユ ル ナ リ
 し さ う の ひ な み を の り き ら り
 じ ゃ コ リ ヲ タ カ タ イ タ は や か に

ナ リ ター ノー オ カ ニ コ コー ノー コー エ
 く う たー うー せ い し ん け んー やー うー の
 ヲ ト クー ヲー ミ ガ キ シ ヲ クー ジー ンー ノー
 ち か ひー もー か た き し めー いー もー て

ア ゲ シ ソー レ ラ ノ シ ン ター ウ ク ツ イ
 は た を かー ざー せ る し ン かー う く わ い
 ミ チ ニ カー が ヤ ク シ ン カー ウ ク ツ イ
 す す じ わー れ ら の し ン かー う く わ い

新更會歌

(女子の部)

- 一、濃き常盤木に圍まる、
 莖に光り映ゆるなり
 成田の岡に呱呱のこゑ
 あげし我等の新更會
- 二、叡智の鏡淨めつゝ
 思想の波を乗り切らむ
 皇道精神顯揚の
 旗をかざせる新更會
- 三、清く育ちし少女子の
 矜持を高く抱きつゝ
 婦徳を磨き精進の
 道に輝やく新更會
- 四、杜をわたれる鐘の音を
 胸に湛ふや爽やかに
 誓ひも固き使命もて
 進む我等の新更會

新更會一覽

趣意書

新更會は、成田山現貫主荒木照定師の純意に依り昭和三年六月五日を以て發會せられたる修養團體である。

現今我國の世相が頗る不安の状態に陥りつゝあることは識者の等しく痛嘆する所である。蓋し明治末葉以來、國民精神の上一種の暗影を生じ來り爲めに人心漸く輕佻懶惰に流れ上下反目し同胞離反するの傾向日々に強く、延いて國民的團結の上基だ面白からざる結果を生ずるに至つた。これ蓋し我國の長き模倣文明に依る一の惡結果云ふべきものにして、今や我國は、正に模倣時代より一步創造の時代に入らねばならぬのである。

畏くも今上陛下は朝見式の御詔勅に「創造ニ励メヨ」の御詞を下し賜はつた。此御詞は實に現代の我國民の向ふ所を明らかに指示しなされたものである。吾人は此の聖旨を体して國民意識の向ふ所を明らかにし、社會人心の不安を除去して、茲に新日本の文化を創造建設し、以て聖慮を安んじ奉ることを最めねばならぬのであつて、本會設立の所以も亦茲にある。

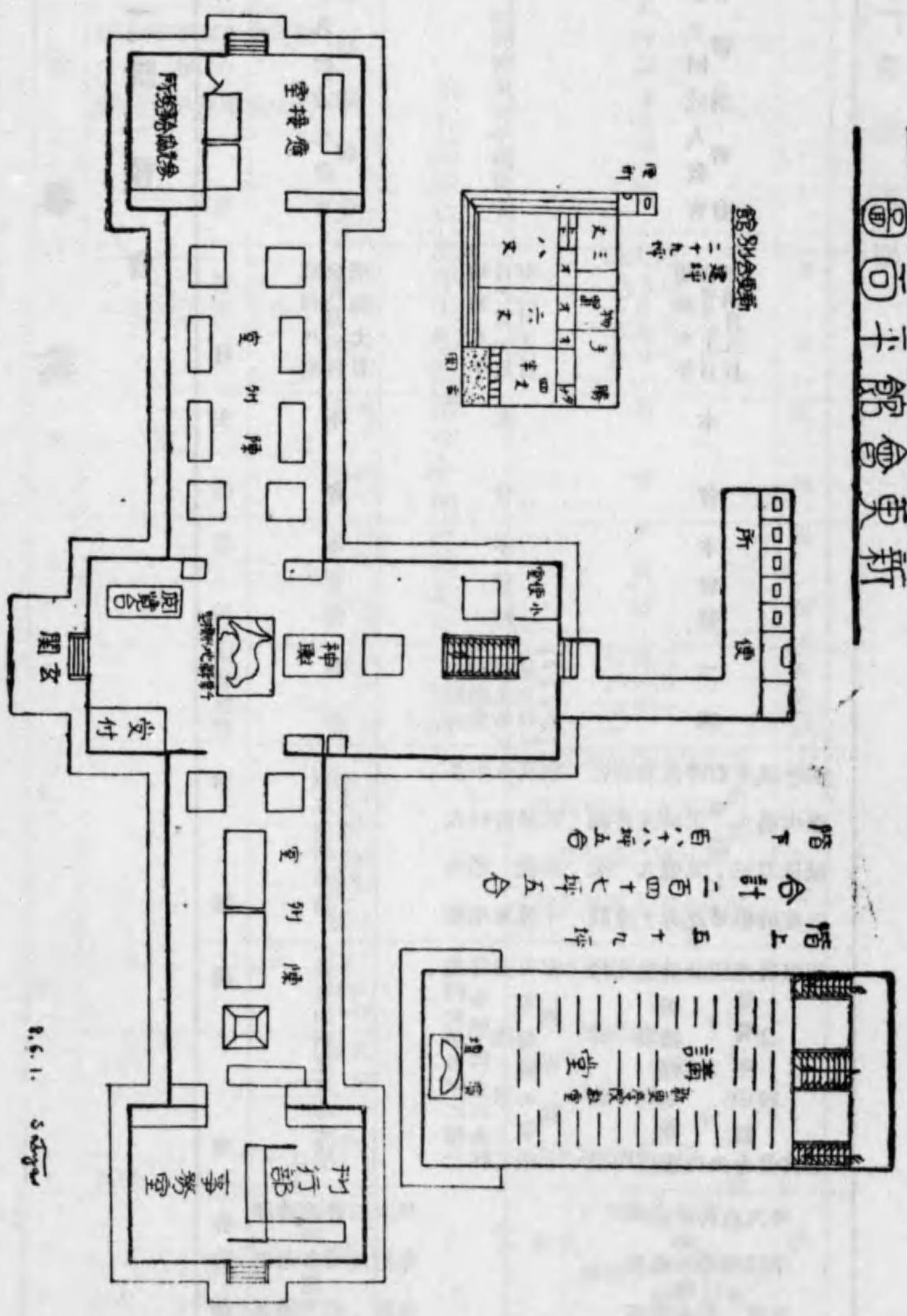
凡そ一國風教の刷新、精神の振興は、健實なる教育にまたねばならぬ。然るに從來我國に於ては、教育は單に學校教育のみを指すものなるが如く考へられ、學校以外の教育の甚だ重大なる事を看過するの傾向いよゝ濃厚となり、從つて教育は知識偏重主義に流れ、健實なる人格の養成は日々に退歩し、遂に社會的不安を惹起するに至つたのである。

蓋し、健實なる人格の涵養、社會の精神的覺醒は、是非學校に於ける知的教育のみに依頼すべきものではなく、日常生活に於ける社會的交渉の過程に於て、各自の修養練磨に依つて達成せらるゝものである。社會に於ける吾等人間の關係は、之を教育的に見るならば、必らず教へ教へらるゝ所の關係にあるものにして、社會教育の重大なることは茲に存するのである。從つて學校生活を終りて此の社會生活に第一步を乗出せる所の所謂成人（青年）に對する教育は最も重大である。何となれば、彼等青年は、社會の教へ教へられる所の世界に入りて、其の社會教育の一要素を構成する所の人々なるが故である。かくて此成人教育なるものは、漸く近時世人の注意を喚起し來れるのであるが、この成人教育なるものは、主として知的なる學校教育を

新更會一覽

- | | | |
|-------------|-------|---------|
| 秋山照英 | 佐藤國二 | 木内民雄 |
| 木内喜右衛門 | 三橋金太郎 | 宮田半左衛門 |
| 宮崎廣 | 平山清助 | 諸岡勝太郎 |
| 關川藤右衛門 | 川名照通 | 渡邊和一 |
| 諸岡市郎左衛門 | 大野市平 | 鈴木民次郎 |
| 神崎照惠 | | |
| 顧問 高井觀海 | 兒玉九十 | |
| 主幹 澤田五郎 | | |
| 幹事 (○印常任幹事) | | |
| 渡邊和一 | ○神崎照惠 | 諸岡市郎左衛門 |
| 書記 石橋廣 | 大野政治 | 林幸治郎 |
| 給仕 海瀨三郎 | | |

新更會館圖



新更會一覽

(日曜月) 日 七 月 八		
計	其無僧事官商農學教	郡千 業東 葛 郡印 旆 郡香 取 郡海 上 郡匝 毘 郡山 武 郡君 津 郡安 房 縣茨 城 市東 京 川神 奈 縣埼 玉 縣愛 知 道北 海
	務公 他職侶員吏業業生員	
六	五一	郡千業
一	一	郡東葛
九	三三	郡印旆
三	二八五二四三四五	郡香取
八	一六	郡海上
一	一	郡匝毘
二	一	郡山武
四	一	郡君津
一	一	郡安房
一	一	縣茨城
二	一	市東京
一	一	川神奈
三	一二	縣埼玉
一	一	縣愛知
一	一	道北海
一二六	一四一四 二〇五三三八二	計
	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	平
	〇〇〇〇〇〇三〇三 一八四二四八八四	均

(日曜日) 日 六 月 八		
計	其無僧事官商農學教	郡千 業東 葛 郡印 旆 郡香 取 郡海 上 郡匝 毘 郡山 武 郡君 津 郡安 房 縣茨 城 市東 京 川神 奈 縣埼 玉 縣愛 知 道北 海
	務公 他職侶員吏業業生員	
七	五一	郡千業
一	一	郡東葛
二	三五	郡印旆
九	二〇九二六五五〇	郡香取
一〇	一六	郡海上
二	一	郡匝毘
五	一二	郡山武
一	一	郡君津
一	一	郡安房
一	一	縣茨城
二	一	市東京
一	一	川神奈
三	一二	縣埼玉
一	一	縣愛知
一	一	道北海
一五六	一四一五 二四九四七九二九	計
	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	平
	〇〇〇〇〇〇三〇三 一九五二四一七八	均

(日曜土) 日 五 月 八		職業
計	其無僧事官商農學教	地方
	務公 他職侶員吏業業生員	
六	五一	郡千業
二	一	郡東葛
二	三四	郡印旆
五	一二二九二五二三九	郡香取
九	六三	郡海上
二	一	郡匝毘
六	一二	郡山武
一	一	郡君津
一	一	郡安房
一	一	縣茨城
二	一	市東京
四	三	川神奈
一	一	縣埼玉
三	一二	縣愛知
一	一	道北海
一五四	一四一五 五二四九四六六〇八	計
	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	平
	〇〇〇〇〇〇三〇三 三一九六二四〇六八	均

(日曜金) 日 四 月 八		職業
計	其無僧事官商農學教	地方
	務公 他職侶員吏業業生員	
六	五一	郡千業
一	一	郡東葛
二	三五	郡印旆
七	一二〇九二五九三六	郡香取
一〇	一六	郡海上
二	一	郡匝毘
一	一	郡山武
五	一二	郡君津
一	一	郡安房
一	一	縣茨城
二	一	市東京
一	一	川神奈
三	一二	縣埼玉
一	一	縣愛知
一	一	道北海
一五三	一四一六 二二三九四六四〇三	計
	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	平
	〇〇〇〇〇〇二〇四 一一九六二四九七二	均

新更會一覽

三、研究會

會名	月日	主催	場所	參加者	課題
俳句會	每月二十五日	本會	本會館	二〇(平均)	俳句講評
俳句大會	昭和八年九月十四日	本會	本會館	七〇	俳句講評
短歌會	每月末	本會	本會館	二〇(平均)	短歌講評

四、行事

名稱	月日	主催	場所	參加者
建國祭	二月十一日	新更學院	新更學院	七〇

五、講演會

會名	月日	主催	場所	聽衆	講師	講題
支部出張講演會	昭和八年三月九日	本會	茨城縣根本支部	一〇〇	澤田五郎	農村新更論
同	四月九日	本會	同縣大須賀支部	八〇	大友惟誠	實踐倫理
同	四月二十三日	本會	川上支部	四〇	塩田節子	作法講習(女子部)
同	四月九日	本會	豐住支部	一〇〇	兒玉九十	日本現狀と吾等の覺悟
同	四月十五日	本會	中郷支部	三五〇	谷田繁太郎	時局問題

新更會一覽

會名	月日	主催	場所	聽衆	講師	講題
同	八月二十七日	本會	山武郡大平支部	五〇	廣岡城泉	大平洋時代來る
同	九月十八日	本會	靜岡縣藤枝支部	三〇〇	兒玉九十	世界經濟の狀況
同	九月五日	本會	久住支部	一〇〇	兒玉九十	日本の將來と青年の覺悟
同	九月二十日	本會	中郷支部	三〇	廣岡城泉	非常時の覺悟
同	十月十五日	本會	千代田支部	七〇	河野八郎	産業組合に就て
同	十一月二十六日	本會	豐住支部	三〇〇	谷田繁太郎	時局問題
同	十一月二十三日	本會	川上支部	二五〇	谷田繁太郎	時局問題
同	十一月二十五日	本會	八街實住小學	一五〇	神崎照惠	非常時と創造精神
同	十二月三日	成田清學院	清聚學院	一〇	神崎照惠	無私の努力
同	十二月十八日	本會	成田支部	三〇〇	中岡彌高	世界文明の轉換と日本臣民の覺悟
同	十二月十三日	本會	八生支部	一〇〇	兒玉九十	非常時青年の覺悟
同	昭和九年一月二十八日	本會	千代田支部	八〇	兒玉九十	時局に就て
同	二月十五日	八生農學校	八生農學校	一五〇	大友惟誠	實踐倫理
同	二月十四日	本會	中郷支部	六〇	高神覺昇	青年と信仰
同	二月十八日	本會	富里支部	八〇	高神覺昇	日本精神と現代思想
同	二月十四日	本會	遠山支部	二〇〇	高神覺昇	日本精神と佛教
同	二月二十四日	本會	豐住支部	六〇	古谷義治	衛生講話
出張講習會	二月二十五日	本會	女子支部	六〇	永野照健	農産加工實習

支部出張講演會	三月一日	本會	久住支部	二〇〇	高神曼昇	日本精神に就く
同	三月四日	本會	(第二) 二川支部	五〇	澤田五郎	非常時と青年の覺悟
同	三月十八日	本會	川上支部	二〇〇	瀧波少佐	時局に就て

六、新更學院

新更學院學則

第一章 總則

- 第一條 本學院ハ新更會ノ趣旨ニ基キ短期間ニ日本臣氏トシテノ徳性ヲ涵養シ兼ネテ中等程度ノ諸學科ヲ教授スルヲ以テ目的トス
- 第二條 修業年限ヲ一ケ年トス
- 第三條 學年ヲ三學期ニ分ツ
- 第一學期 四月一日ヨリ 八月三十一日ニ至ル
- 第二學期 九月一日ヨリ 十二月三十一日ニ至ル
- 第三學期 一月一日ヨリ 三月三十一日ニ至ル
- 第二章 學科課程、每週教授時間及休日
- 第四條 學科課程及每週教授時數左ノ如シ

學科	時數	課程
學科	一	國民道徳一般要旨、作法
修身	一	法制上、經濟上、社會上ノ一般要旨
公民	二	佛典講讀
佛敎	六	國文講讀、作文
國語	一	楷書、行書、草書ノ三体
漢文	四	漢文講讀
英語	一	讀方、解譯、作文
數學	四	算術、代數、幾何
歷史	三	日本、外國歷史
地理	三	日本、外國地理
音樂	一	單音唱歌、及樂典ノ大要
珠算	一	加減乘除
農業	一	學科及實習
商業	一	商業大意
學校教練	六	學校教練

- 第五條 休日ハ左ノ如シ
- 祝日祭日 日曜日 節分 成田山祇園會當日
- 春期休業 四月一日ヨリ 四月七日ニ至ル
- 夏期休業 八月一日ヨリ 八月三十一日ニ至ル

冬期休業 十二月十六日ヨリ 一月七日ニ至ル

謹責 謹慎 停學 退學

第四章 試驗、卒業

- 第十三條 試驗評點ハ凡テ一科目一百點ヲ以テ滿點トス
- 第十四條 平均點六十點以上ヲ得タル者ヲ合格トシ卒業證書ヲ授與ス

第五章 制服

- 第十五條 生徒登校ノ時ハ必ず制服制帽ヲ用フベシ
- 第十六條 制服ハ千葉縣青年訓練所生徒制定服ニ準ズ
- 第十七條 制帽ハ千葉縣青年訓練所生徒制定ノ帽子ニ準ジ本校ノ徽章ヲ附スベシ
- 第十八條 穿物ハゴム底、厚底足袋又ハ靴トシ脚絆又ハ卷脚絆ヲ用フベシ
- 第十九條 制服ヲ汚損シタルモノ又ハ身体上ノ故障ニヨリ着用不能ナルモノハ許可ヲ得テ代用服ヲ着用スルコトヲ得
- 第二十條 代用服ハ筒袖ニシテ袴ヲ着用スベシ

新更學院職員

- 院長 荒木照定
- 主幹兼教師 澤田五郎
- 常任幹事兼教師 神崎照惠

- 第三章 入學、退學、授業料、罰則
- 第六條 本學院ニ入學シ得ベキ者ハ高等小學卒業ノモノ又ハコレト同等以上ノ學力アリト認メラレタルモノニシテ滿十四才以上ノモノタルベシ
- 第七條 入學志願者ハ規定ノ入學願書ニ履歷書及戶籍抄本ヲ添ヘテ差出スベシ
- 第八條 入學許可ヲ得タルモノハ在學證書ヲ差出スベシ保證人ハ父兄親戚ノ一家計ヲ立ツル者又ハ身許引受人ニ限り當該生徒在學中ニ係ル一切ノ事項ニツキ其責任ズベキモノトス
- 第九條 退學セントスル者ハ保證人連署ヲ以テ出願スベシ
- 第十條 授業料ハ毎月一圓トス但シ八月ハ之ヲ徵收セズ
- 第十一條 左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ除籍ス
- 一、性行不良ニシテ改善ノ見込ミナシト認メタル者
 - 二、引續キ一學期以上缺席シタル者
 - 三、正當ノ理由ナク引續キ一ケ月以上缺席シタル者
 - 四、出席常ナラザル者
- 第十二條 生徒ニシテ規則命令ニ違反シ學院内ノ風紀ヲ害シ又ハ生徒ノ本分ニ背キタル者ハ其ノ輕重ニヨリ左ノ懲戒ヲ加フ

九、出版物

書名	著者名	發行所	發行日	發行部數	種目
理の世界と智の世界	文學博士 高楠順次郎	新更會刊行部	七月一日	二〇〇	宗
新更論集(第一卷)	新更會編纂	新更會刊行部	四月十日	五〇〇	學
新更論集(第二卷)	新更會編纂	新更會刊行部	十二月廿三日	五〇〇	學
月刊新更	新更會編纂	新更會刊行部	每月十日	四〇、〇〇	雜誌

十、巡回文庫運用

貸出支部名	貸出文庫號數	貸出日	返納日	閱覽人員	書冊覽數	内容
豐住支部	第三號巡回文庫	昭和八年十月十三日	昭和八年十一月二十日	三〇	三〇	
全	第四號全	昭和八年十一月二十日	昭和九年一月十日	二四	三七	
全	第五號全	昭和九年一月十日	三月一日	五八	六二	
中郷支部	第一號全	昭和八年九月十三日	昭和八年十一月二十日	五〇	七五	
全	第二號全	昭和九年十一月二十日	昭和九年一月十日	一七	一四	
全	第四號全	昭和九年二月二十八日	四月二十日	五三	五三	
久住第一支部	第二號全	昭和八年九月十三日	昭和八年十一月二十日	四〇	五六	
全	第五號全	昭和八年十一月十三日	昭和八年十二月七日	五五	六三	

殊識知般一及養修ノ年青

十一、會議

會名	月日	主催	場所	参加者數	課題
全安食支部 第一號全	十二月六日	本會	本會館	十八名	合宿講習に關する希望如何 新更誌代徵集に關する件 支部活動につきその經濟の支出法如何
遠山支部 第三號全	十二月二十四日	本會	本會館	十名	理事改選
松尾支部 第七號全	昭和九年一月二十七日	本會	本會館	十八名	
八街青年團 第五號全	四月八日	本會	本會館	十八名	

ノモルセ適ニ村農ニ

2582
別庫
101